

より魅力と活力に溢れる玉川大学の
教育創造のための基礎調査

調査結果報告書

玉川大学

目次

I. 調査実施概要	1
調査概要	2
Q1. 卒業学科を教えてください。	4
Q2. 性別を教えてください。	5
Q3. 年齢を教えてください。	7
Q4. 職業を教えてください。	9
Q9. 本学への入学形態はどれですか。	11
II. 調査結果と考察	13
1. 入試・広報	21
Q5. 本学受験を決めた時期はいつごろですか。	22
Q6. 本学受験を決めたきっかけはなんですか。	24
Q7. 本学受験を決めた理由はなんですか。	26
Q8. 本学の志望順位はどこですか。	28
Q10. 入学時に期待していたことはなんですか。	30
Q11. 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか。	32
Q12. 本学のイメージはあなたの周囲ではどのようであると思いますか。	34
Q13. 本学の“学費”は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか。	36
2. 教務	39
Q14. 本学の教育において不満を感じたものはなんですか。	40
Q15. 卒業後本学を訪ねたことがありますか。	46
Q16. 本学の卒業生として誇れることはなんですか。	48
Q17. 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか。	50
Q18. 授業内容の理解に努力しましたか。	52
Q19. 自分が打ち込める科目はありましたか。	54
Q20. 意見や考えを求められる授業はありましたか。	56
Q21. 資格取得につながる科目はありましたか。	58
Q22. 在学中、資格取得や語学などの学校に通っていましたか。	60
Q23. 授業等において熱意を感じる先生はいましたか。	62
Q24. 卒業研究担当教員の指導に満足しましたか。	64
3. 学生生活	67
Q25. 不安や悩みを相談した相手は誰ですか。	68
Q26. アルバイトはしていましたか。	70
Q27. クラブ・サークル活動に参加していましたか。	72

Q28. コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか。.....	74
Q29. 昼食はどのようにとっていましたか。.....	76
Q30. 空き時間によく利用した場所はどこですか。.....	78
Q31. 印象に残っている行事はなんですか。.....	80
4. 就職.....	83
Q32. 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか。.....	84
Q33. 就職活動時に参考にした情報源はなんですか。.....	86
Q34. 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか。.....	88
Q35. 就職指導の観点から重要だと感じたものはなんですか。.....	90
Q36. 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものはなんですか。.....	92
Q37. 最初の就職先に現在も勤務していますか。.....	94
Q38. 最初の就職後、自分に不足していたと感じた能力はなんですか。.....	97
5. 生涯学習.....	99
Q39. もう一度学びたい分野はありますか。.....	100
Q40. もう一度学ぶ場合の手段はなにを選びますか。.....	102
Q41. 現在取得している資格をグレードアップしたいですか。.....	105
Q42. 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか。.....	108
Q43. 本学公開講座についてどのような“地理的条件”であれば参加したいですか。.....	110
Q44. 本学公開講座についてどのような“時間的条件”であれば参加したいですか。.....	112
Q45. 現在興味・関心のあることはなんですか。.....	114
6. 教育信条.....	117
Q46. 在学中に本学の使命や教育信条を理解していましたか。.....	118
Q47. 本学の使命や教育信条がカリキュラムに反映していたと思いますか。.....	121
Q48. 現在の生活の中で本学の使命や教育信条が生かされていると思いますか。.....	123
7. 満足度.....	127
Q49. 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか。.....	128
Q50. 大学生活の満足度は100点満点中どのくらいですか。.....	130
III. 資料.....	133

I . 調査実施概要

より魅力と活力に溢れる玉川大学の教育創造のための基礎調査

1. 調査の目的

1998年に、卒業生を対象に将来の本学のあるべき大学像を問う「21世紀に向けて、より魅力と活力に溢れる玉川大学の教育創造のための基礎調査」を実施した。定点観測として、2007年度に同様のアンケート調査を実施した。そのなかで、本学の教育信条の成果についてもあらためて調査した。調査結果に基づく検証を通じて、大学の使命とその責任について考察し中長期教育研究活動に資する。

2. 調査の内容

(1) 調査項目

質問紙調査、マークシート方式による多項選択回答(50問)と自由記述回答(8問)の2部構成とする。調査項目は以下の5分類である。

- a. 入学に関する事項(入学試験、入試広報、情報、期待、イメージと実際)
- b. 教育に関する事項(教育信条、カリキュラム、授業、教員、担任)
- c. 生活に関する事項(学生生活、友人、課外活動、施設・設備)
- d. 就職に関する事項(職業、将来、情報、相談)
- e. 現在に関する事項(仕事、生涯学習、公開講座、卒業生としての意識)

(2) 調査対象

1996～2001年度本学卒業生から無作為に抽出した2,519名

※卒業してある程度の社会経験を積み、大学の現状よりかけ離れすぎない等を考慮し、卒業後5～10年の者を対象とする。

(3) 調査方法

- ①同窓会事務部の協力を得て調査対象者を抽出し OMR の専用用紙によるアンケートを郵送
- ②調査対象者から記入済みアンケート用紙(無記名)を郵送により回収

(4) 実施時期: 2007年11月29日～2008年1月7日

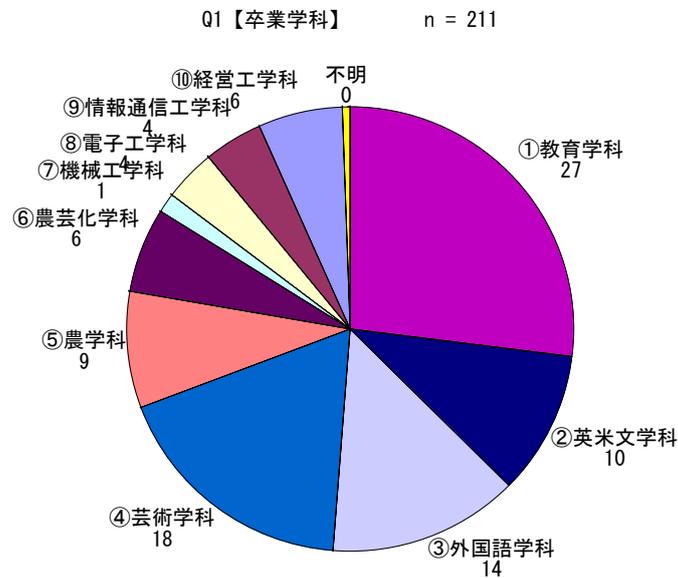
(5) 有効回答数: 211(回収率: 8.4%)

3. 回答者のプロフィール

Q1. 卒業学科	実数(回答者数／調査者数)				回収率 (%)		
	男性	女性	不明	合計	男性	女性	合計
1. 教育学科	13/111	44/345	0	57/456	11.7	12.8	12.5
2. 英米文学科	3/91	19/315	0	22/406	3.3	6.0	5.4
3. 外国語学科	3/46	26/311	0	29/357	6.5	8.4	8.1
4. 芸術学科	3/65	35/330	0	38/395	4.6	10.6	9.6
5. 農学科	4/91	14/84	0	18/175	4.4	16.7	10.3
6. 農芸化学科	7/79	6/88	0	13/167	8.9	6.8	7.8
7. 機械工学科	3/132	0/5	0	3/137	2.3	0.0	2.2
8. 電子工学科	7/129	1/14	0	8/143	5.4	7.1	5.6
9. 情報通信工学	4/120	4/21	1	9/141	3.3	19.1	6.4
10. 経営工学科	10/122	3/20	1	14/142	8.2	15.0	9.9
合計	57/986	152/1,533	2	211/2,519	5.8	9.9	8.4

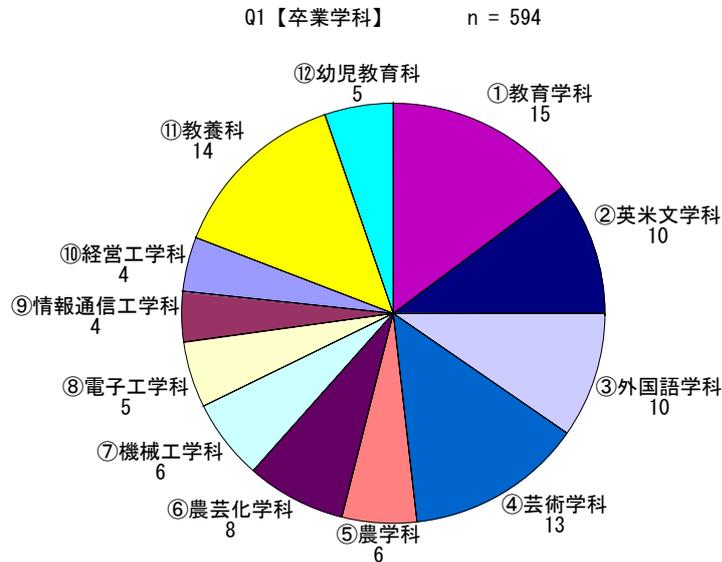
Q1. 卒業学科を教えてください

<2007 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

<1998 年>



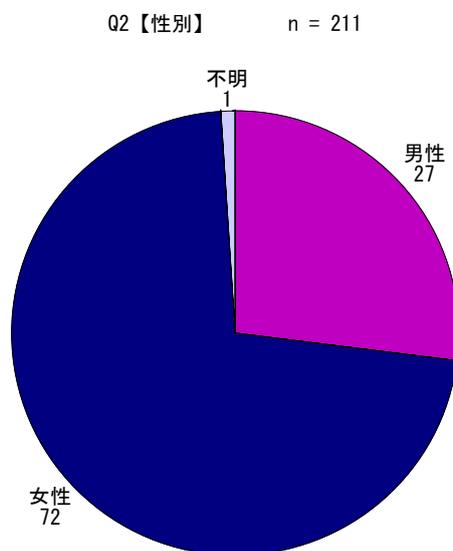
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

今回の回答者のプロフィールを前回と比較すると、学科別では、教育学科(+12)、芸術学科(+5)であった人の割合が前回と比較して高くなり、機械工学科(-5)であった人の割合が若干低くなった。

なお、今回の調査において文学部 4 学科以外の回答者数が 20 人以下と少なく、単独での考察及び比較する対象からはずしている。

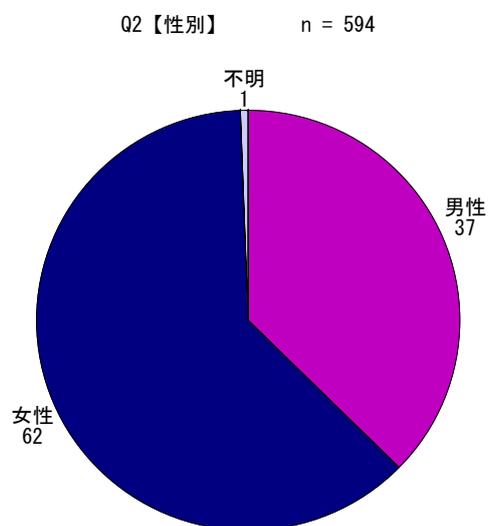
Q2. 性別を教えてください

<2007 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

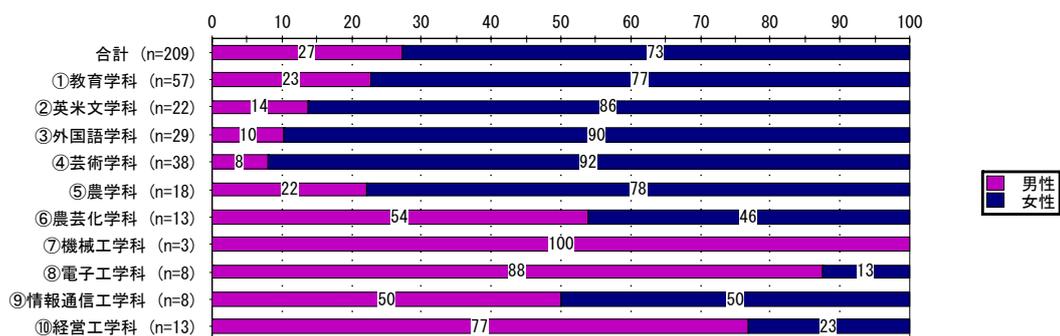
<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

また男女別では、女性(+10)の割合が前回よりも高くなった。

■ 卒業学科の内訳



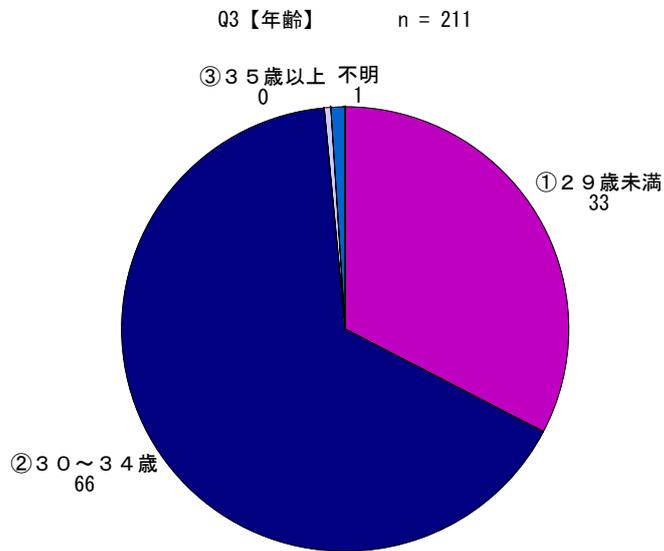
Q2【性別】 × Q1【卒業学科】

※ 不明 2 を除く。

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

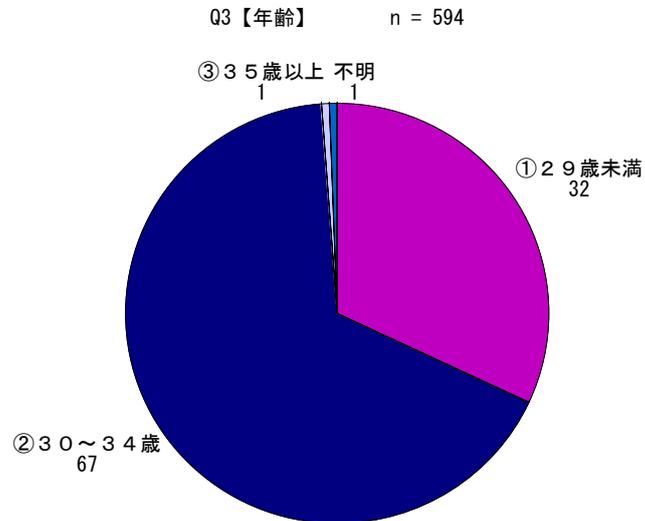
Q3. 年齢を教えてください

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

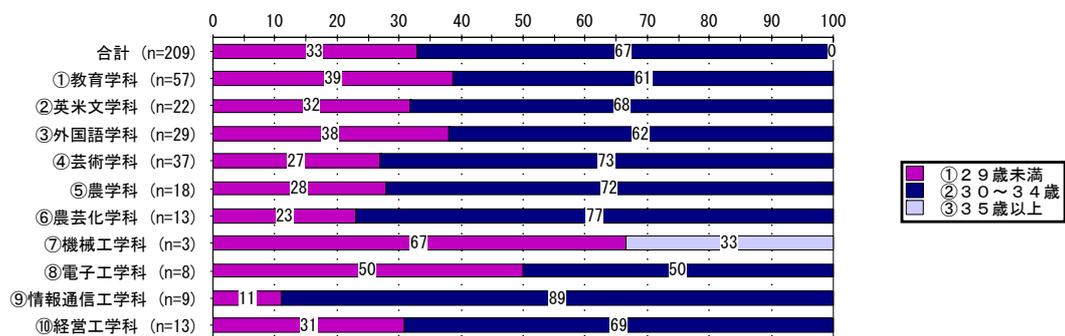
<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

回答者の年齢構成については前回と特に顕著な差は見られなかった。

■ 卒業学科の内訳

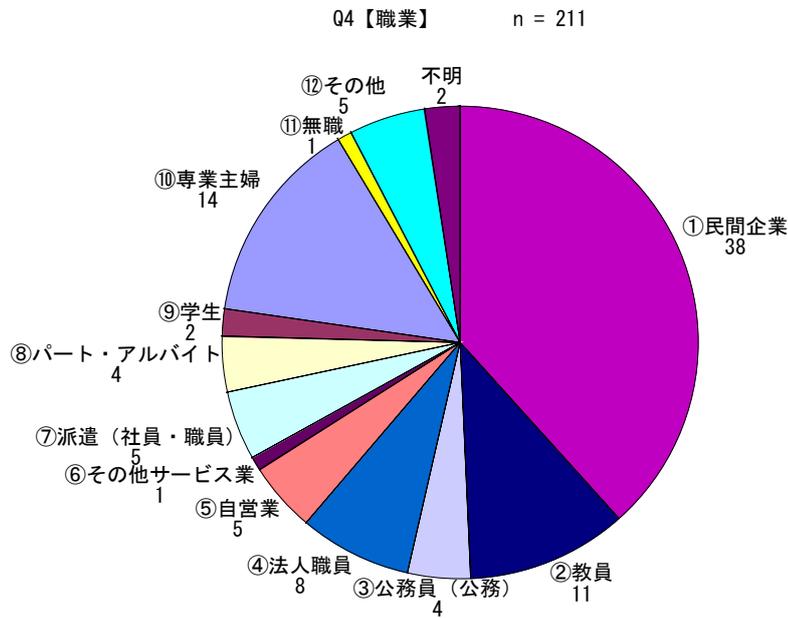


Q3【年齢】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q4. 職業を教えてください

<2007年>

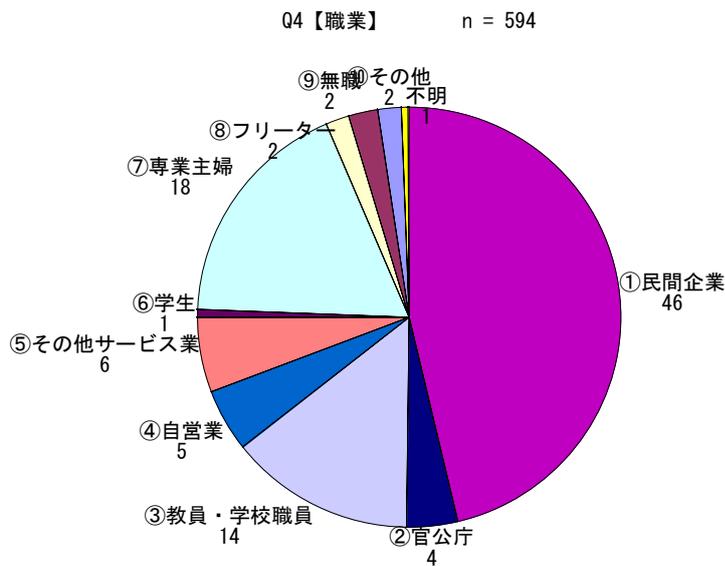


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑫その他」を選択した 11 件のうちの記述回答は以下の通りである。

団体職員	3	医療事務	1
(バレエ)ダンサー	2	看護師	1
会社代表	1	自然体験活動	1
ピアノ講師	1		
計			10

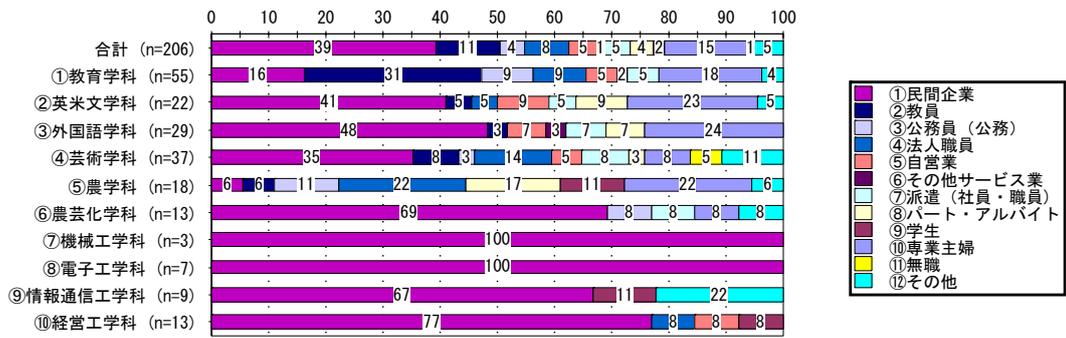
<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

職業については、「①民間企業(-8)」、「⑥その他サービス業(-5)」を選択した人の割合が若干低くなった。

■ 卒業学科の内訳

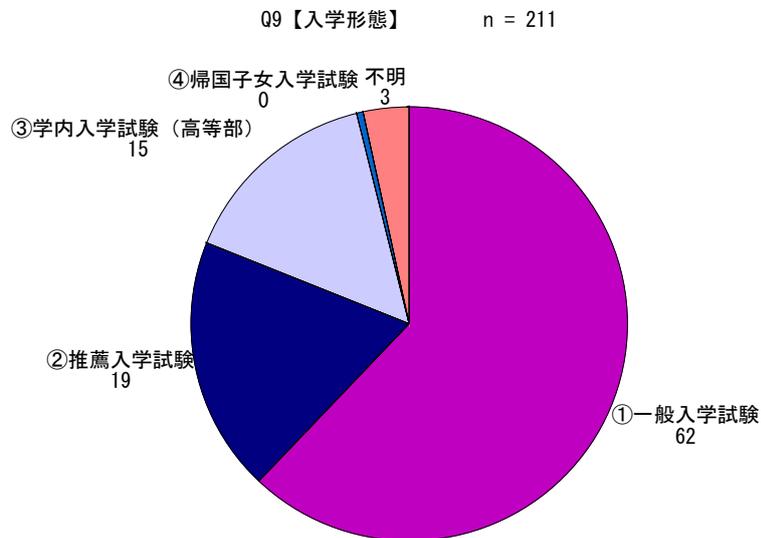


Q4【職業】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

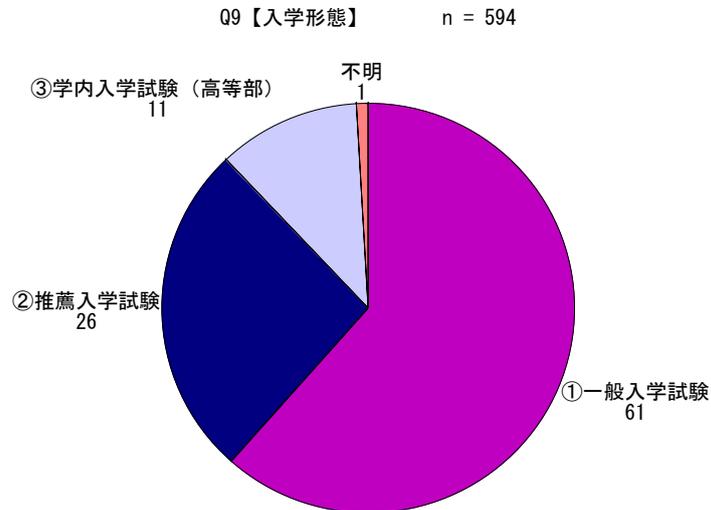
Q9. 本学への入学形態はどれですか

<2007 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

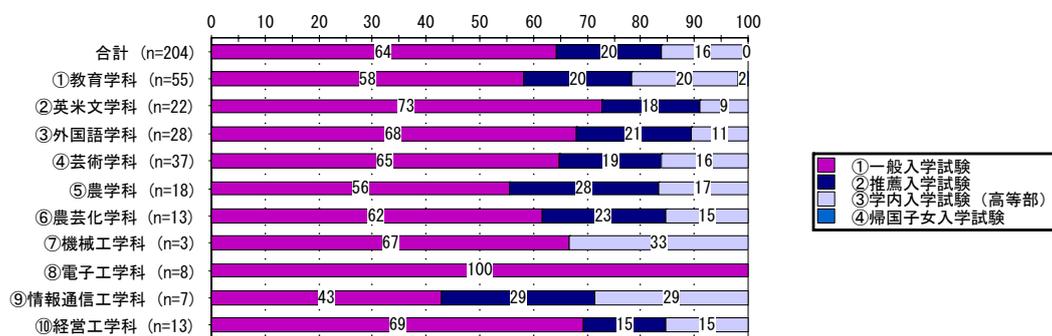
<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

また、入学形態については、「②推薦入学試験」を選択した人の割合が7ポイント低くなった。

■ 卒業学科の内訳



Q9【入学形態】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Ⅱ. 調査結果と考察

I. はじめに

定点観測調査として 1999 年に続いて 2007 年に実施した「より魅力と活力に溢れる玉川大学の教育創造のための基礎調査」において、本調査の集計結果とクロス分析結果及び 1999 年度との比較対照、そして今後の課題について考察する。各質問項目の詳細については、次章以降の結果を参照されたい。

まず、今回の調査結果に関しては、特性のあるサンプルによる慎重な解釈になることを予め断っておく。

その理由としては、2 回の調査を比較して最も特徴的な変化が認められる回収率の低下であり、前回の 25.1%から 8.4%と大きく落ち込んだ。また、回答数が学科によっては 20 件を切り十分な数と言えず、調査結果の学科ごとの詳細な比較には至っていない。さらに、統計的に、性別による回答率*1、及び学科による回答率*2 のいずれにも有意差が認められた。つまり、回答は女性から多く寄せられ、また学科により回答率に多寡があるといえる。

表 1. 回答者の属性 (Q1. 卒業学科)

Q1. 卒業学科	実数		割合	
	送付数	回答数	回収率	アンケート回答に占める割合
1. 教育学科	456	57	12.5%	27.0%
2. 英米文学科	406	22	5.4%	10.4%
3. 外国語学科	357	29	8.1%	13.7%
4. 芸術学科	395	38	9.6%	18.0%
5. 農学科	175	18	10.3%	8.5%
6. 農芸化学科	167	13	7.8%	6.2%
7. 機械工学科	137	3	2.2%	1.4%
8. 電子工学科	143	8	5.6%	3.8%
9. 情報通信工学科	141	9	6.4%	4.3%
10. 経営工学科	142	14	9.9%	6.6%
合計	2,519	211	8.4%	...

表 2. 回答者の属性 (Q2. 性別)

Q2. 性別	実数		割合	
	送付数	回答数	回収率	アンケート回答に占める割合
男性	986	57	5.8%	27.0%
女性	1,533	152	9.9%	72.0%
合計	2,519	209	8.3%	...

II. 調査対象分野の考察

1. 入試・広報

回答者の属性は、Q9. 入学形態の結果より、62%が一般入学試験、34%が推薦入学試験と学内入学試験の入学者である。よって、約 1/3 が本学の特徴や教育内容についてある程度理解した

*1) $\chi^2_{(0.05)}=13.48>3.84, df=1$ *2) $\chi^2_{(0.05)}=25.88>16.92, df=9$

上での入学者であることを念頭において概観したい。また、教育学科が 27.0%、1/4 以上であることも付け加える。

Q5. 本学受験を決定した時期に関して、Q8. 志望順位で「第一志望」を選択したグループは「中学生時代」「高校 2 年生」を選択した割合が全体と比較して高く、早い時期から本学を希望している。また、Q9. 入学形態で「一般入学試験」を選択したグループは「高校 3 年生」、「高校卒業後」を選択した割合が高く、遅い。約半数が本学を第一希望とし、そのうち推薦と内部も早い時期に本学を希望したと想定できるために、残りの 15%程度は第一志望で一般入学試験により入学した卒業生であったと推測できる。なお、教育学科の卒業生の 7 割は第一志望と回答している。

Q6. 受験を決意したきっかけ(複数回答)は、70%は自分の意思で、45%は縁者・教師に勧められたと回答している。第一志望で入学したグループは、「親・親戚に勧められた」を選択した割合が全体と比較して高く、身近なものの勧めは有効に働く。

Q7. 志望理由(複数回答)は「志望学科」6 割「校風」4 割であるが、「志望学科」「取得資格・免許」が前回より増えているのは教育学科の回答者の割合が多いことによると考えられる。

Q10. 入学時の期待は「専門分野の学習」が 7 割と最も多い。「友人」「全人教育」は減少し、本学独自性の重要性が低下した評価となった。教育学科では特徴的な回答と思われる「資格取得」は変化がないため、この結果は全学的な傾向を示しているといえる。一方で、第一志望を選択したグループは「全人教育」への期待は高く、入学前より本学に対してある程度の理解を持っていたと考えられる。

Q11. 本学を勧めるかという質問項目に対しては、前回と同じ、8 割が「勧める」「まあまあ勧める」と回答した。クロス分析の結果、この項目と正の相関関係が強かった質問項目に Q48(1). 生活の中での活用、Q49. 大学で学んだことの役立ち感がある。2. 教務で述べる授業や教員、就職の満足度が高いものは、「勧める」とした回答が多いという結果が得られた。学生時代に得られた価値や経験が期待した以上の満足いくもので、現時点でも色褪せないとなれば、「勧める」という行為につながるといえる。

Q12. 本学のイメージは、「学費が高い」「お坊ちゃん・お嬢ちゃん学校」とこれもまた前回調査と変わらない。「その他」の回答に教員養成に関する記述が 4 件あった。一方で「知名度低下」という回答の増加の兆しも看過できない。続いて、Q13. 教育内容や施設・設備に対する学費の評価に関して、「高い」「やや高い」を併せると 9 割となり、特に「高い」という割合が 12%増の 46%、約半数となった。高いと感じる人が少ないグループは本学を「勧める」と回答し、生活の中で本学の使命や教育信条が今なお生かされていると感じている層である。本学を「勧める」「まあまあ勧める」が 8 割あるとはいえ前回より 7%減少したことを考え併せると、費用対効果は悪化の兆候がある。費用対効果を高めることや卒業後にも応用できる教育内容を提供するよう改善が急がれる。

2. 教務

Q16. 卒業生として誇れることは「自然環境」「友人」「師弟関係」「研修(教養)行事」「施設・設備」と続くが、研修(教養)行事が 53%から 20%へと激減している。他方、Q17. 本学の教育に期待することとして「社会人としてのマナー」「一般知識」「高度な専門知識」「基礎的な専門知識」「資格取得」を挙げており、逆に「国際感覚」や「語学力」は重要度を下げ、素養を重視する傾向が認められる。教育内容、特に研修(教養)行事の見直しの視点となろう。クロス分析より、教育学科卒業生が

「資格取得」を選択する割合が高いことは当然のことながら、その他第一志望群は「社会人としてのマナー」に高い期待を寄せ、また現在就労しているグループからはより実的な「基礎的な専門知識」「資格取得」を挙げる結果が出ている。前項 1. 入試・広報において、入学の際には「志望学科」を重視し「専門分野の学習」に期待が高かったことを考えると、卒業後はより本学に特徴的な視点、調和のとれた「全人教育」が再評価されると同時に「資格取得」に繋がる学修を促すよう変化が伺われる。

学生時代を振り返ってみて、Q18. 授業に臨む態度の向上、Q19. 打ち込める科目／Q20. 参画する授業／Q21. 資格取得につながる科目の存在、Q23. 教員に対する満足度の高さはいずれも正の相関関係があることがクロス分析の結果から浮かび上がり、これは回答者に教育学科の卒業生が多いことと無関係ではないと考えられる。また、Q24. 卒業研究担当教員の指導に対して満足と答えた回答者も教育学科卒業生が多い。クロス集計の結果、この設問と相関関係が認められた項目に、Q14. 教育に対する不満、Q16. 本学が誇れること、Q23. 熱意を感じた教員が挙げられた。卒業研究は学修成果の集大成という位置づけで臨む教員も多く、この回答が教務関係を全体的に評価する適切な弁別指標となるかについて継続的な追跡調査を実施し、その信頼性を高めて妥当性を検証する必要がある。

最後に Q14. 不満を尋ねる質問項目では、マークシート及び別紙の自由記述回答を含めて学内食堂(質や値段、営業時間)、図書館の専門書(質量とも)、コンピュータ(量)に対する不満が多く寄せられた。また練習室の不足を含めて施設・設備の有効活用を望む声が聞かれた。教室移動時間の少なさへの不満は自由記述回答にも散見され、時間割のさらなる配慮を検討する必要がある。なお、現在では、コンピュータ施設や ICT 環境は 5 年前と比較し格段に改善され、図書館や食堂についても新たな施設建設計画が進みつつある。本項目の調査結果は、5～10 年前の卒業生が在学中に感じていた不満であり、その後改善された項目とまだ改善されていない項目に区分した後に、改善に資する材料とする必要がある。

3. 学生生活

基調として本学では、アルバイトやサークル活動には慎重な姿勢を取り、低調であったことが背景にある。Q26. 回答よりアルバイトは「長期休暇中」が減少、「していなかった」「週末のみ」が増加となったが、その裏返しに、別紙の自由記述回答においては、社会経験を積んだり社会人へのスムーズな移行の機会としてアルバイトの意義・重要性を認める声が多かった。

Q27. 課外活動や、Q28. 大学の行事としてコスモス祭や収穫祭に関して、参加が多少増え活性化された様子が伺えるが、これもまた一方で、サークル活動の参加を認めてほしかったという自由記述の回答が目立った。

Q29. 昼食は 5 割近くが学内食堂を利用したという結果であるが、Q14. 不満を聞いた質問項目の回答により、その質、値段、営業時間に不満を感じている様子で、今後改善されることが期待される。

Q30. 空き時間に利用した場所としても学内食堂が 3/4、そして空き教室、図書館、コンピュータ施設の順となる。「その他」欄の記述には、部室、練習室・専科教室という回答が多い。本学の敷地は広いが、いわゆる学生の居場所が少ないことを示唆しているのではないかと考える。

Q31. 印象に残っている行事は「音楽祭」「体育祭」「研修行事」「コスモス祭」が挙がり、その他自

由記述でも演奏会や礼拝(含クリスマス礼拝)、工場実習、農場実習、卒論・ゼミ、労作と、人間性を涵養する全人教育を理念とする本学において必須のカリキュラムが列挙された形である。

4. 就職

今回の調査対象は主に就職氷河期に活動した卒業生である。また、就職情報サイトの活用など、前回調査時と社会の環境や求職活動のスタイルが大きく変化した時期であり、単純な比較が難しい分野である。要望も多く、就職指導・ガイダンス・個別指導の充実を求める回答が Q34 や Q35 に寄せられた反面、就職活動をしなかった層が 20%弱存在する。教員志望、芸術分野の特異性、コネクションのある環境は本学に特徴的といえる。

Q36. 就職活動を終えての評価は、「一般知識」「積極性・行動力」「専門知識・技術」が不足していたと感じており、これらは卒業時における質の保証を検証する上でも有効な観点となる。

Q37(1). 卒業後 3 年以内に転職したのは約 30%であるが、前回の調査時とは社会状況が異なっている。別紙の自由記述回答でも、卒業生に継続的な就職支援を望む声が寄せられ、時代の変化を映している。Q37(2). 転職理由は仕事内容や労働条件が挙げられたが、「その他」記述に「求人内容と全く異なっていた」という回答が 1 件あり、情報斡旋体制の再点検が望まれる。

Q38. 就職後不足していたと感じた能力は「企画力・創造力」「ストレス耐性」「教養」等、そして「その他」自由記述からは「専門技術・資格」「コミュニケーション能力」が挙げられた。教育内容・方法等の点検・評価のみならず、次項の生涯学習の開講科目を開発する上で示唆に富む。

5. 生涯学習

結果を概観すると、専攻分野の継続的・発展的な学修の他に、資格のグレードアップといった研修的な意味合いも含まれている。

Q39. 今後学びたい分野を問う自由記述の回答には医学・医療、法律等が挙げられたが、本学が高等教育／生涯学習部門で提供していない分野であり、どう対応するのか課題である。Q40(1). 学習の手段として、本学が提供している通信教育や公開講座という回答が未だ最も多いが、前回調査時よりその割合が 48%から 29%へと大きく減少した。Q40(2). 授業形態については、「対面授業」の希望が半数ある。

Q42. 継続的に学習していく上で課題となるのは「時間」「費用」「場所」で、別紙の自由記述結果とも符合する。Q43. 本学公開講座に参加すると仮定した場合の地理的条件として、自宅や職場近辺での参加を望む声が 6 割を占める。Q44. 時間的条件では、「週日夜間」「短期集中型」「土曜午前・午後」と続く。回答者の属性により回答が二分される。Q45. 興味や関心事は、「語学」「旅行」「料理」「芸術」「音楽」等とほぼ均等に分散した。さらに「その他」記述では、「ビジネス系」「医療系」「実務」「育児・心理・福祉」も散見される。

6. 教育信条、及び 7. 満足度

Q46(1). 本学の使命や教育信条について、「よく理解していた」「ある程度理解していた」を併せて 66%と全体の約 2/3、「あまり理解していなかった」は 26%、約 1/4 である。Q46(2). 何によって理解していたかとの問いには、授業を通しての理解が 78%と最も多い。入学案内も 28%あり、入学前から有効に機能する媒体であるといえる。「その他」記述では併設校での経験(6 件)や著書(5 件)と

いう回答が多かった。理解していなかった理由としては、「興味がなかった」「機会がなかった」がそれぞれ4割である。

Q47(1). カリキュラムへの反映について、「そう思う」「ある程度そう思う」を併せたグループは全体で2/3を占めて、その理由としてQ47(2). コアI・II、その他授業、行事教育、教員に反映されていると回答した。他方で、カリキュラムに反映されていたとは思わないと回答した層は、理由として関連性が明確でないこと、受け身の授業が多かったこと、教員から伝わってこなかったことを挙げた。本来カリキュラムは本学の使命や教育信条を反映して編成されたものであり、「機会がなかった」という25名の回答はカリキュラム再検証の必要性を示唆するものとなっている。

次に、Q48(1). 現在の生活の中で本学の使命や教育信条が生かされているかの問いに対して、60%が「そう思う」「ある程度そう思う」と回答している。クロス分析結果より、左記グループは入学前から全人教育への期待が高い層であり、今なおその価値が生き続けているといえる。前々段での結果を考え併せると、入学案内は入学前から期待を抱かせその後学生生活の質や、卒業後にも影響する可能性を秘めた媒体である。これを過小評価することなく、本学の教育導入の絶好の機会として位置づけ、その役割や機能を有効に活用することが期待される。Q48(2). さらに理由について尋ねたところ、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答したうちの39名から記述回答が寄せられ、教育理念や玉川モットー、友人を通じ、学内の至るところに刻まれた碑や自然環境からの問いかけが、日常生活において、教育現場や業務で、また心の支えとして、人間関係や子育てという機会や時期に生かされているとあった。卒業後に初めてその真髄を理解したという回答もあった。その一方で、「あまりそう思わない」「思わない」としたうちの14名からは、「意識していない、忘れていた」という意見の他に、「勉強と実務の関連性が見いだせない」「賛同していない」「理解していなかった」等と寄せられた。どのような媒体で何を伝えていくと有効であるのか検証する必要がある。

続いて、Q49. 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っているかとの問いには、7割が「そう思う」「少しそう思う」と回答した。これまでも見てきたように、自ら授業から多くを学ぼうと努力し、資格取得という目標を持ち、本学の使命や教育信条を理解し、授業・行事や卒業研究に熱心に取り組む、師弟関係も良好で、基礎的な専門知識と社会人としてのマナーを身につけて卒業し、今なお前進し続ける卒業生像を描くことができる。

Q50. 大学生生活の満足度については、80点以上は6割で、前回より6%減少した。このような小さな変化を見過ごすことなく、今後予想される大学危機の予兆と捉えて軌道修正を図り、一人でも多くの上記で描いた学生を卒業までの4年間で育てるようコミットする必要がある。大学で学修したことを生かして社会で活躍する彼らが、自信を持って後輩に本学を勧めるといった好循環を展開できるよう、本学においては教育研究活動等点検調査委員会部会・分会・専門分科会委員を始め全教職員が調査結果を真摯に受け止め、検証し、改善施策に継続的につなげていく意志と行動が求められている。私たちには、要望や期待を寄せてくれた卒業生の信頼に応える責任がある。

III. 今後の課題

前述の通り、回収率の低さは今回の調査の大きな問題である。要因として考えられるものに、調査項目に関しては質問項目の量・煩雑さ、自由記述の負荷、調査方法として郵送調査の手間、謝礼を用意しなかったこと、そして実施時期としてアンケート実施が年末であったこと、回収までの期間の短さ、結果公開までの長さ等が挙げられる。これらが単独或いは複合的に負担となって嫌気さ

れ回答率を下げたのではないかと推察される。回答の妥当性・信頼性を確保するためにも回答率を高める方策が必須である。

さらに内容に踏み込むと、今回の回収率 8.4%という数値をどう解釈すべきか、特に工学部ではアンケート送付の絶対数も少ないが、回収率が 5%を切っている学科がある。回収されたアンケートにおける工学部回答の割合も理論的な期待値は 22.4%であるが、実際は 16.1%に留まっている。逆に、母集団のなかで文学部 4 学科の送付数は 400 名前後(約 16%)と層が均等に厚いが、教育学部の回収率は 12.5%、また回収されたアンケートに占める割合も 27.0%と高く、集計結果に偏りがある。その他の学科については、回収率における期待値と実測値の差はそれほどかけ離れてはいない。この非対称的な数値と回答内容を省察し、どのように受け止めるべきか全学で議論を重ねる必要があるのではないかと考える。

より実地的な観点から、記入の依頼に関して課題が 2 点ある。回答用紙は前回調査と同じ A4 サイズ表裏に 50 問設定されていたが、前面だけの回答で裏面は未完了の回答用紙が複数枚散見された。また、ボールペンによる記入が 1 通あり、マークシート回答の読み取りができなかった。記入の指示を目立たせる工夫が必要である。

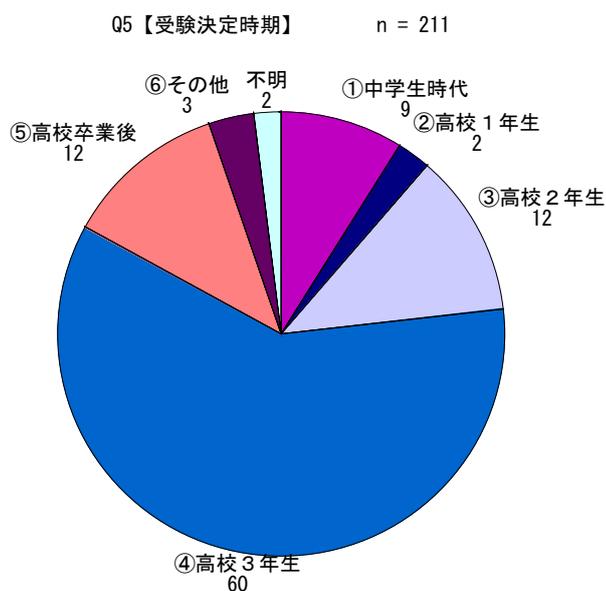
1. 入試・広報

Q5. 本学受験を決めた時期はいつごろですか

60%が高校3年生のとき

本学への受験を決意した時期を尋ねたところ、60%が「高校3年生」と回答した。前回と比較するとわずかではあるが、「中学生時代」など高校3年生になる前に決めた人が増えている。

<2007年>



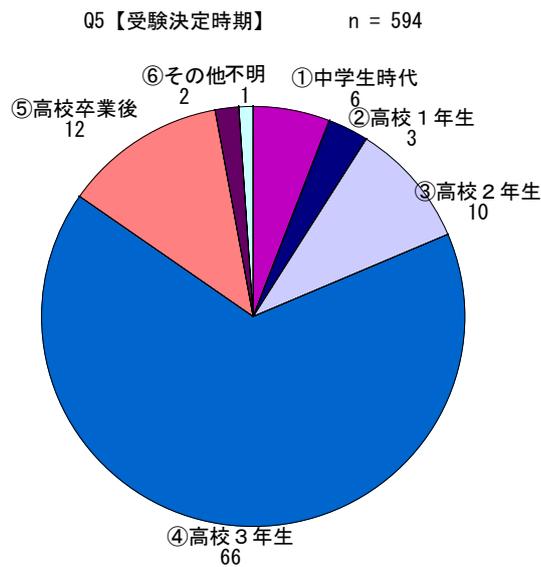
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑥その他」を選択した7件の記述回答は以下の通りである。

内部進学	6
短大在学中	1
計	7

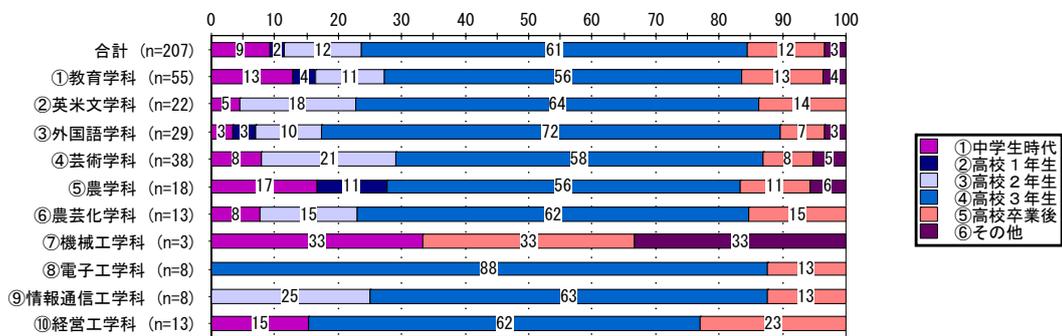
他の設問との関連としては、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「①中学生時代」、「③高校2年生」を選択した割合が全体と比較して高く、「④前記以外」(第三志望以下)を選択したグループは「⑤高校卒業後」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q9「入学形態」で「①一般入学試験」を選択したグループは「④高校3年生」、「⑤高校卒業後」を選択した割合が全体と比較して高く、逆に「①中学生時代」は低い。

<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q5【受験決定時期】 × Q1【卒業学科】

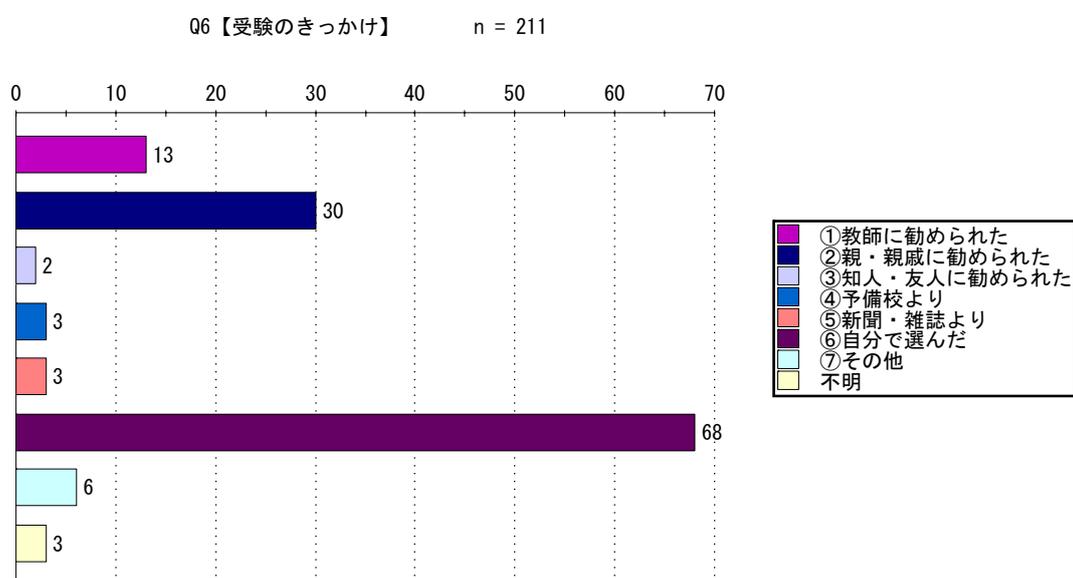
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q6. 本学受験を決めたきっかけはなんですか（複数可）

68%が自分で選んだ

本学への受験を決意したきっかけを尋ねたところ、68%が「自分で選んだ」と回答した。この数字は、前回とほとんど変わっていない。それ以外の項目については、「知人・友人に勧められた」、「教師に勧められた」と回答した割合がわずかであるが減少している。

<2007年>



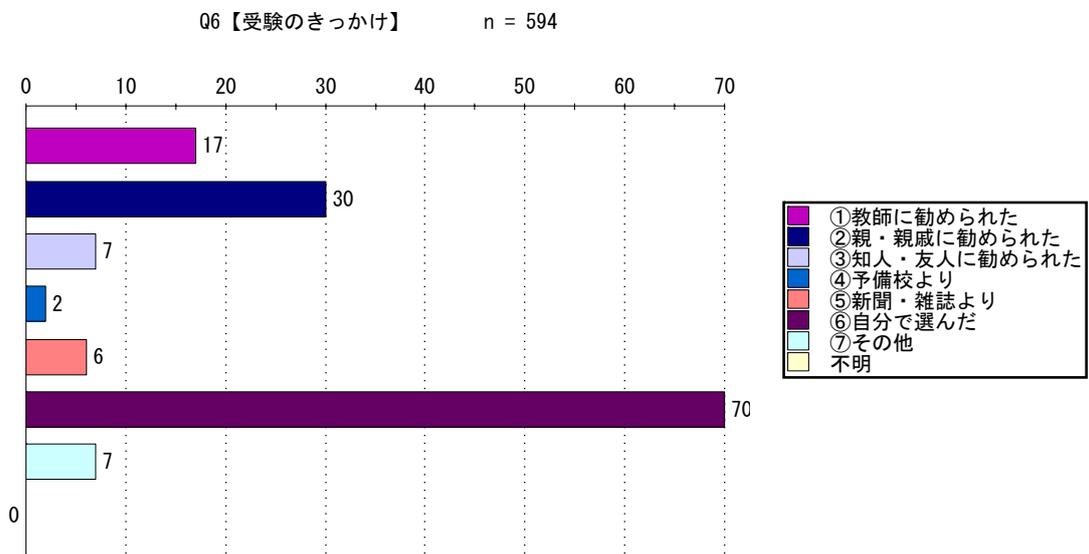
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑦その他」を選択した 13 件のうちの記述回答は以下の通りである。

指定校推薦	4
内部進学	2
姉二人が玉川に通っていた	1
学校見学	1
進学情報誌	1
すべりどめ	1
当時聴いていたラジオのパーソナリティが玉川の卒業生で、玉川の話をしていたので	1
計	11

他の設問との関連としては、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「②親・親戚に勧められた」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q9「入学形態」で「②推薦入学試験」を選択したグループは「①教師に勧められた」を選択した割合が全体と比較して高く、「①一般入学試験」を選択したグループは「②親・親戚に勧められた」を選択した割合が全体と比較して低かった。

<1998年>



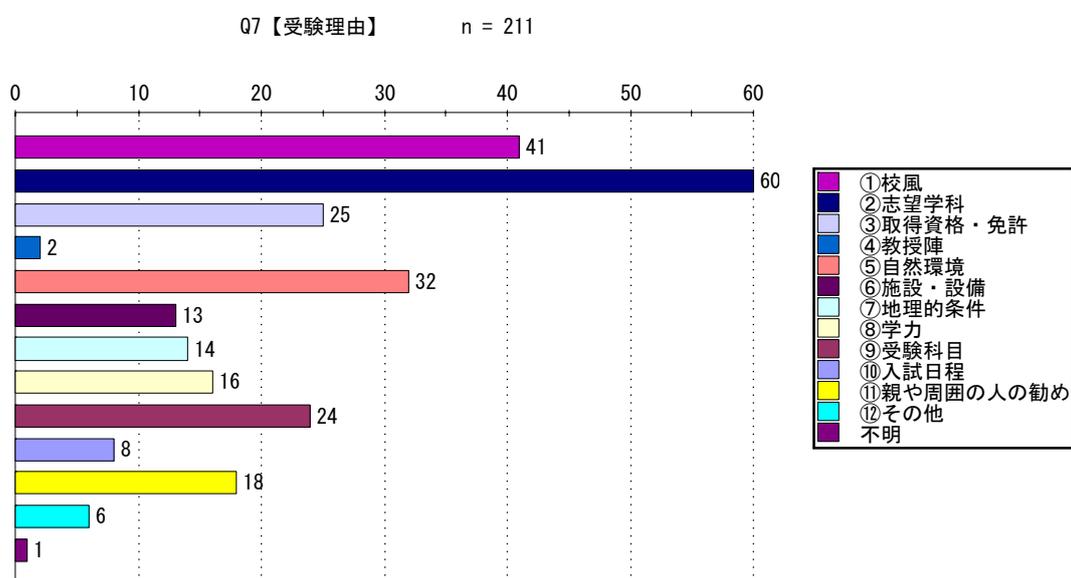
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q7. 本学受験を決めた理由はなんですか（複数可）

まずは志望学科、次に校風

本学への受験を決めた理由を尋ねたところ、60%が「志望学科」、41%が「校風」と回答した。前回は、45%が「校風」、43%が「志望学科」と回答していることより、この7年間で、校風よりも、志望学科がやや重視される変化が起きたと考えられる。また「学力」と回答した割合が大きく減少し、「取得資格・免許」と回答した割合が若干増加している。いずれも、本学を選択する基準が「学力」から「何を学び何の資格をとれる大学か」へ変わりつつあると読み取れる。

<2007年>



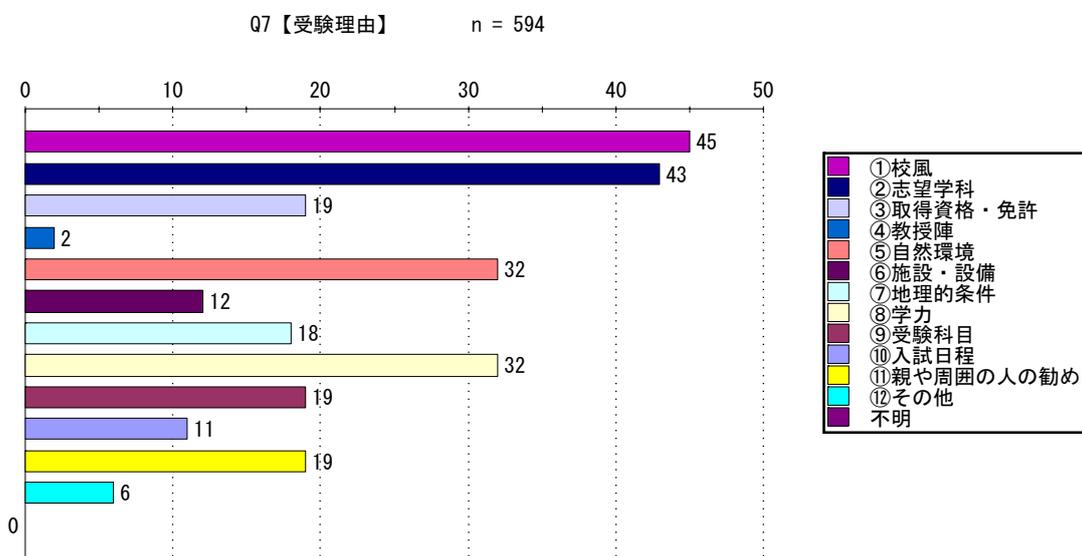
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑫その他」を選択した13件の記述回答は以下の通りである。

指定校推薦	3	礼拝堂が素敵	1
内部進学	2	人間関係	1
親戚の母校	1	講義内容	1
カリキュラム(少人数教育など)	1	部活動	1
就職率が良かった	1	イメージ	1
計			13

他の設問との関連としては、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「①校風」、「③取得資格・免許」を選択した割合が全体と比較して高く、「⑨受験科目」を選択した割合は低かった。また、「④前記以外」(第三志望以下)を選択したグループは「⑩入試日程」を選択した割合が全体と比較して高い。さらに、Q9「入学形態」で「①一般入学試験」を選択したグループは「⑧学力」、「⑨受験科目」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



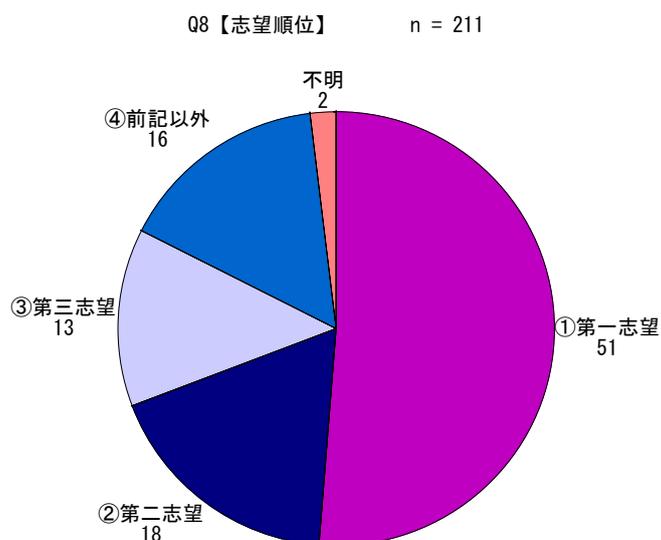
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q8. 本学の志望順位はどこですか

51%が第一志望

本学の志望順位を尋ねたところ、51%が「第一志望」と回答した。また、「第一志望」でも「第二志望」でもないとは回答したが29%もいた。この数値は前回とほとんど変化がなかった。

<2007年>

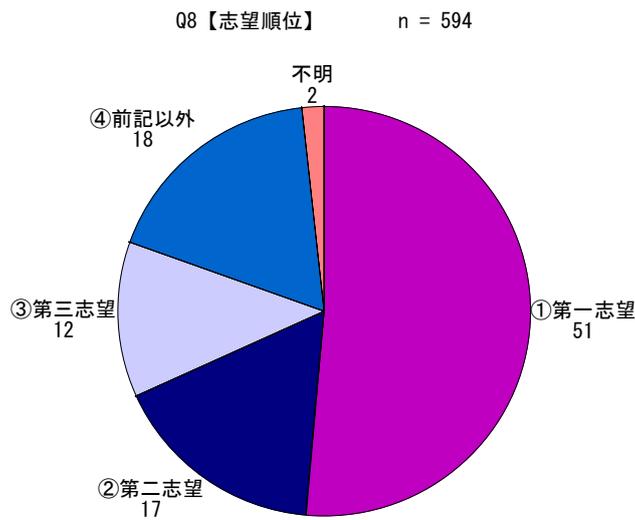


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

学科別では、教育学部は第一志望の割合が高く、英米文学科、外国語学科は第一志望の割合が低い。

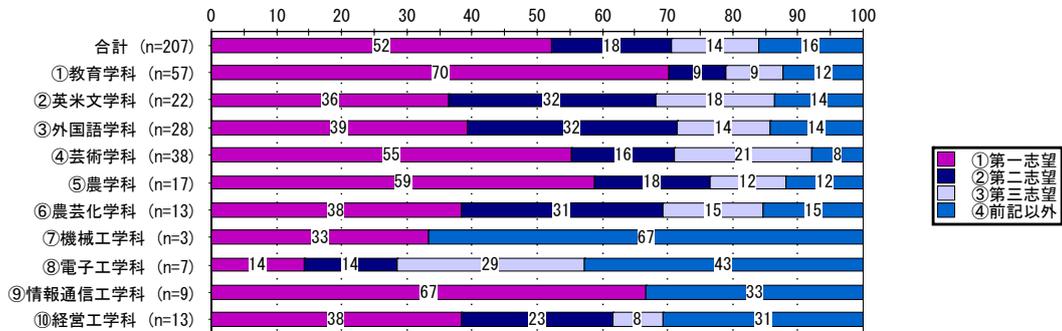
他の設問との関連としては、Q9「入学形態」で「①一般入学試験」を選択したグループは「②第二志望」、「③第三志望」、「④前記以外」(第三志望以下)を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q8【志望順位】 × Q1【卒業学科】

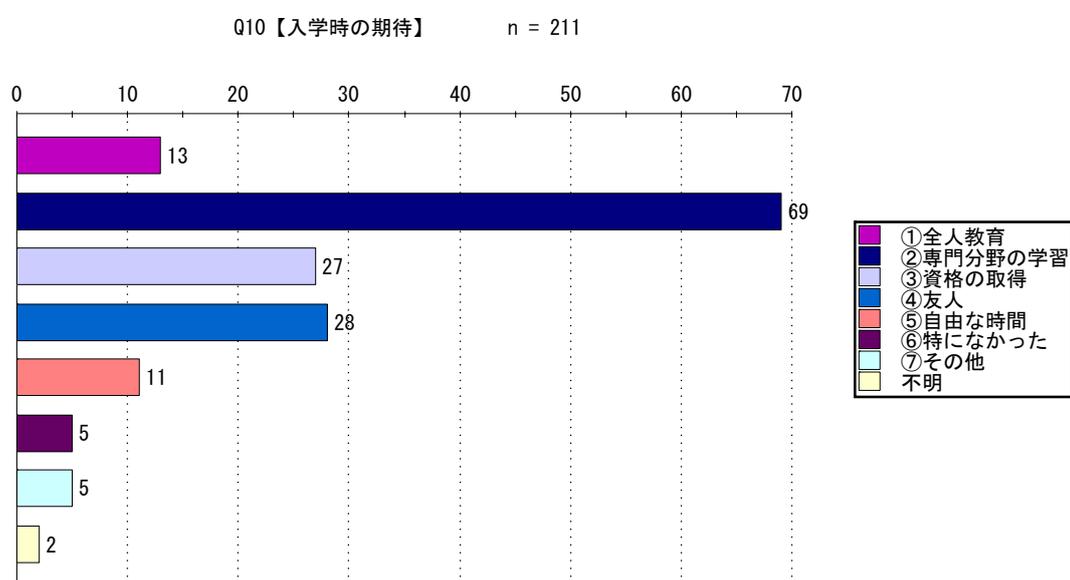
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q10. 入学時に期待していたことはなんですか(複数可)

69%が専門分野の学習、全人教育への期待は減少

入学時に期待していたことを尋ねたところ、69%(+12)が「専門分野の学習」と回答した。前回、それに続いた「友人(28%:-16)」、「全人教育(13%:-14)」はともに大きくスコアを落としている。ここでも卒業後すぐに役立つと考えられる知識や能力を取得したいという傾向が強くなっていることがわかる。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

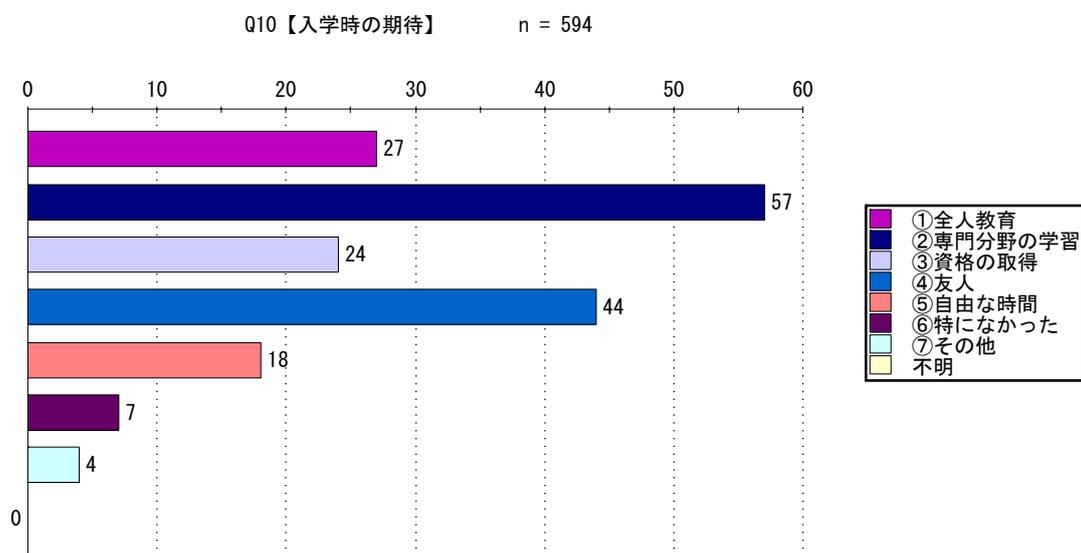
「⑦その他」を選択した 11 件のうちの記述回答は以下の通りである。

部活(サークル)	4	編入学	1
第九	1	留学	1
農学部進学	1	自己研鑽	1
計			9

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「③資格の取得」を選択した割合が全体と比較して高く、「②専門分野の学習」は低かった。また「④芸術学科」を選択したグループは「②専門分野の学習」を選択した割合が全体と比較して高かった。このほか、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「③資格の取得」を選択した割合が全体と比較して高い、Q4「職業」で「②教員」を選択したグループは「③資格の取得」を選択した割合が全体と比較して高い、Q4 で「⑩専業主婦」を選択したグループは「④友人」を選択した割合が全体と比較して高い、Q5「受験決定時期」で「④高校 3 年生」を選択したグループは「②専門分野の学習」を選

択した割合が全体と比較して高い、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「①全人教育」、「③資格の取得」を選択した割合が全体と比較して高いなどの傾向が見られた。

<1998年>



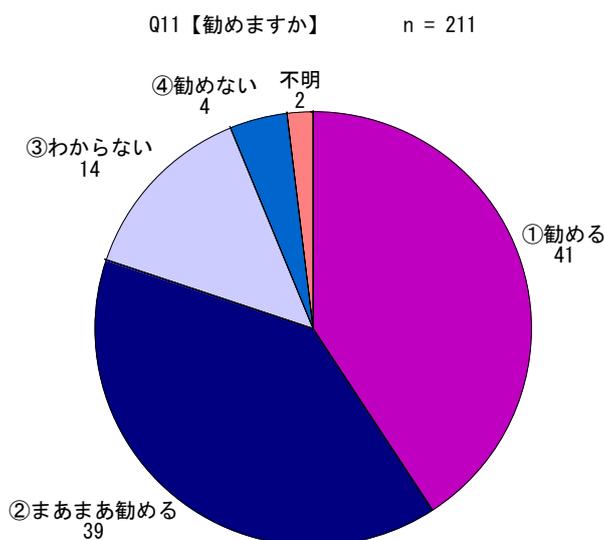
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q11. 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか

80%が「勧める」、「まあまあ勧める」

本学への進学相談を受けた場合、本学を勧めるかを尋ねたところ、80%が「勧める」あるいは「まあまあ勧める」と回答した。また、この数値は前回とほとんど差がない。

<2007年>

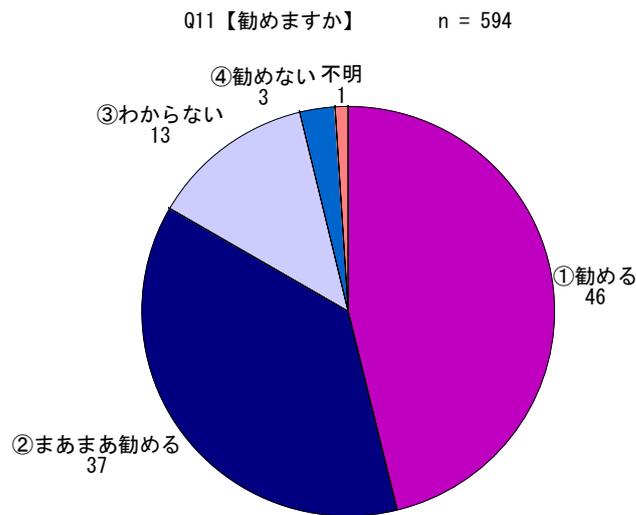


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

この設問と正の相関が強かった設問には、Q48(1)「生活の中で活用」、Q49「大学で学んだことの役立ち感」があり、これらの設問で「そう思う」を回答したグループは、「勧める」と回答した割合がそれ以外のグループよりも高かった。また「勧める」と回答したグループは、Q13「本学の“学費”」に関して「①高い」を回答した人の割合が低かった。

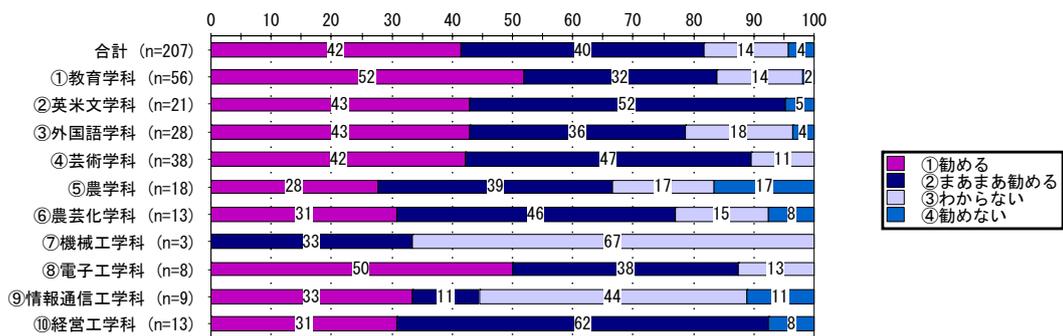
この設問の結果に影響を強く与えていると考えられる項目としては、Q19の「打ち込めた科目」、Q20の「意見や考えを求められる授業」、Q21の「資格取得につながる科目」、Q23の「熱意を感じた先生」、Q24の「卒業研究担当教員の指導」、Q34の「就職指導や就職ガイダンス」、Q47(1)の「教育信条のカリキュラムへの反映」などが挙げられ、これらの設問で高い評価をしているグループは「勧める」と回答した割合が高かった。また、これら以外にも、Q29の「昼食」で「①学内食堂」を選択したグループ、Q31の「印象に残っている行事」で「①体育祭」、「②音楽祭」を選択したグループ、Q16の「誇れること」に関して「⑤施設・設備」を選択したグループは「勧める」と回答した割合が高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q11【勧めますか】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

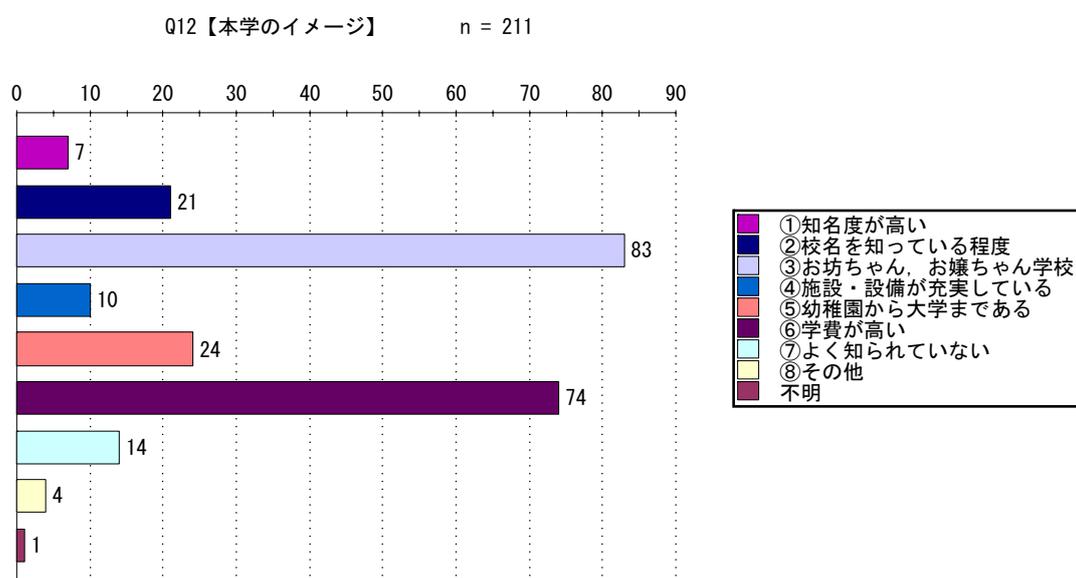
入学時の属性としては、教育学科、志望順位は第一志望であった人は「勧めます」と回答した割合が高かった。さらに Q7「受験理由」に関して「①校風」を選択した人は「勧めます」と回答した割合が高く、「⑧学力」を選択した人は「勧めます」と回答した割合が低い傾向にあることもわかった。

Q12.本学のイメージはあなたの周囲ではどのようなか(複数可)

学費が高い、お坊ちゃん・お嬢ちゃん学校

本学のイメージについて尋ねたところ前回の調査同様、「お坊ちゃん、お嬢ちゃん学校」、「学費が高い」の2項目に回答が集中した。また、前回と比較して、「知名度が高い」が若干減少し、「よく知られていない」が増加している点が気になる。

<2007年>



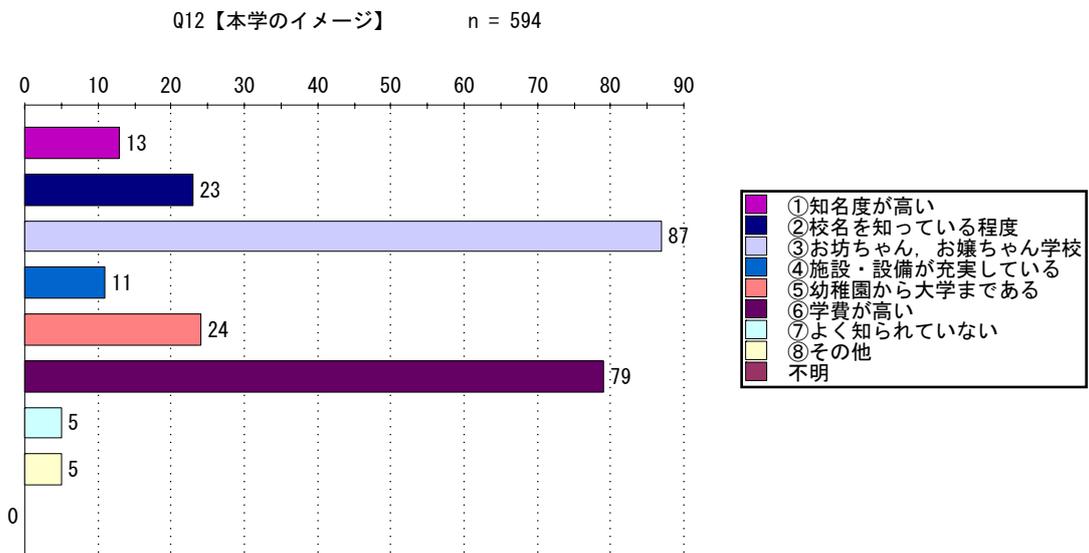
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑧その他」を選択した8件の記述回答は以下の通りである。

教員養成	3
通信で免許取得可	1
芸能人が多い、派手	1
個人指導型	1
最近マラソンで上位に	1
自然が豊か	1
計	8

他の設問との関連としては、Q8で「①第一志望」を選択したグループは「⑤幼稚園から大学まである」を選択した割合が全体と比較して低かった。

<1998年>



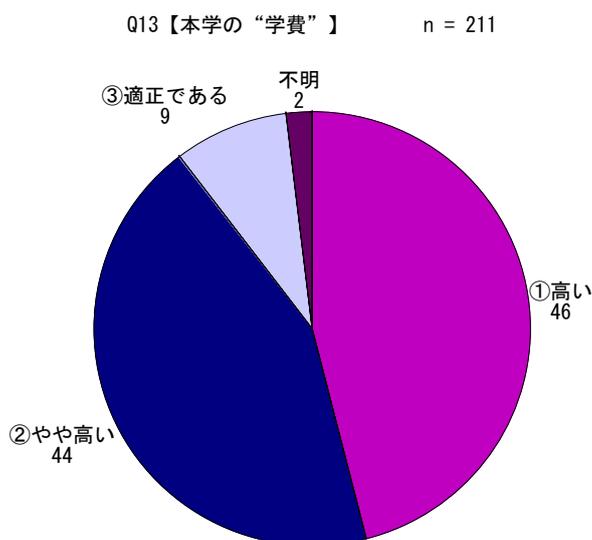
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q13. 本学の“学費”は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか

「高い」が 12 ポイント増加して 46%

本学の学費について尋ねたところ、「高い」と回答した人の割合が12ポイント増加して46%になった。

<2007 年>

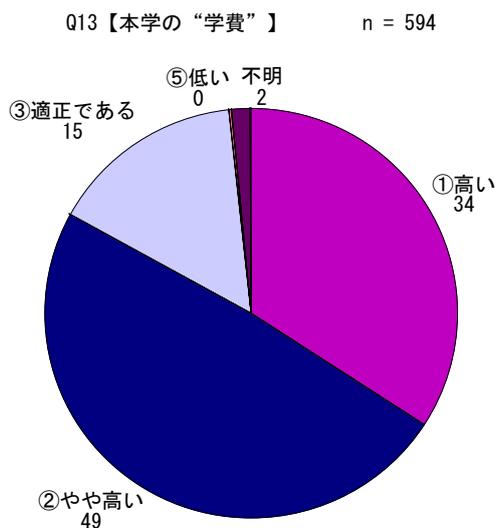


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

他の設問との関連を調べてみると、「高い」と感じる人が多いグループとしては、Q4 の職業で「①民間企業」を選択したグループ、Q11 の「勧めますか」で「③わからない」を選択したグループ、Q49 の「大学で学んだことの仕事や生活での役立ち度」で「③どちらとも言えない」を選択したグループ、Q50 の「大学生生活の満足度」で「⑤60点」を選択したグループなどがあった。

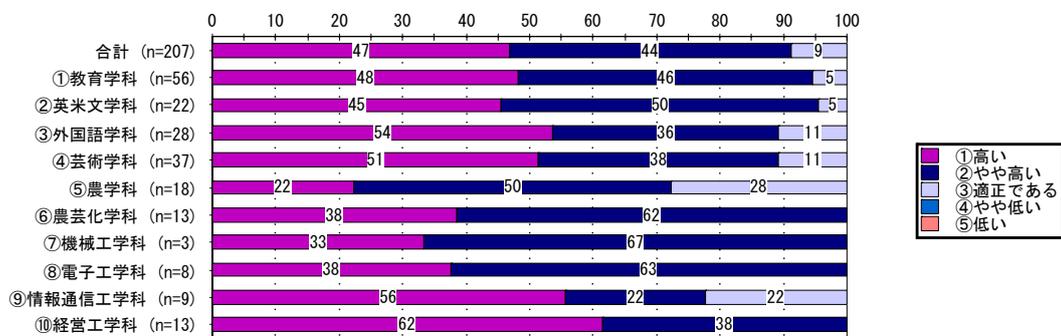
逆に、「高い」と感じる人が少ないグループとしては、Q11 の「勧めますか」で「①勧める」を選択したグループ、Q48 の「生活の中で本学の使命や教育信条が生かされていると思いますか」で「①そう思う」を選択したグループなどがあった。

<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q13【本学の“学費”】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

2. 教務

Q14. 本学の教育において不満を感じたものはなんですか

食堂、図書館の専門書、コンピュータ施設

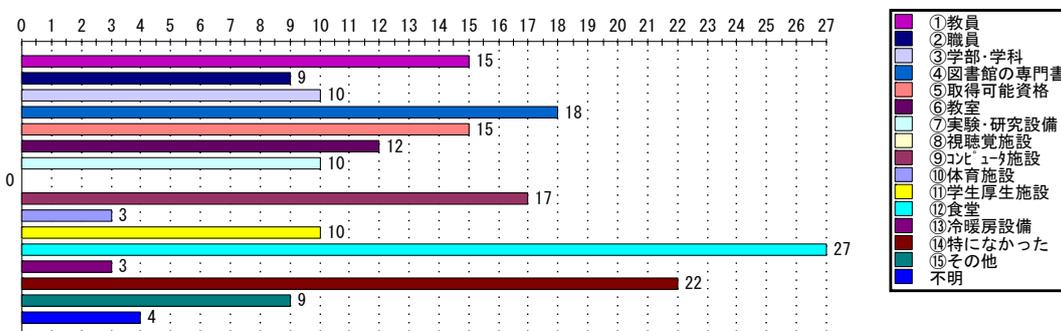
本学の教育において不満を感じたものを尋ねたところ、1位は「食堂(27%)」、2位は「図書館の専門書(18%)」、3位は「コンピュータ(17%)」といずれもモノや施設が上位を占めた。また、それに続いて、漸く、「教員(15%)」、「取得可能資格(15%)」といった教育としての「ソフト」が登場した。

また、「食堂」を選択した人の71%はその「質に不満」があると考え、「コンピュータ施設」を選択した人の85%はその「量に不満」があると考え、「図書館の専門書」を選択した人の53%は「質にも量にも不満」と考えている。

現在では、コンピュータ施設やICT環境は5年前と比較し格段に改善され、図書館や食堂についても新たな施設建設計画が進みつつある。本項目の調査結果は、5～10年前の卒業生が在学中に感じていた不満であり、その後改善された項目とまだ改善されていない項目に区分した後に、改善に資する材料とする必要がある。

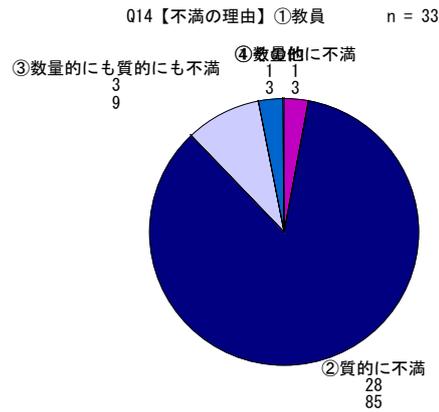
※ 本項目は前回と質問内容を変更したため、比較できない。

Q14【不満】 n = 208



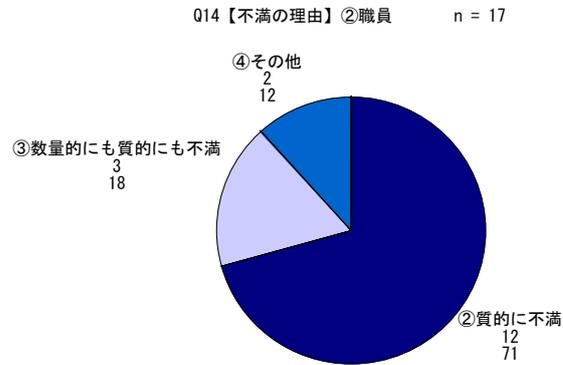
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:教員



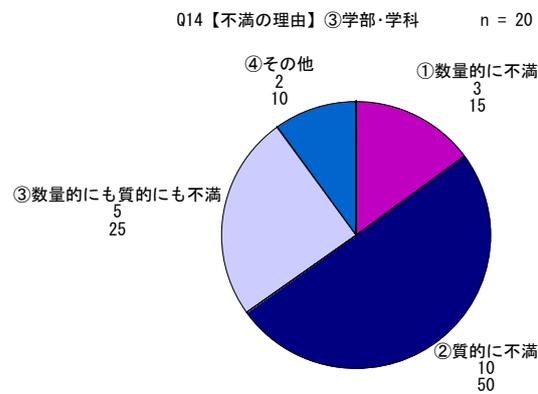
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:職員



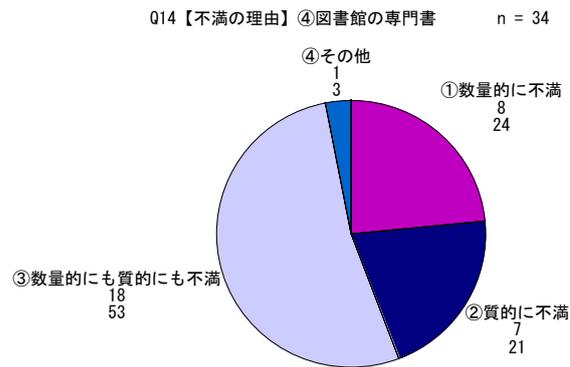
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:学部・学科



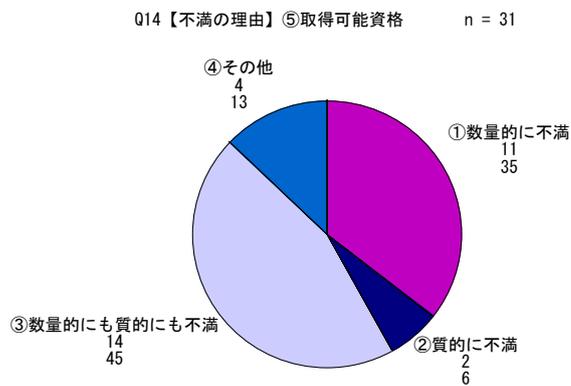
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:図書館の専門書



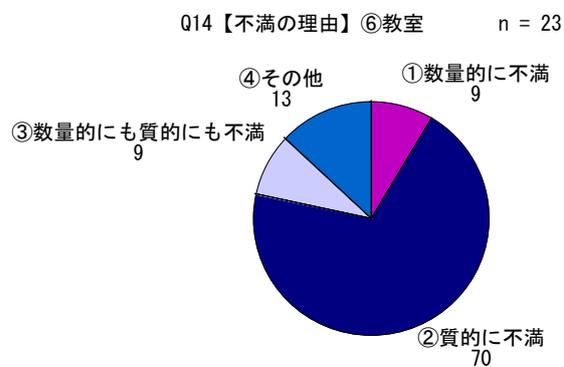
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:取得可能資格



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

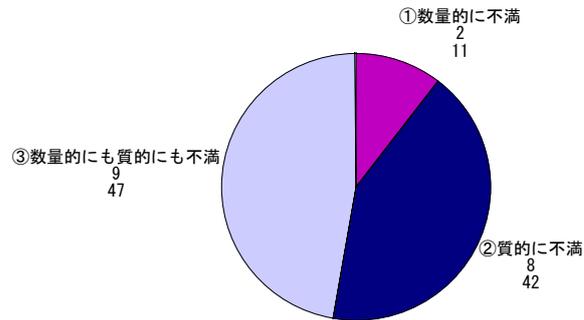
Q14. 不満を感じた理由:教室



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:実験・研究設備

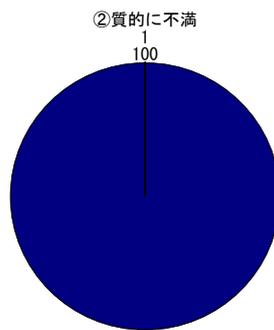
Q14【不満の理由】⑦実験・研究設備 n = 19



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:視聴覚施設

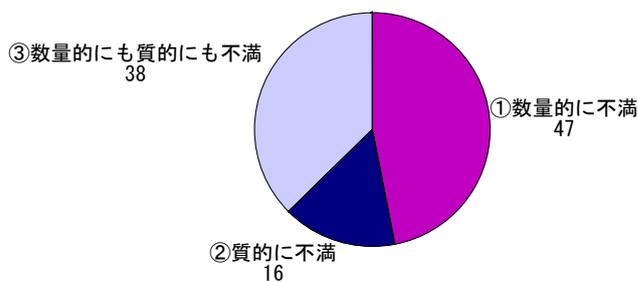
Q14【不満の理由】⑧視聴覚施設 n = 1



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:コンピュータ施設

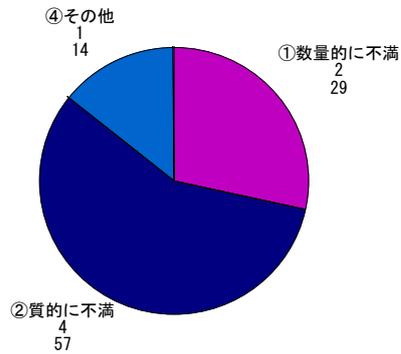
Q14【不満の理由】⑨コンピュータ施設 n = 32



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:体育施設

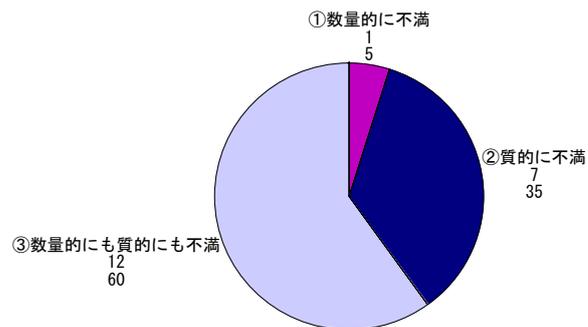
Q14【不満の理由】⑩体育施設 n = 7



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:学生厚生施設

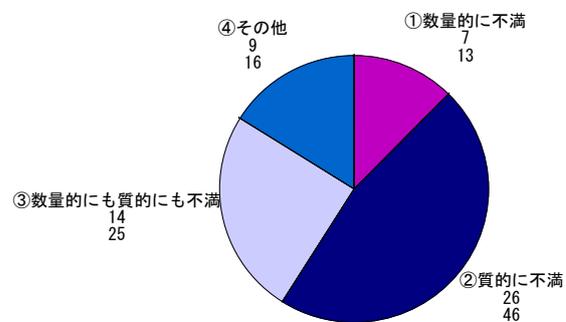
Q14【不満の理由】⑪学生厚生施設 n = 20



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:食堂

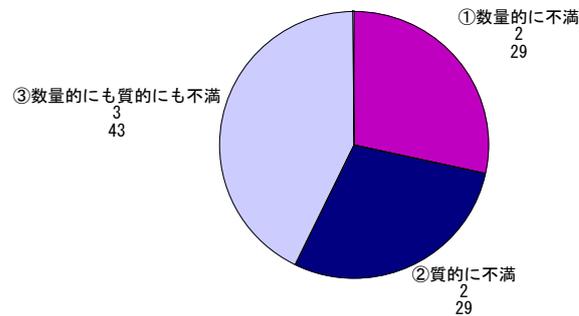
Q14【不満の理由】⑫食堂 n = 56



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:冷暖房設備

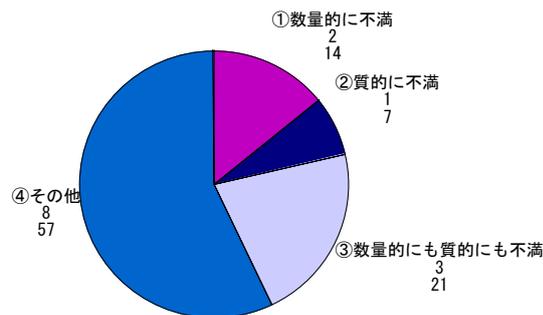
Q14【不満の理由】⑬冷暖房設備 n = 7



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q14. 不満を感じた理由:その他

Q14【不満の理由】⑮その他 n = 14



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

不満を感じたもの、不満を感じた理由のいずれかが「その他」である記述回答

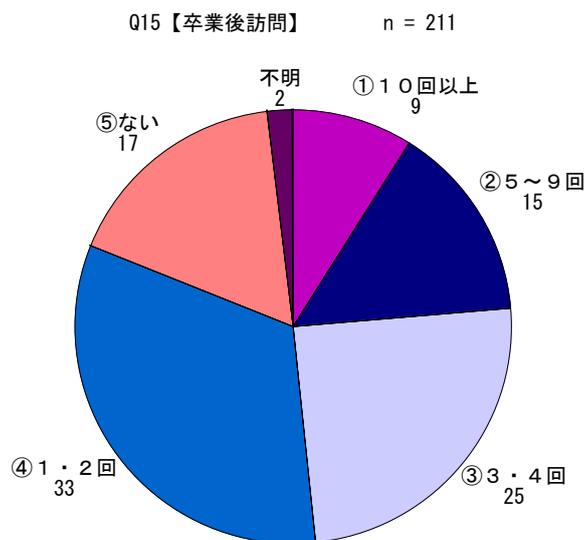
学部・学科	11	低調なサークル活動(2) 科目数(3)、授業内容と数(2)、学部不要(1)、履修(1)、 労作(1)、研究の質(1)、
学食	9	値段(6)、運営日時(3)
教室	8	移動が大変(5)、練習室の不足(2)、使用料金(1)
施設・設備	4	有効活用(3)、正門閉鎖時間(1)
課外活動	2	校風・全人教育(1)、時間割(1)
教育資産	2	資料の量(1)、図書館閉館時間(1)
就職	2	サポート(2)
取得可能資格	2	取得単位上限(1)、教職(1)
職員	2	態度(2)
学費	2	学費(1)、寄付金(1)
教員	1	資質(1)
体育施設	1	野球場(1)
計	46	

Q15. 卒業後本学を訪ねたことがありますか

約半数が3回以上。ただし「ない」が増増

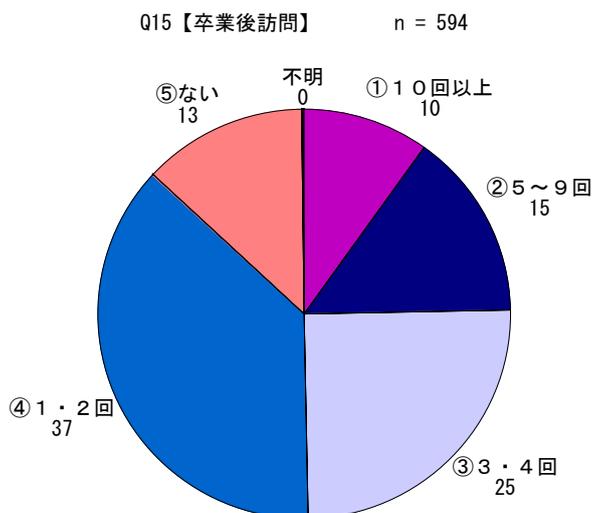
卒業後本学を訪問したことがあるかを尋ねたところ、約半数が3回以上あると回答した。全体としては、1998年の結果とほとんど差はないが、わずかに「ない」が増増した。

<2007年>



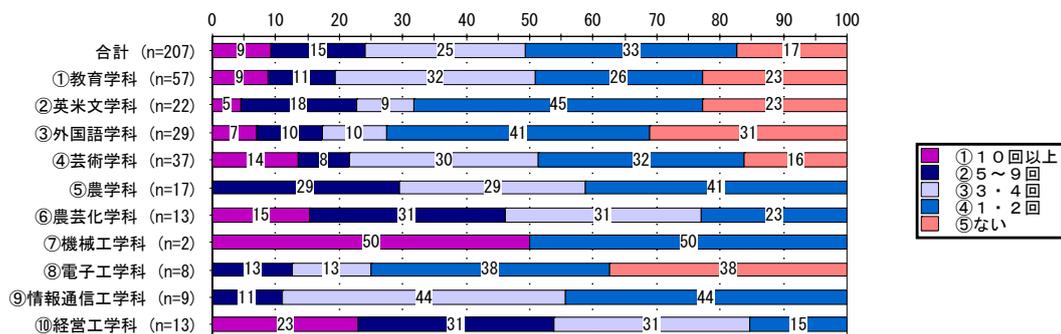
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q15【卒業後訪問】 × Q1【卒業学科】

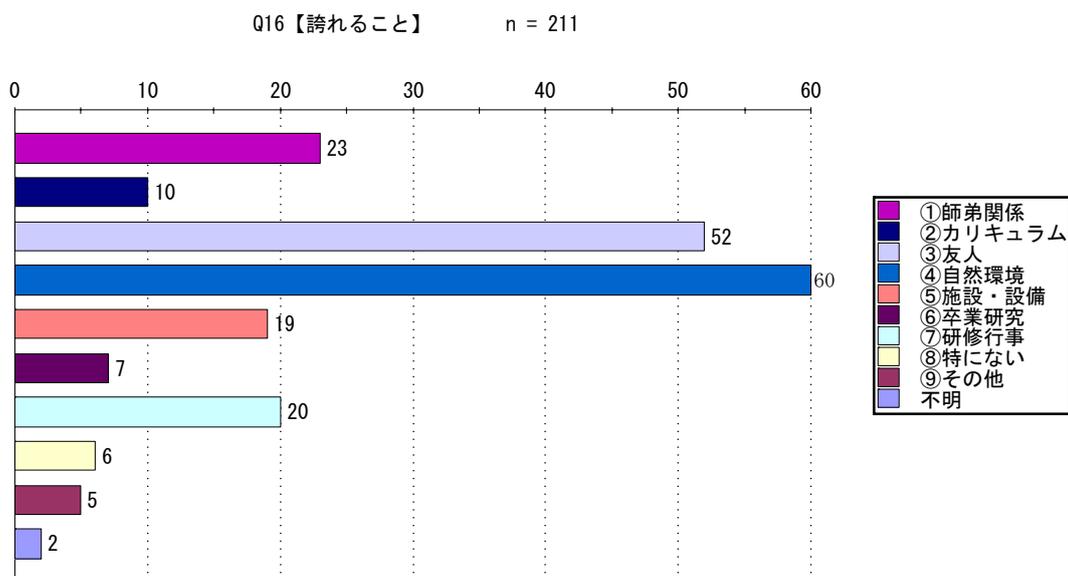
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q16. 本学の卒業生として誇れることはなんですか(複数可)

誇れることは自然環境と友人。研修(教養)行事は激減

本学の卒業生として誇れることを尋ねたところ、1位の「自然環境(60%)」、2位の「友人(52%)」が他の項目を大きく引き離れた。

<2007年>



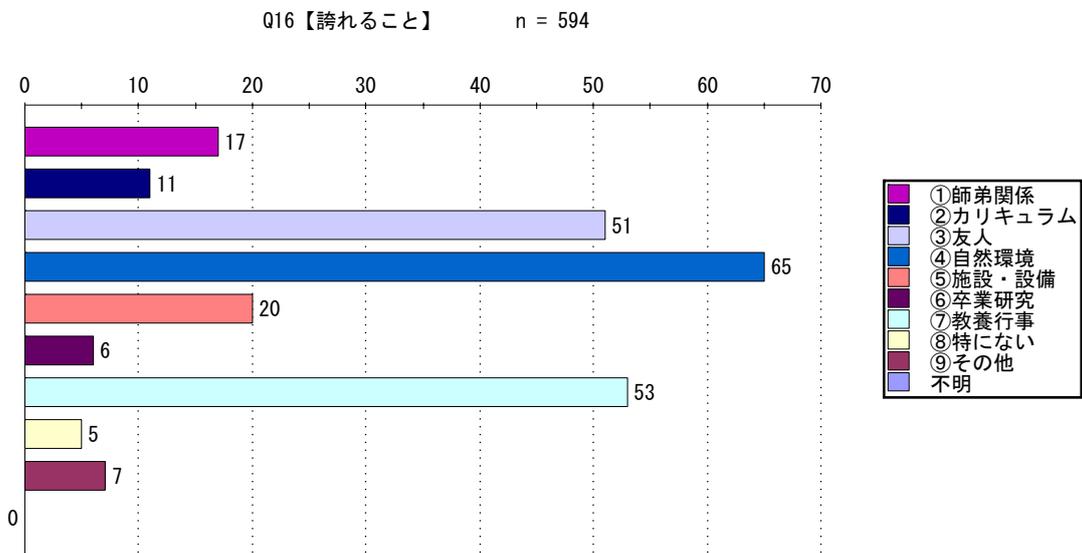
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑨その他」を選択した 10 件の記述回答は以下の通りである(複数分類)。

学風・校風・雰囲気	3
第九・音楽祭	2
教員・先生	2
クラブ・部活動	2
体育祭	1
自然環境	1
計	11

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」、または Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「⑦研修行事」を選択した割合が全体と比較して高く、Q15「卒業後訪問」で「⑤ない」を選択したグループは「①師弟関係」を選択した割合が全体と比較して低かった。

<1998年>



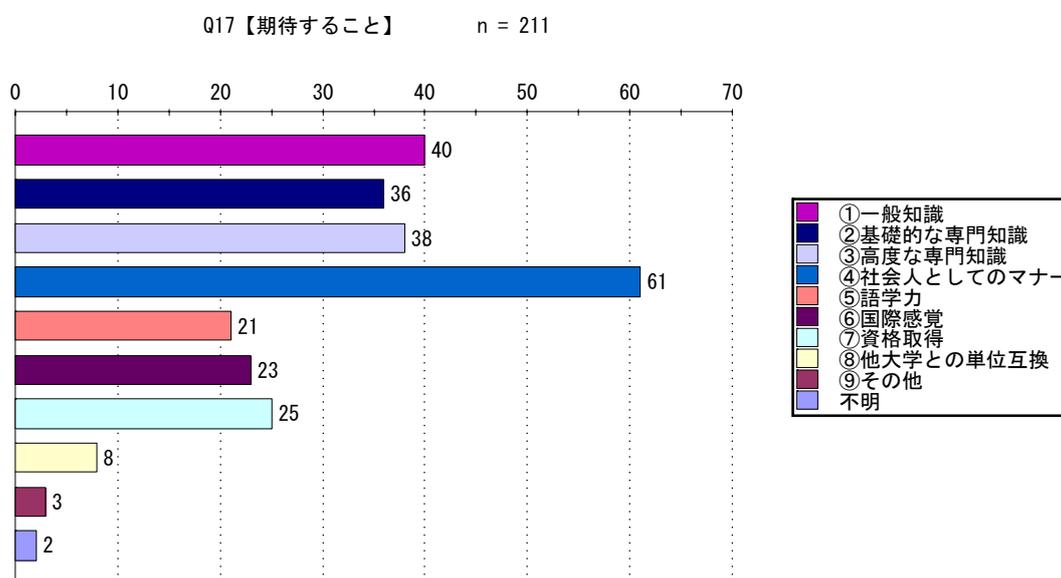
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q17. 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか(複数可)

社会人としてのマナーがさらに重要に

卒業生の立場から本学の教育に期待することを尋ねたところ、「社会人としてのマナー (61% : +16)」、「一般知識 (40% : +10)」、「高度な専門知識 (38% : +9)」、「基礎的な専門知識 (36% : +3)」と続いた。前回、比較的高いスコアであった「国際感覚 (23% : -14)」、「語学力 (21% : -8)」はともにスコアを大きく落とした。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

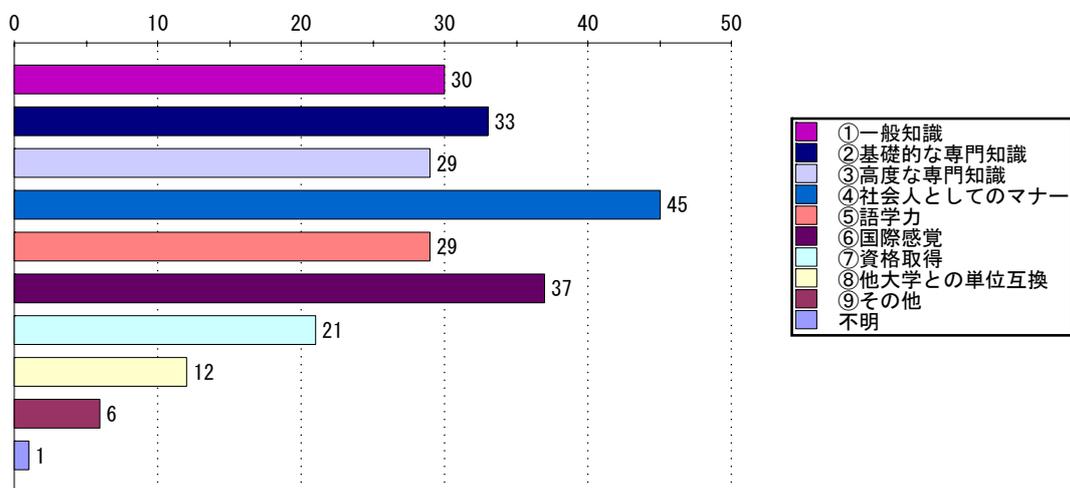
「⑨その他」を選択した7件の記述回答は以下の通りである。

全人教育	2
一般常識	1
感性	1
産学共同	1
社会貢献	1
視野を広げる経験	1
計	7

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「⑦資格取得」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「④社会人としてのマナー」を選択した割合が全体と比較して高く、「⑤語学力」を選択した割合は低かった。さらに、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「②基礎的な専門知識」、「⑦資格取得」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>

Q17【期待すること】 n = 594



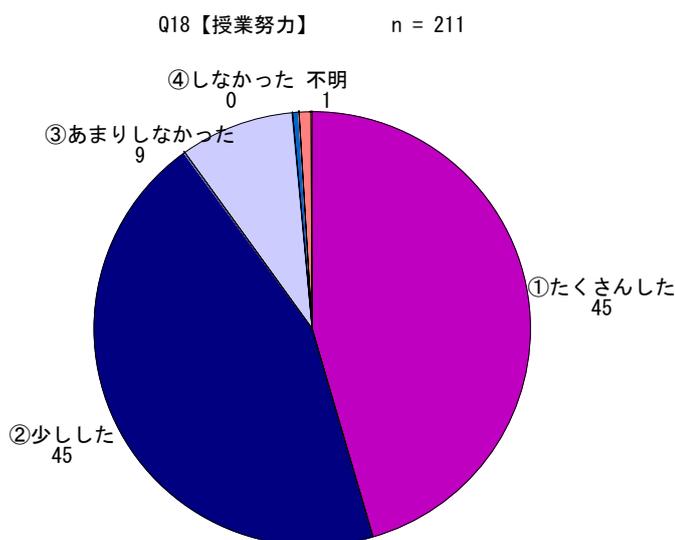
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q18. 授業内容の理解に努力しましたか

45%が「たくさんした」(17ポイント増加)

授業内容の理解に対する努力について尋ねたところ、45%が「たくさんした」と回答した。これは前回の結果を17ポイントも上回っている。

<2007年>



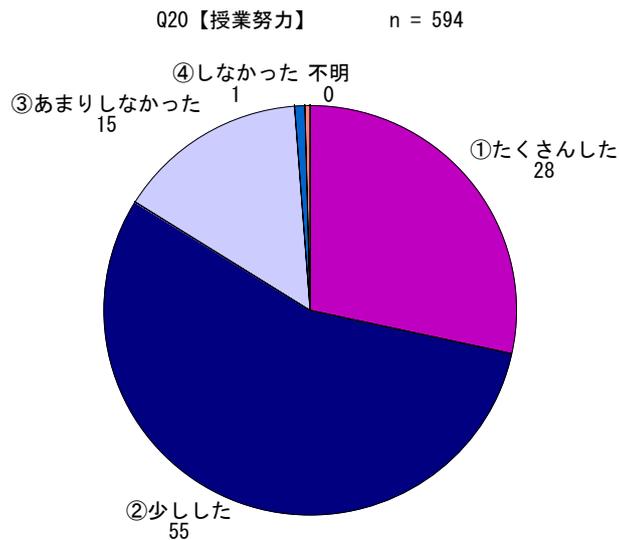
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q1「卒業学科」との分析で、在学中、授業内容の理解に努力したと考える人の多くは、教育学科の卒業生であることがわかった。また、授業努力を「たくさんした」と答えたグループは、Q7「受験理由」に「①校風」、「③取得資格・免許」を挙げる割合が高かった。

この設問と正の相関関係が強かった項目としては Q19「打ち込めた科目」、Q20「意見や考え方を求められる授業」、Q21「資格取得につながる科目」、Q23「熱意を感じた先生」などが挙げられ、授業努力を十分した人は、総じて学習環境に満足できた人であると言える。また、これらの人の多くは Q30「空き時間に利用した場所」に関して「④図書館」を挙げていた。

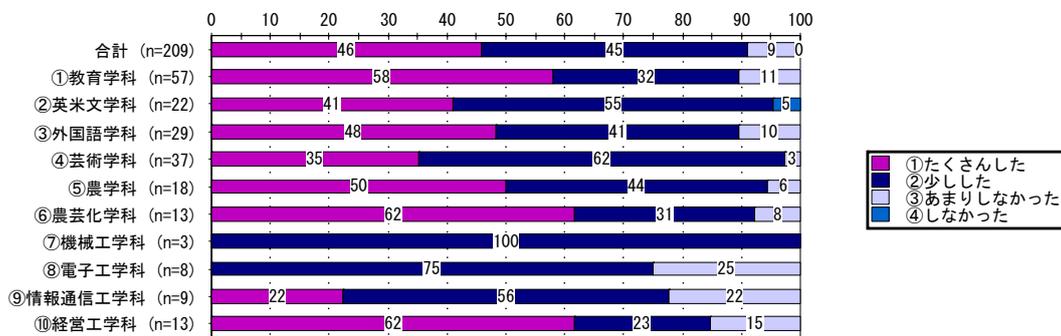
授業内容の理解に努力したと考えているグループの中で、Q39「もう一度学びたい分野」に対して「⑧教育・体育」を挙げる人の割合が高かったが、これは先に述べたように、本問に対して「①たくさんした」と答えた人の多くが教育学科の卒業生であることが関係しているものと考えられる。

<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q18【授業努力】 × Q1【卒業学科】

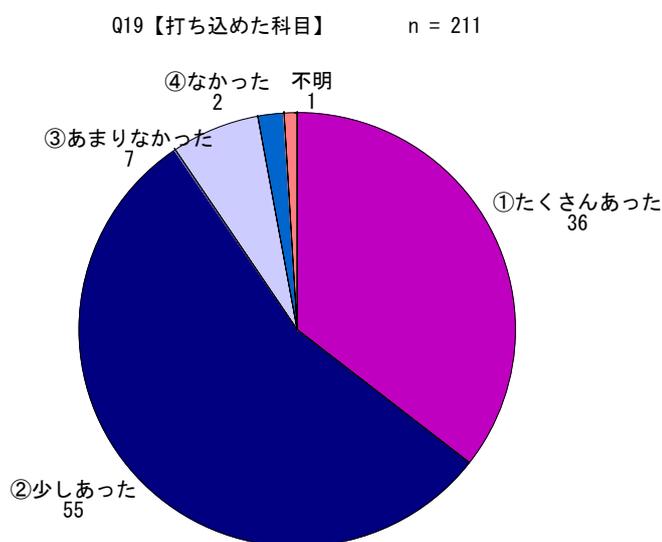
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q19. 自分が打ち込める科目はありましたか

36%が「たくさんあった」(16ポイント増加)

自分が打ち込める科目について尋ねたところ、36%が「たくさんあった」と回答した。これは前回の結果を16ポイントも上回っている。実益志向である生徒たちが、以前よりも、熱心に勉学に取り組んでいる様子がうかがえる。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

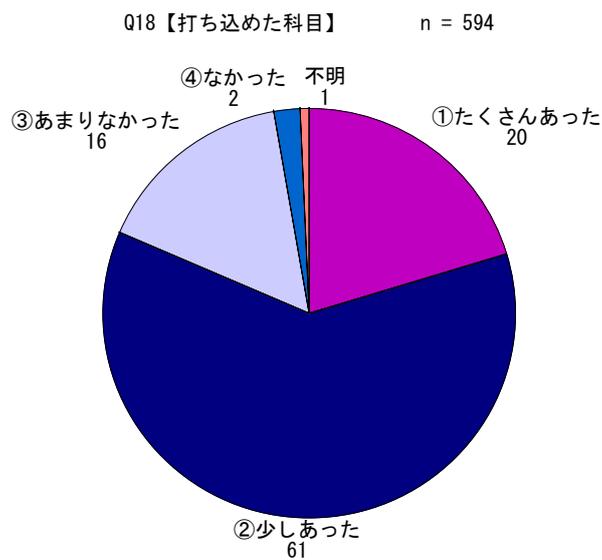
Q1「卒業学科」との分析で、自分が打ち込める科目が「たくさんあった」と考える人の多くは、教育学科の卒業生であることがわかった。さらに、Q7「受験理由」に関して「③取得資格・免許」や「⑧学力」、Q10「入学時の期待」に関して「①全人教育」、「③資格の取得」を選択した人は、在学中打ち込めた科目が多かったようである。

打ち込めた科目が多かった人は、特に教員に対する満足度が高いようである。本問に対し「たくさんあった」を選択したグループは、Q14(1)「不満」に対して「①教員」を挙げる人の割合が小さく、翻って Q16「誇れること」で「①師弟関係」、Q24「卒業研究担当教員の指導」で「①満足した」を選ぶ人が多いなど、教員に対する評価が高い。生徒の学びとは、彼ら自身のみならず、教員の質が重要な要素となっていることがわかる。また、打ち込めた科目が「たくさんあった」人は、Q26「アルバイト」に関して「②長期休暇中」、Q30「空き時間に利用した場所」に関して「④図書館」を選択している割合が高く、時間を有効に活用していた様子が伺える。

打ち込めた科目が多かったと考えているグループの中で、Q39「もう一度学びたい分野」に対して

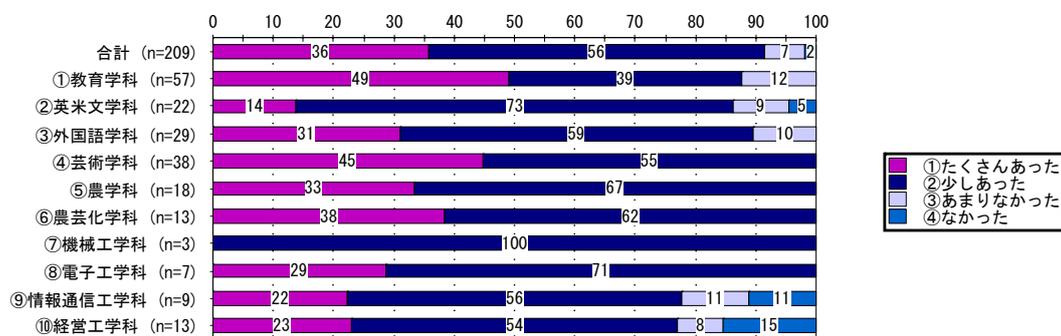
「⑧教育・体育」、Q45「興味・関心」に対して「⑤教育」を挙げる人の割合が高かったが、これは Q18 同様、本問に対して「①たくさんあった」と答えた人の多くが教育学科の卒業生であることが関係しているものと考えられる。

<1998 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q19【打ち込めた科目】 × Q1【卒業学科】

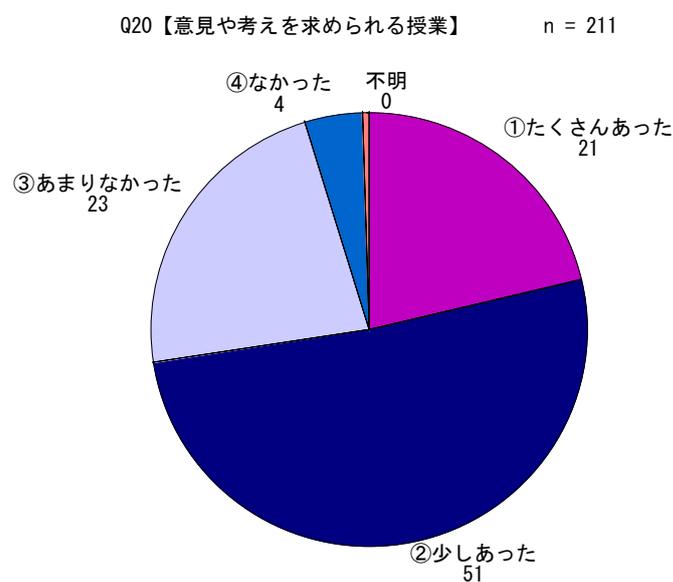
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q20. 意見や考えを求められる授業はありましたか

「あった」が若干増加

意見や考えを求められる授業について尋ねたところ、72%が「あった(たくさんあった+少しあった)」と回答した。前回、「あった」と回答したのは 60%であったので、授業の内容が以前よりも、対話的なもの、学生が主体的なものに変わりつつあることがうかがえる。

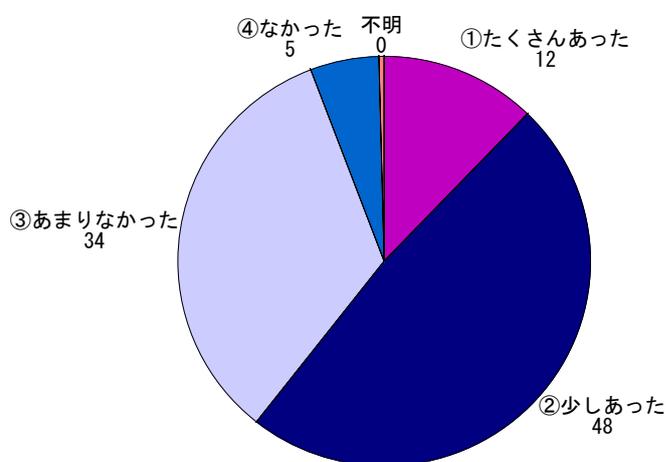
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

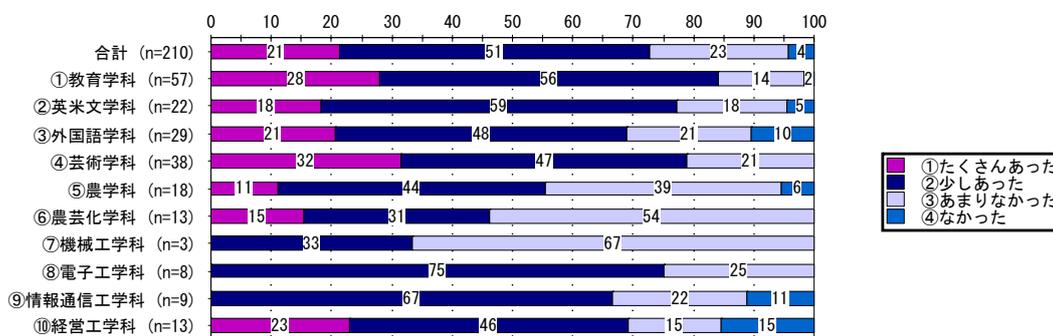
<1998 年>

Q19【意見や考えを求められる授業】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q20【意見や考えを求められる授業】 × Q1【卒業学科】

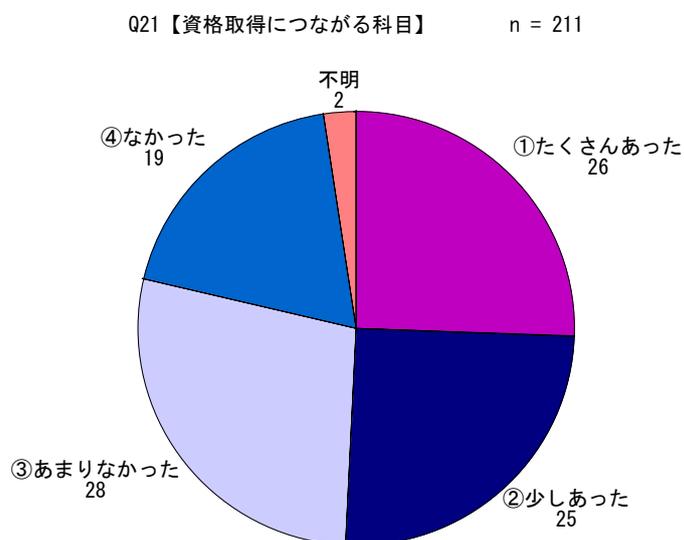
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q21. 資格取得につながる科目はありましたか

「あった」が 51%で微増

資格取得につながる科目について尋ねたところ、51%が「あった(たくさんあった+少しあった)」と回答した。前回、「あった」と回答したのは 47%であった。学生の資格取得志向が強くなっていることを考えると、学生募集あるいは学生の満足度向上という見地からは、もっと資格取得につながる科目を増やしてよいのかもしれない。

<2007年>

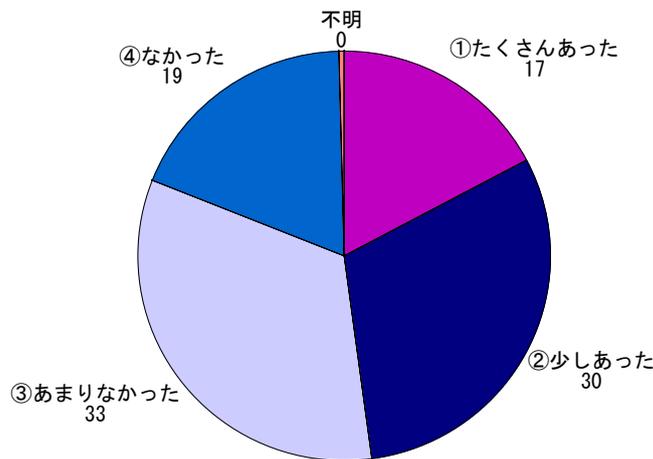


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「①たくさんあった」を選択した割合が全体と比較して高く、Q1で「②英米文学科」を選択したグループは「③あまりなかった」を選択した割合が全体と比較して高かった。

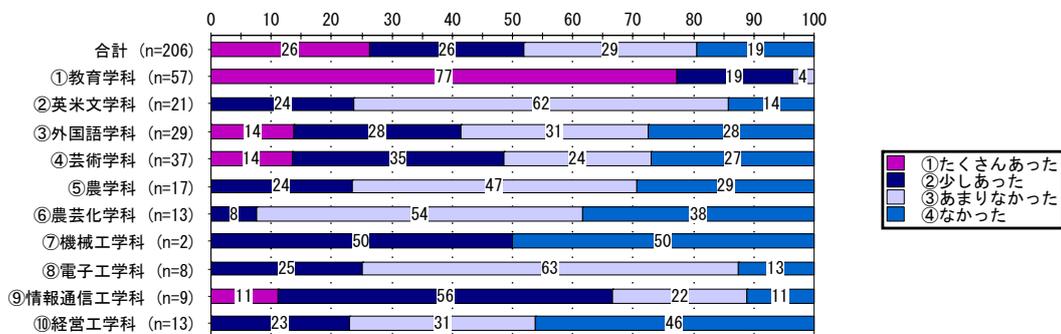
<1998 年>

Q21【資格取得につながる科目】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q21【資格取得につながる科目】 × Q1【卒業学科】

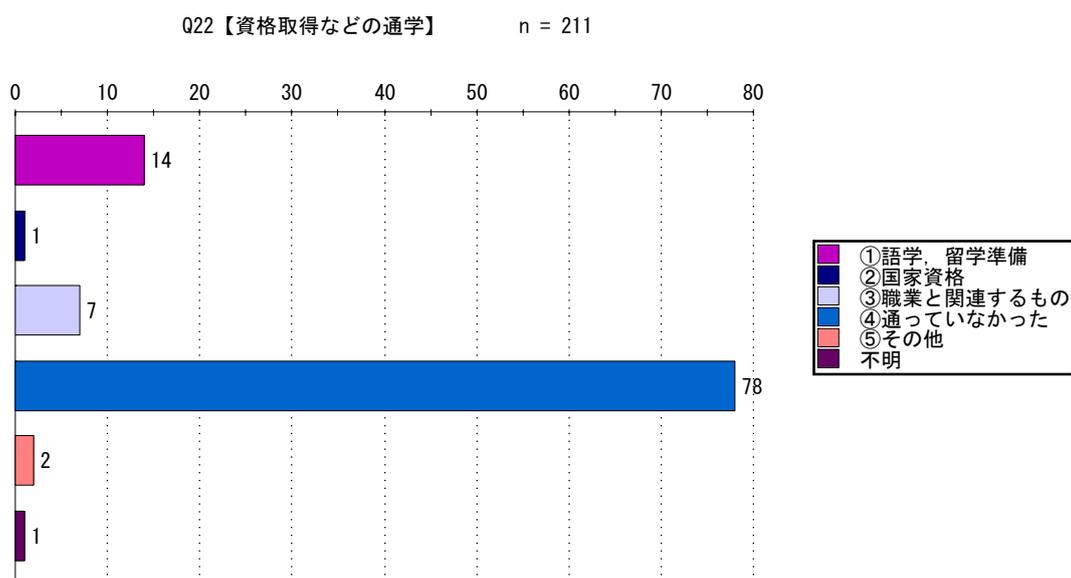
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q22. 在学中、資格取得や語学などの学校に通っていましたか(複数可)

「通っていない」が 78%、「語学・留学準備」が 14%

在学中の資格取得や語学などの学校への通学状況について尋ねたところ、「通っていない」が 78%(-6)、「語学・留学準備」が 14%(+4)、「職業に関するもの」が 7%(+3)となった。

<2007 年>



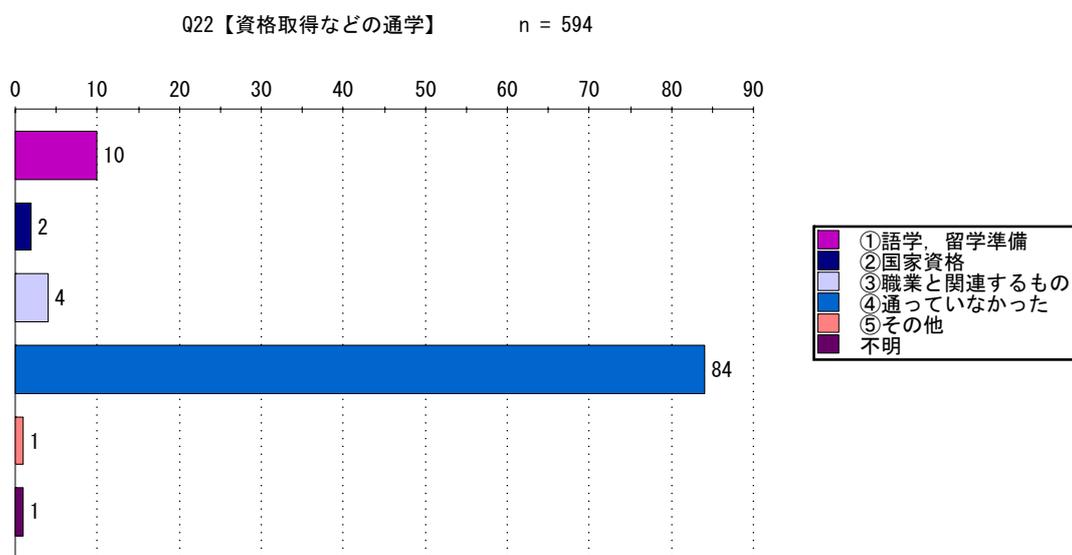
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑤その他」を選択した 4 件のうちの記述回答は以下の通りである。

音楽の専門学校	1
パソコン	1
計	2

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「②英米文学科」を選択したグループは「④通ってなかった」を選択した割合が全体と比較して高く、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「④通ってなかった」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



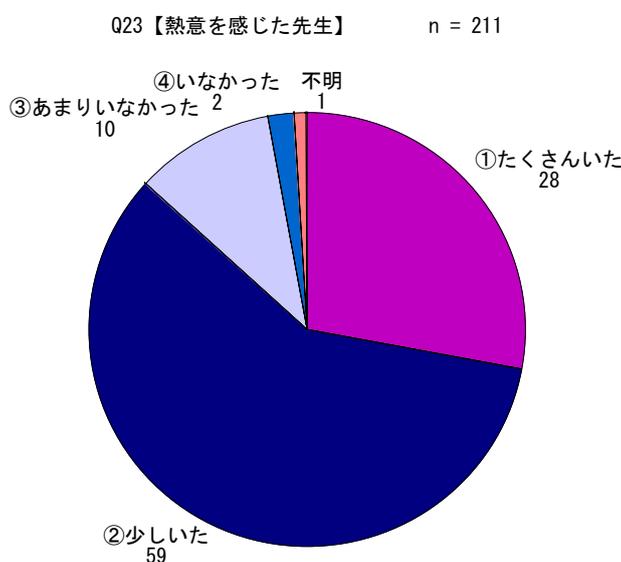
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q23. 授業等において熱意を感じる先生はいましたか

「いた」はほぼ横ばい

教員の熱意について尋ねたところ、28%が「たくさんいた」と回答した。前回、「たくさんいた」と回答したのは25%であった。しかし、「少しいた」が前回よりも微減しているので、全体では、ほぼ前回並みといえる。

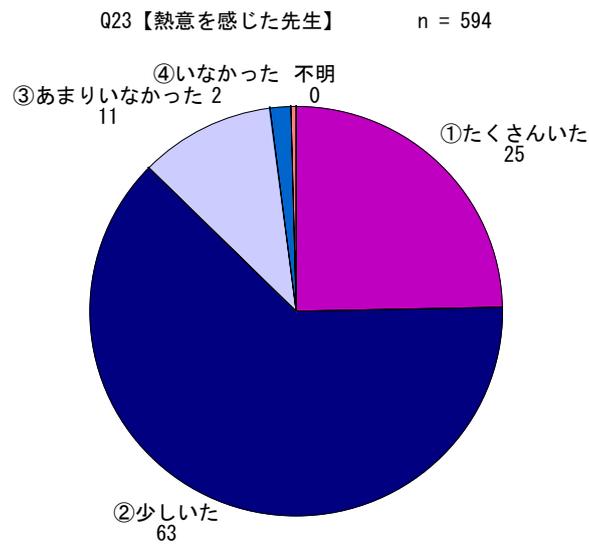
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

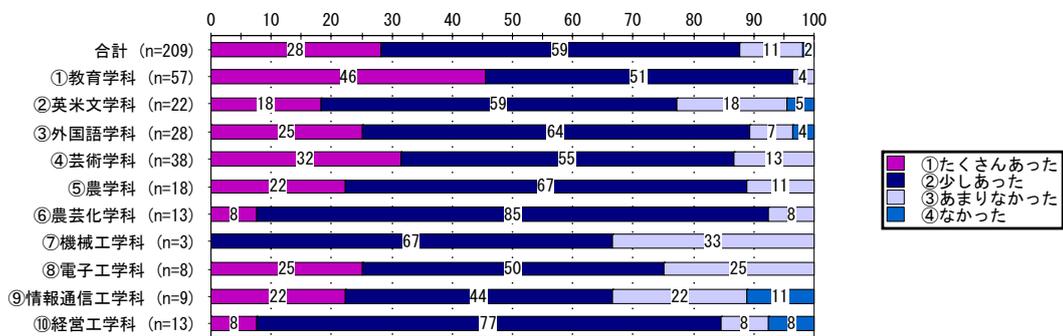
他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「①たくさんいた」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループは「①たくさんいた」を選択した割合が全体と比較して高く、「②30～34歳」を選択したグループは低かった。さらに、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「①たくさんいた」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q23【熱意を感じた先生】 × Q1【卒業学科】

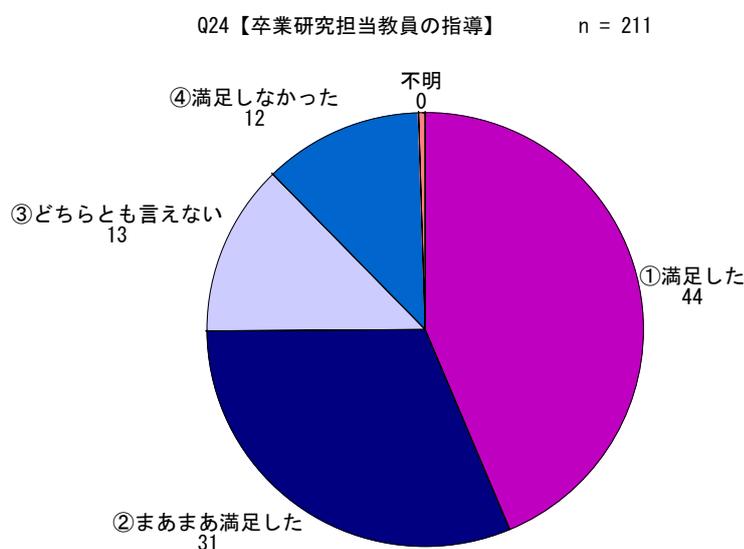
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q24. 卒業研究担当教員の指導に満足しましたか

満足度はわずかに改善

卒業研究担当教員の指導に関する満足度について尋ねたところ、44%が「満足した」と回答した。前回、「満足した」と回答したのは37%であったので、7ポイント増加している。しかし、「まあまあ満足した」が前回よりも微減しているので、全体では、満足度がわずかに改善されたと判断できる。

<2007年>



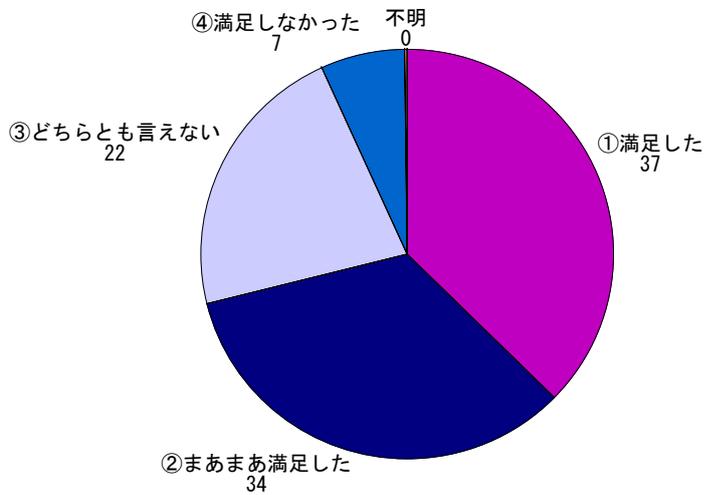
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q1「卒業学科」との分析で、卒業研究担当員に「①満足した」と考える人の多くは、教育学科の卒業生であることがわかった。

この設問と相関関係が見られる項目としては、Q14(1)「不満」、Q16「誇れること」、Q23「熱意を感じた先生」などが挙げられる。本問で「①満足した」を選択したグループはそれぞれの項目で評価が高く、本問で「④満足しなかった」を選択したグループは評価が低い。良くも悪くも卒業研究担当教員の評価が大学全体の評価に結びついていることがわかる。OB、OGはロコミという宣伝媒体を担うが、彼らの評価には卒業研究担当教員の質が重要であると言える。

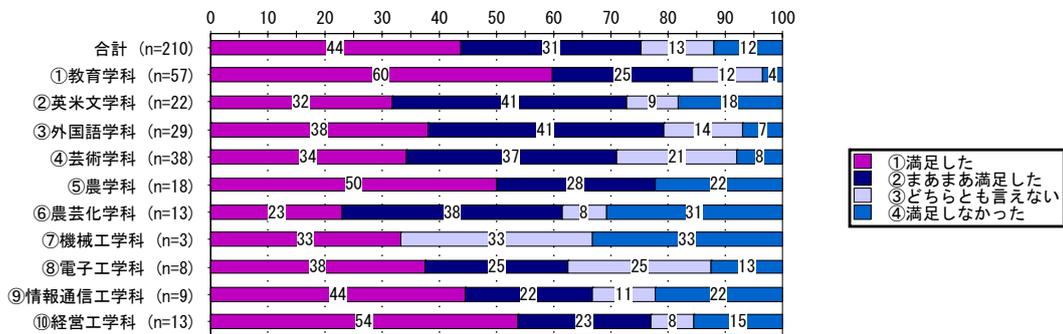
<1998年>

Q24【卒業研究担当教員の指導】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q24【卒業研究担当教員の指導】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

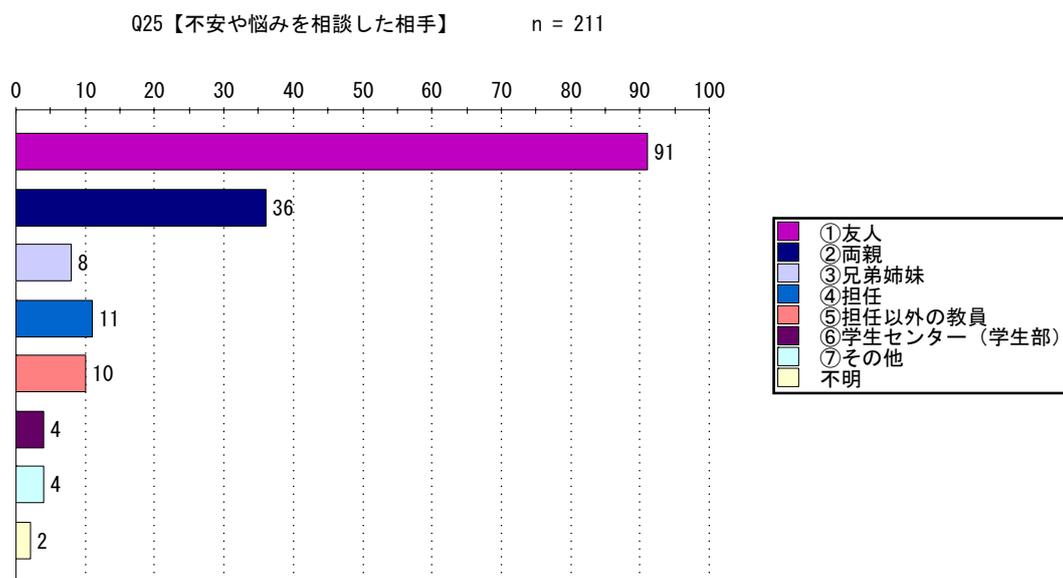
3. 学生生活

Q25. 不安や悩みを相談した相手は誰ですか（複数可）

友人(前回と変化なし)

不安や悩みを相談した相手について尋ねたところ、91%が「友人」と回答した。「担任(11%: +5)」と回答した人が若干増えていることを除けば、前回とほとんど変化はなかった。

<2007年>



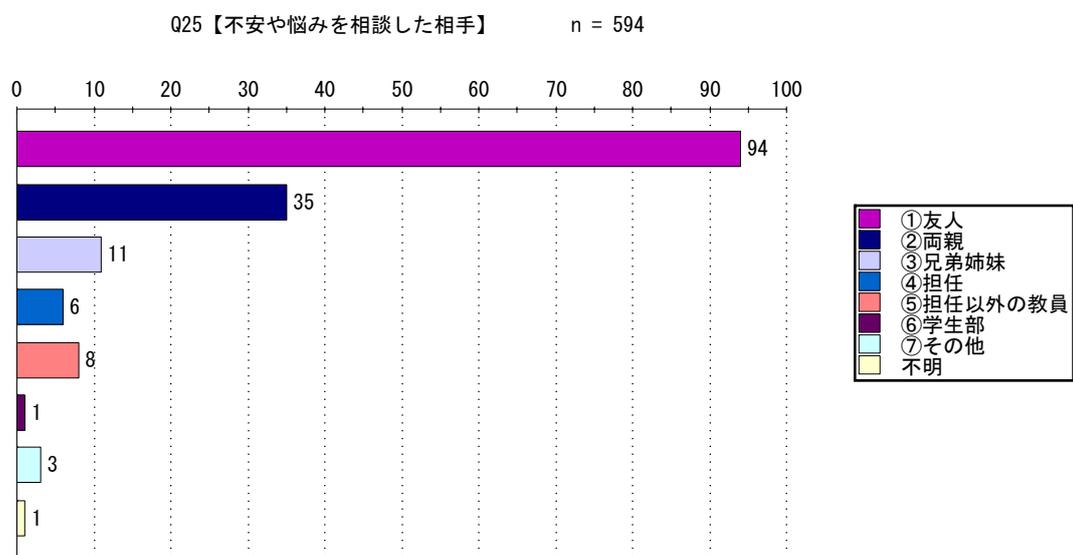
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑦その他」を選択した9件のうちの記述回答は以下の通りである。

自身・なし	4
ゼミの教員・副手	2
先輩	1
当時の恋人	1
計	8

他の設問との関連としては、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「②両親」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



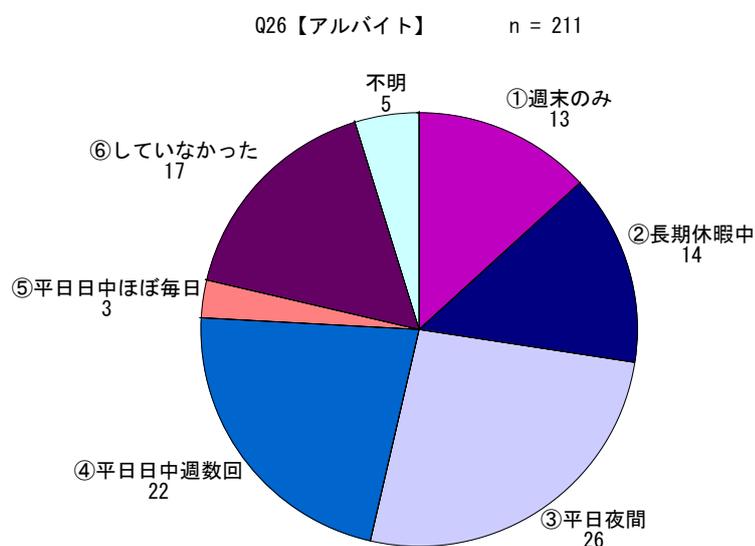
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q26. アルバイトはしていましたか

週末のみが増加、長期休暇中が減少

アルバイトについて尋ねたところ、26%が「平日夜間」、22%が「平日日中数回」と回答した。前回と比較すると「長期休暇中(14%:-15)」が減少して、「していなかった(17%:+6)」、「週末のみ(13%:+5)」が増加している。

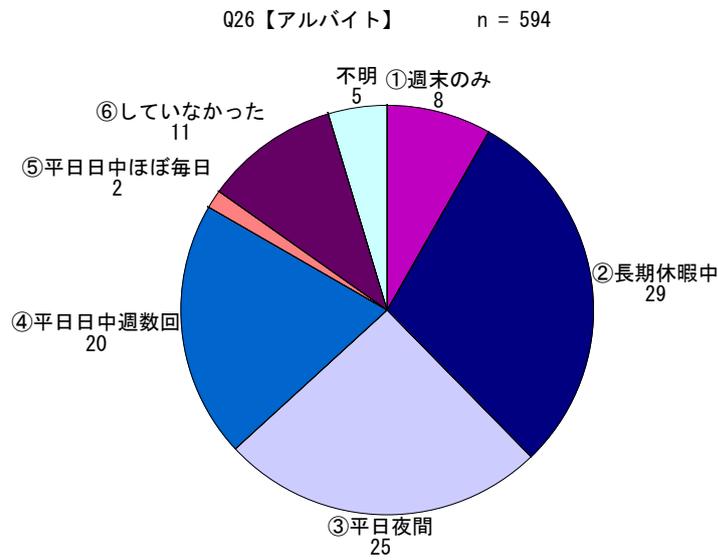
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

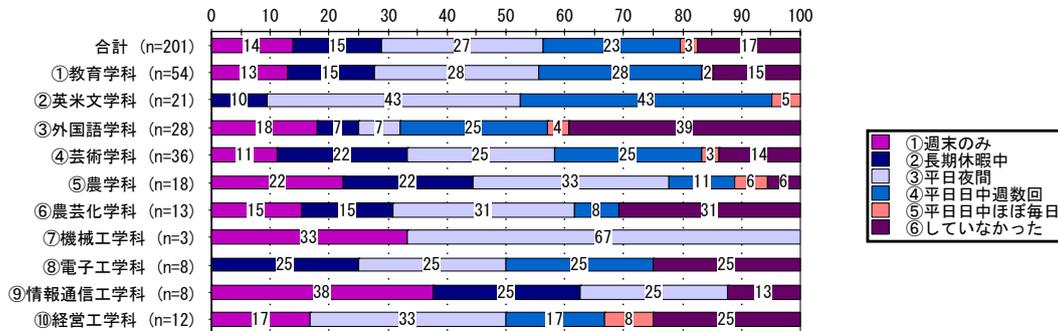
他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「③外国語学科」を選択したグループは「⑥していなかった」を選択した割合が全体と比較して高く、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループは「⑥していなかった」を選択した割合が全体と比較して少なかった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q26【アルバイト】 × Q1【卒業学科】

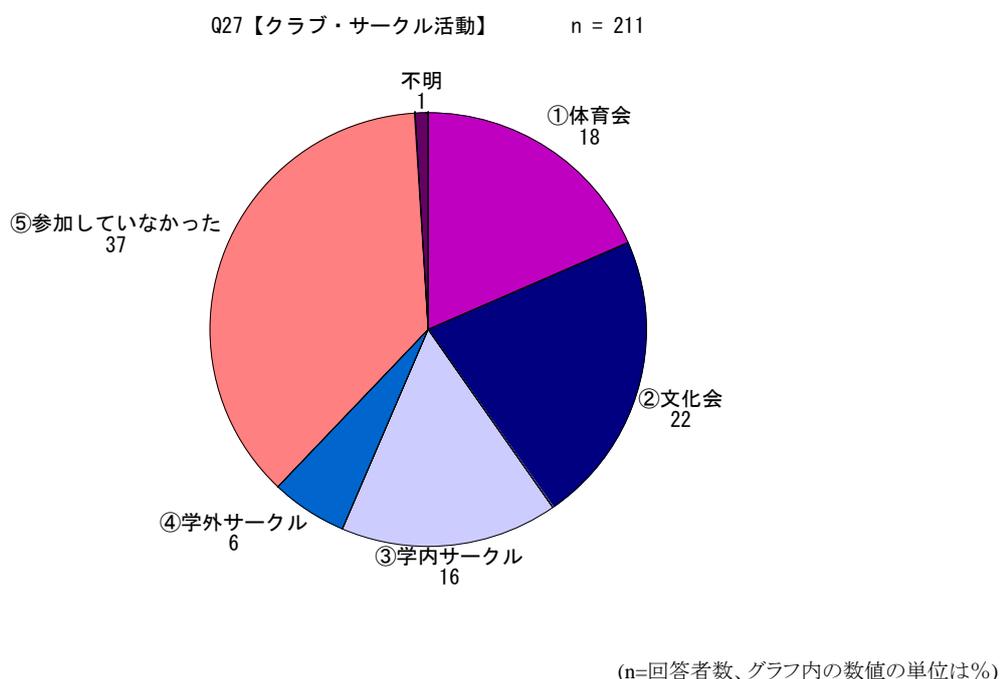
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q27. クラブ・サークル活動に参加していましたか（主とするもの）

体育会、文化会、未参加が若干増加

クラブ・サークル活動について尋ねたところ、割合が増えたのは、「体育会(18%:+7)」、「文化会(22%:+6)」、「参加していなかった(37%:+7)」となった。

<2007年>

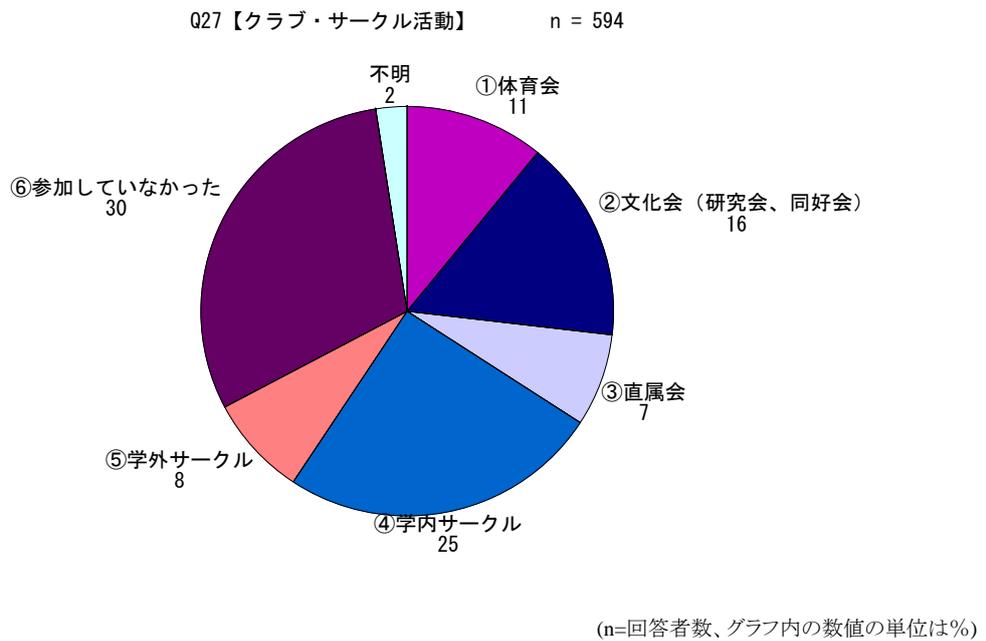


クラブ・サークル活動に「⑤参加していなかった」と答えたグループの多くは芸術学科の生徒であり、「①体育会」に参加していたグループの多くは男性であるなどの特徴が見られた。また、Q4「職業」に関して、「②文化会」に所属していた生徒の進路としては「②教員」が多いようである。Q15「卒業後訪問」に対し、クラブ・サークル活動に「参加していなかった」生徒の多くは「④1・2回」を選択しており、クラブなどのつながりがない場合、卒業後に大学を訪問することは稀なようである。

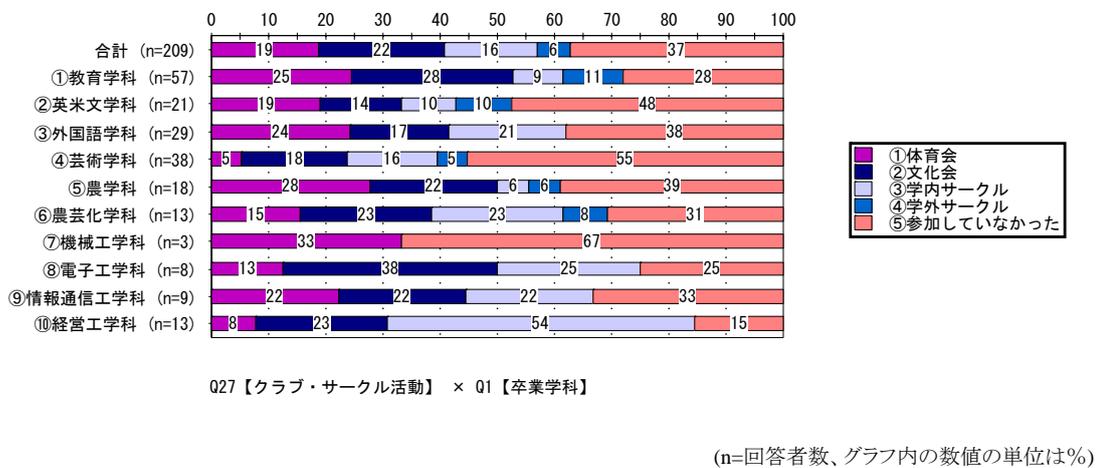
この設問と相関関係が見られる項目としては、まず Q22「資格取得などの通学」が挙げられる。本問に対し「⑤参加していなかった」と答えたグループは、「①語学、留学準備」を選択する割合が多く、「④通っていなかった」を選ぶ人が少なかった。クラブ・サークル活動をしなない生徒は、その時間を大学外での勉強に充てているようである。また、Q28「コスモス祭・収穫祭」との分析で明らかになるように、何らかのクラブ・サークル活動をしている者は企画側で学園祭に参加する傾向が強い。Q16「誇れること」に関しては、本問に対し「学内サークル」と答えた人は、「③友人」を選択するなど、クラブ・サークル活動によって交友関係を広げることができるようである。

Q45「興味・関心」との分析で明らかになるように、特に体育会に参加していた人は、大学を離れた後も学生時代の興味・関心を持ち続けているようである。

<1998年>



■ 卒業学科の内訳

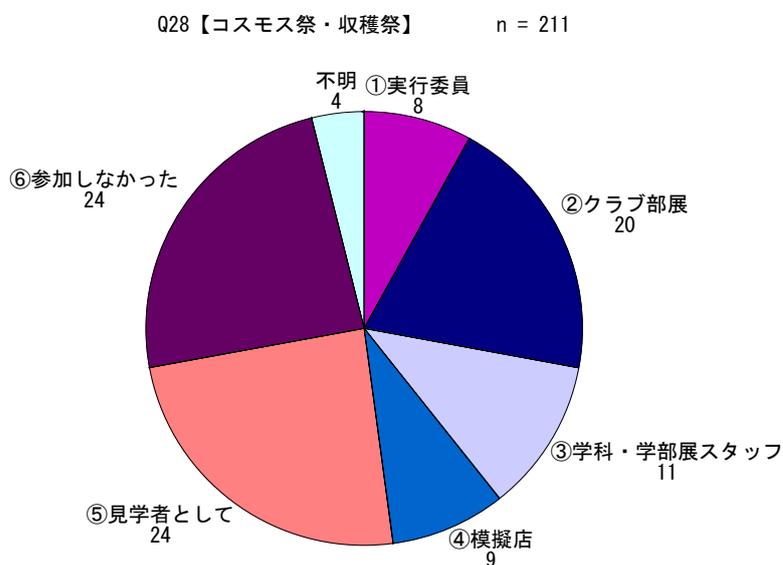


Q28. コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか(主とするもの)

学科・学部展スタッフとして参加が増加

コスモス祭・収穫祭への参加状況について尋ねたところ、下のグラフのような結果となった。割合が増加した回答は「学科・学部展スタッフ(11%:+8)」、割合が減少した回答は「見学者として(24%:-6)」、「参加しなかった(24%:-4)」となった。コスモス祭・収穫祭への参加は前回と比較すると活性化されてきたと考えられる。

<2007年>

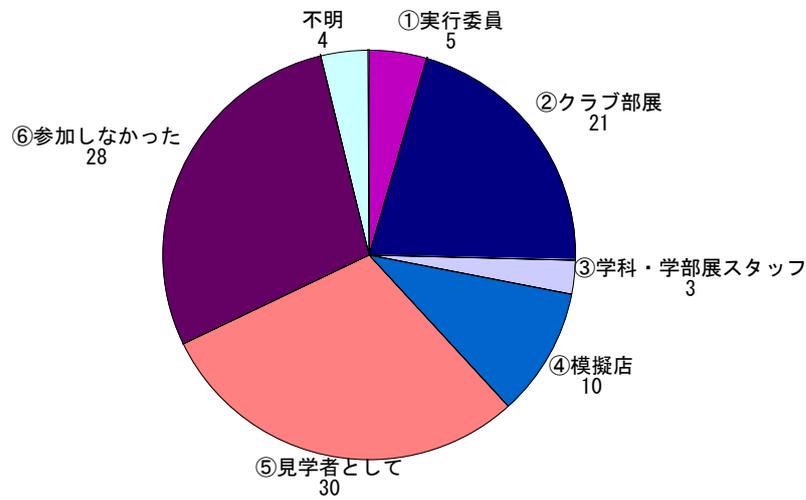


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「⑤農学科」を選択したグループは「①実行委員」を、「④芸術学科」を選択したグループは「③学科・学部展スタッフ」を選択した割合がそれぞれ全体と比較して高かった。また、Q8「志望順位」で「①第一志望」を選択したグループは「⑥参加しなかった」を選択した割合が全体と比較して低く、Q15「卒業後訪問」で「⑤ない」を選択したグループは「⑥参加しなかった」を選択した割合が全体と比較して高かった。

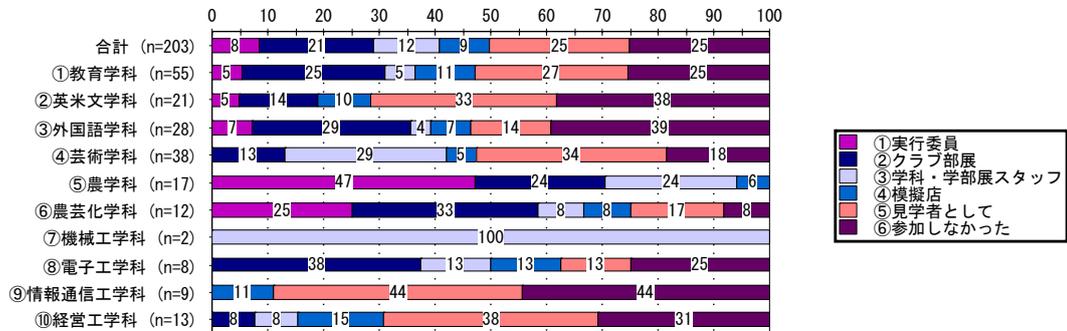
<1998 年>

Q28 【コスモス祭・収穫祭】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q28 【コスモス祭・収穫祭】 × Q1 【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q29. 昼食はどのようにしていましたか（主とするもの）

67%が学内食堂

昼食について尋ねたところ、67%が「学内食堂」を利用と回答。前回と比較すると「学内食堂（－5）」がわずかに減少して、「弁当持参（18%：＋3）」、「学外で購入（10%：＋3）」がわずかに増えている。

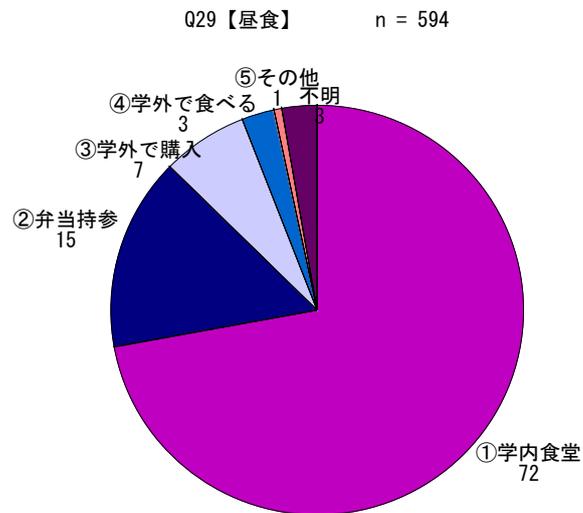
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

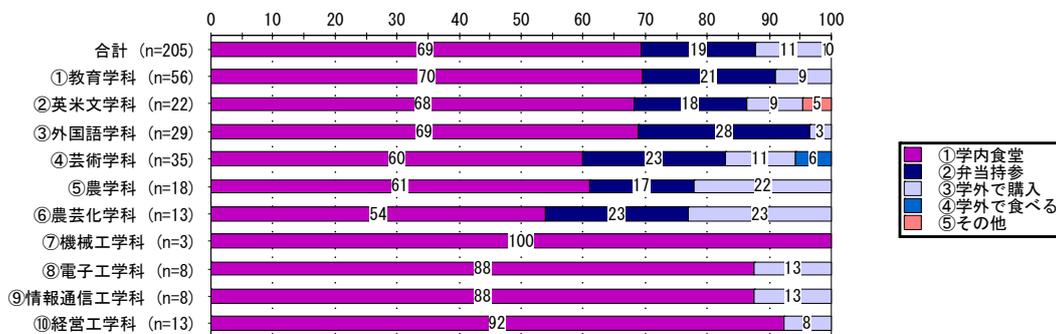
他の設問との関連としては、Q2「性別」で「男性」を選択したグループは「①学内食堂」を選択した割合が全体と比較して高く、女性は「②弁当持参」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q29【昼食】 × Q1【卒業学科】

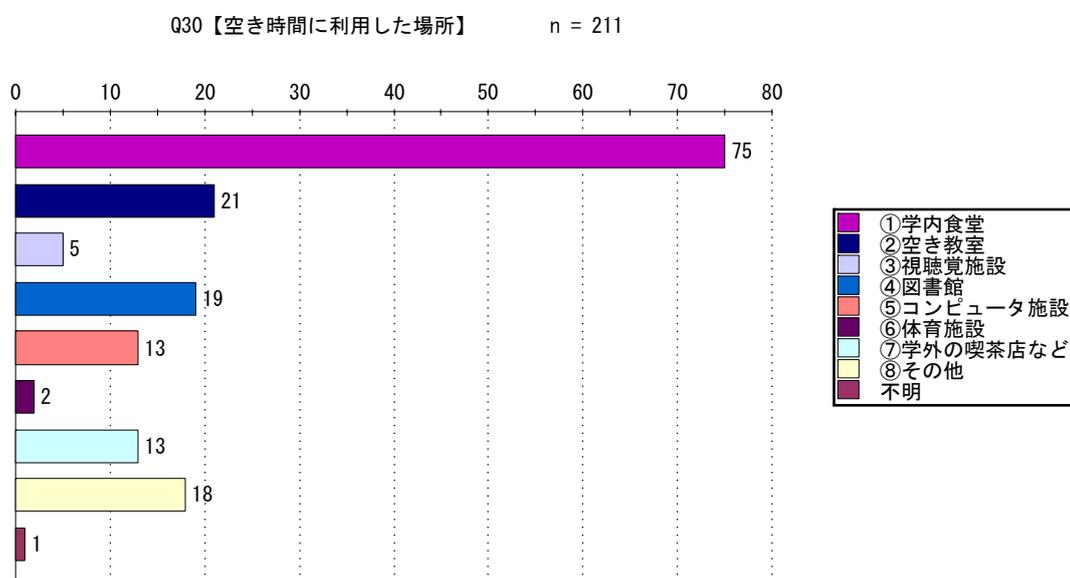
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q30. 空き時間によく利用した場所はどこですか(複数可)

学外の喫茶店、学内食堂からコンピュータ施設へ移動

空き時間によく利用した場所について尋ねたところ、75%(-6)が「学内食堂」と回答。前回よりも若干減少している。その他の項目に関しては「学外の喫茶店(13%:-17)」が大きく減少して、「コンピュータ施設(13%:+12)」が大きく増加した。インターネットが学生にとっての必需品となり、常に「つながってられる」場所を求めていることがうかがえる。

<2007年>



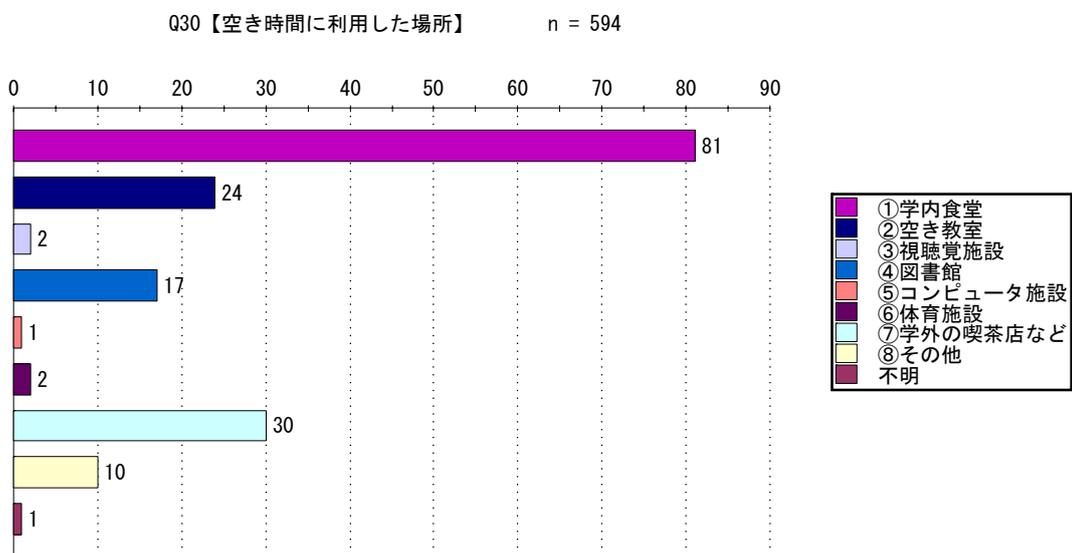
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑧その他」を選択した 37 件のうちの記述回答は以下の通りである(複数分類)。

部室	8	校舎のロビー	1
練習室・専科教室	8	読書室	1
ゼミ・研究室	3	喫煙所	1
友人宅	3	テニスコート	1
芝生	2	レストラン	1
ベンチ	2	空き時間なし	1
計			32

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「④芸術学科」を選択したグループは「⑧その他」を選択した割合が全体と比較して高く、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「②空き教室」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、「⑦学外の喫茶店など」が選択された割合は、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループでは全体と比較して低く、「②30～34歳」を選択したグループでは高い。

<1998年>



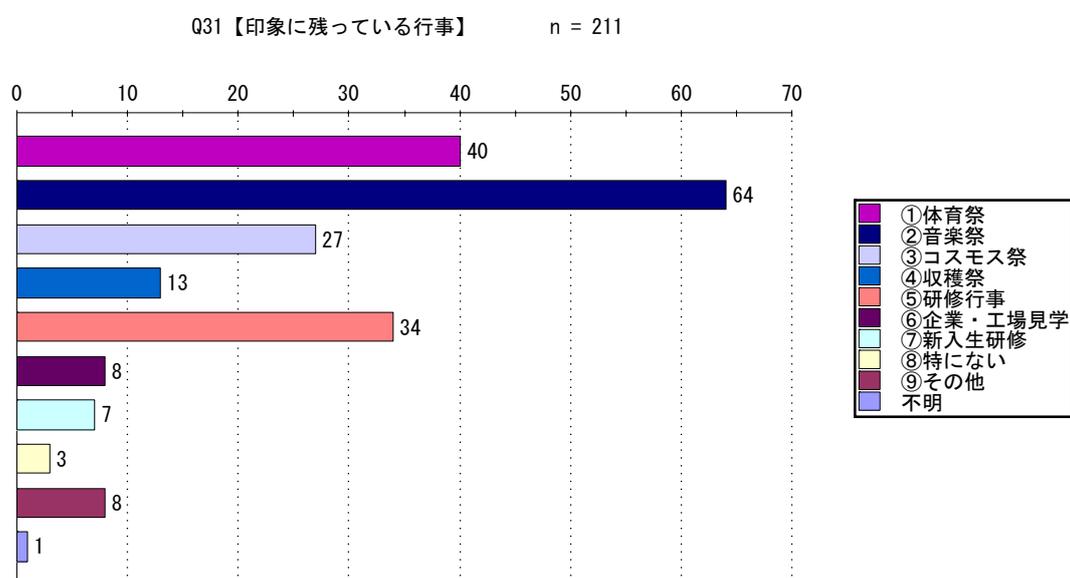
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q31. 印象に残っている行事はなんですか(複数可)

音楽祭＞体育祭＞研修行事＞コスモス祭

印象に残っている行事について尋ねたところ、「音楽祭(64%:-3)」、「体育祭(40%:+9)」、「研修(教養)行事(34%:-36)」、「コスモス祭(27%:+5)」などが挙げられた。前回と比較すると「体育祭」、「コスモス祭」のスコアが若干増加している。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

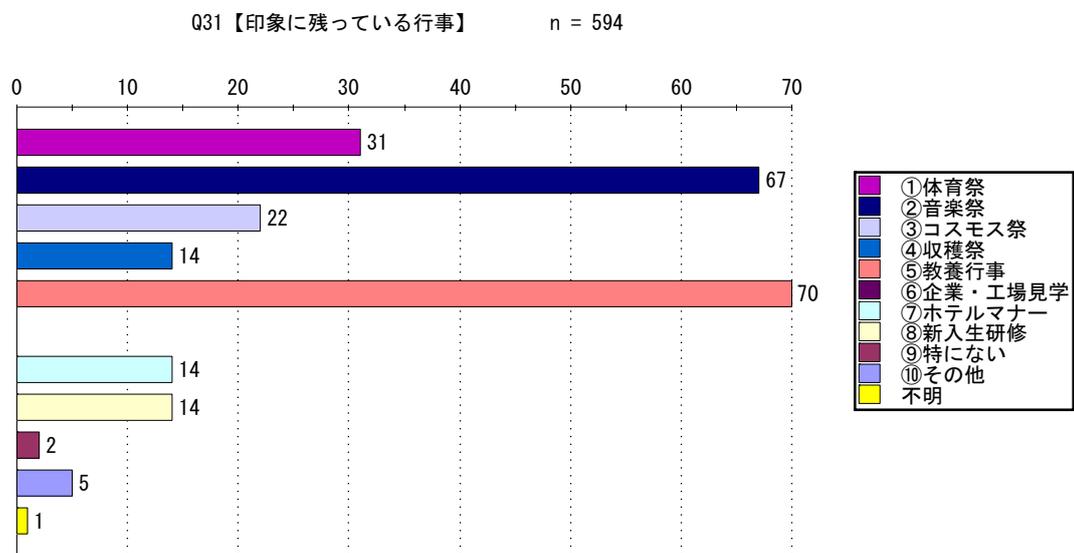
「⑨その他」を選択した 17 件のうちの記述回答は以下の通りである(複数分類)。

演奏会(卒業・第九・部活)	3
クリスマス礼拝	3
礼拝	2
工場実習	2
卒論	1
小野ゼミでの活動	1
農場実習	1
労作	1
留学	1
中学部の駅伝大会	1
計	16

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「①体育祭」、「③外国語学科」を選択したグループは「②音楽祭」、「⑤農学科」を選択したグループは「④収穫

祭」、「④芸術学科」を選択したグループは「⑤研修行事」を選択した割合が全体と比較してそれぞれ高く、学科間で顕著な差が見られた。また、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「②音楽祭」を選択した割合が全体と比較して高く、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループは「①体育祭」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

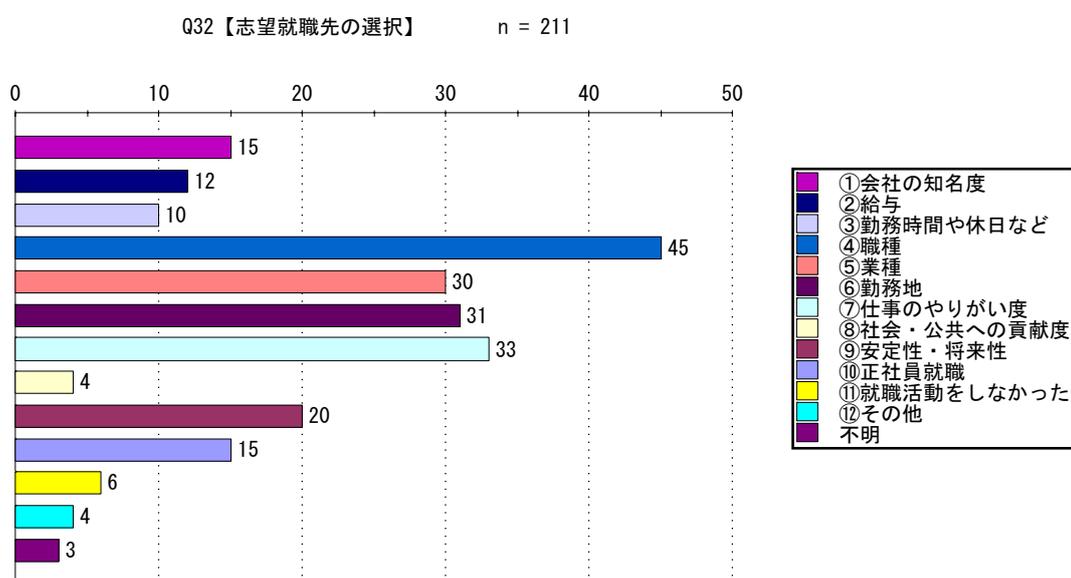
4. 就職

Q32. 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか(複数可)

職種＞仕事のやりがい＞勤務地＞業種

志望就職先を選択するときに重視したことについて尋ねたところ、「職種(45%:-11)」、「仕事のやりがい度(33%:-2)」、「勤務地(31%:-8)」、「業種(30%:前回はなし)」などが挙げられた。前回と比較すると「職種」、「勤務地」のスコアが若干減少している。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

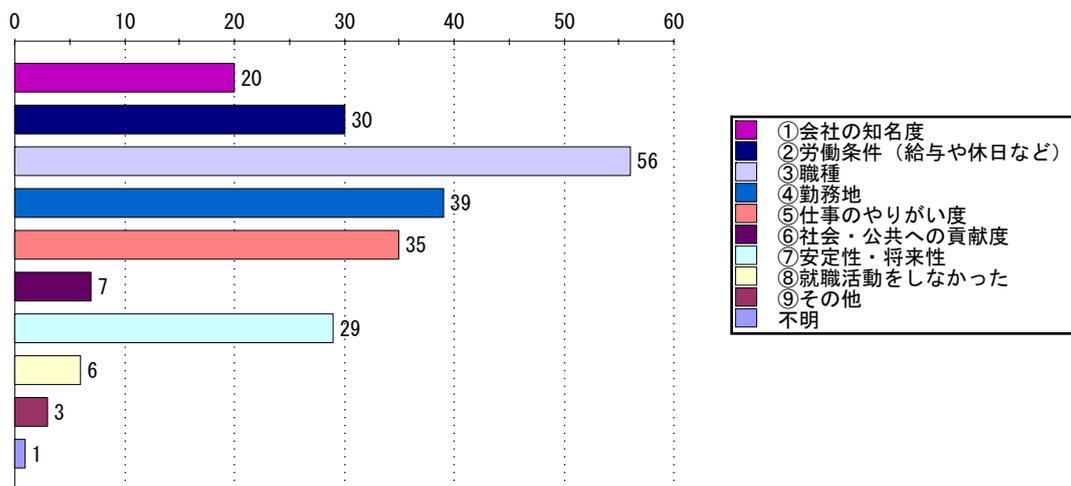
「⑫その他」を選択した8件のうちの記述回答は以下の通りである。

海外留学	1
留学重視	1
教員志望	1
実力主義	1
社風	1
女性として長く勤められそうか	1
計	6

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「⑩正社員就職」を選択した割合が全体と比較して低く、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「①会社の知名度」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「⑨安定性・将来性」を選択した割合が全体と比較して高い。

<1998年>

Q32【志望就職先の選択】 n = 594



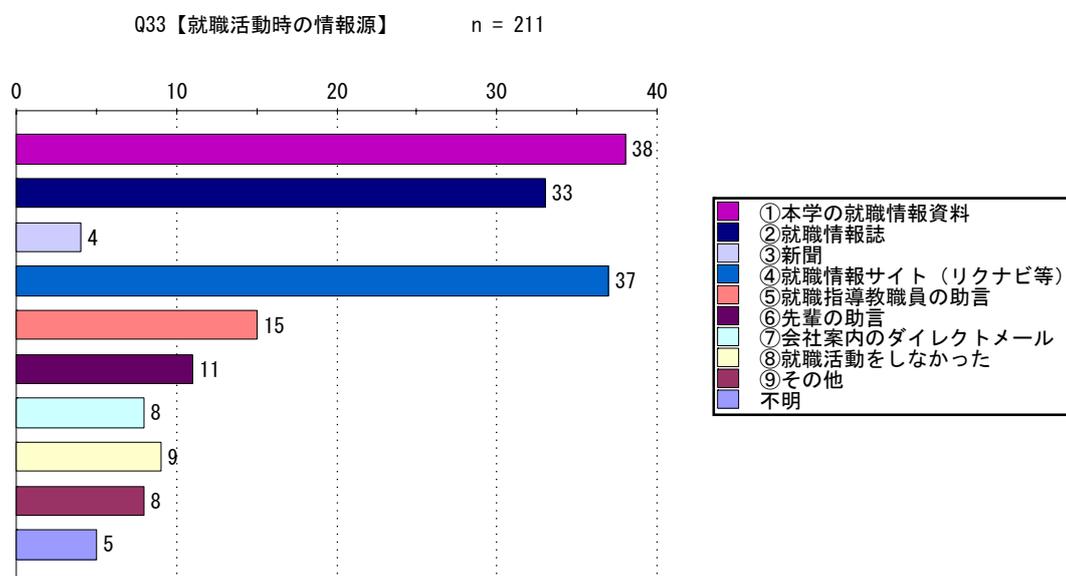
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q33. 就職活動時に参考にした情報源はなんですか(複数可)

37%が就職情報サイトを活用

就職活動時に参考にした情報源について尋ねたところ、「本学の就職情報資料(38%:-2)」、「就職情報サイト(37%:前回はなし)」、「就職情報誌(33%:-4)」の順になった。かなりの数の学生がインターネットによって就職情報を収集していることがわかる。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

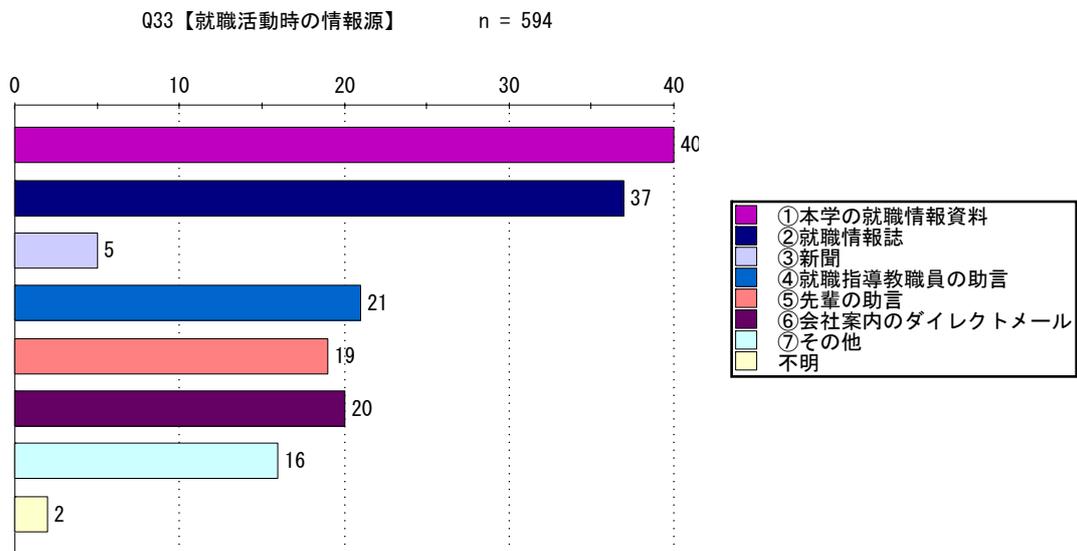
「⑨その他」を選択した 16 件のうちの記述回答は以下の通りである。

親・コネ	3
自分でさがした・調べた	3
インターネット	1
企業合同セミナー	1
他大学の就職情報資料	1
ハローワーク 卒業後	1
直接接点のあった先輩社員	1
特に無し	1
計	12

他の設問との関連としては、Q3「年齢」で「①29 歳未満」を選択したグループは「④リクナビ等」、「⑤就職指導教職員の助言」を選択した割合が全体と比較して高く、「②30～34 歳」を選択したグループは「②就職情報誌」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「②就職情報誌」、「④リクナビ等」を選択した割合が全体と比較して

高く、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「⑤就職指導教職員の助言」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



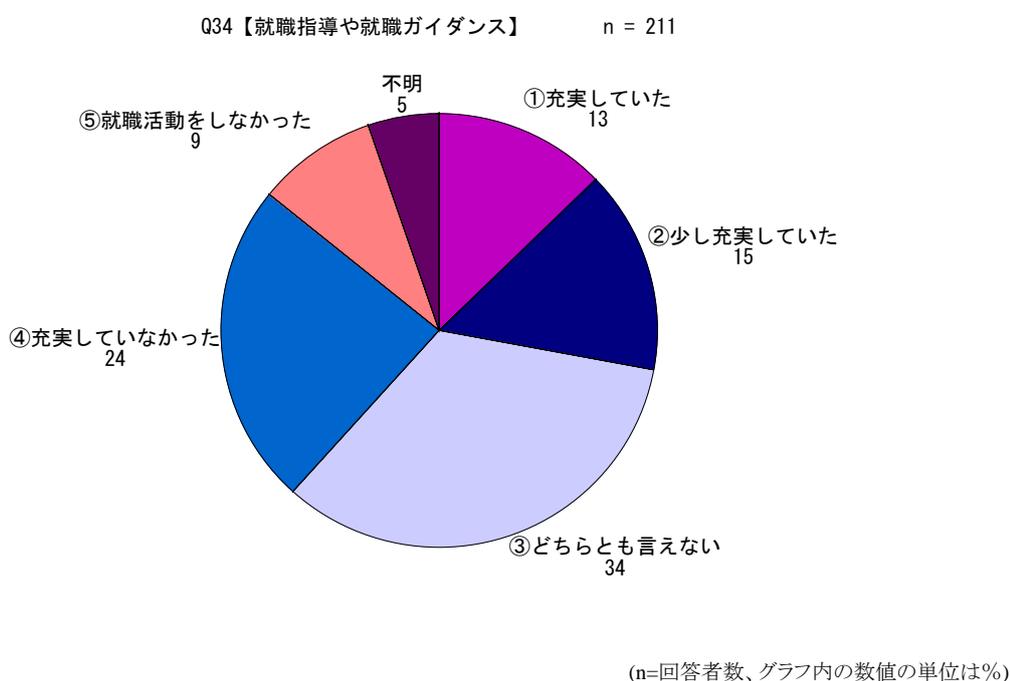
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q34. 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか

就職指導や就職ガイダンスの充実度は減少

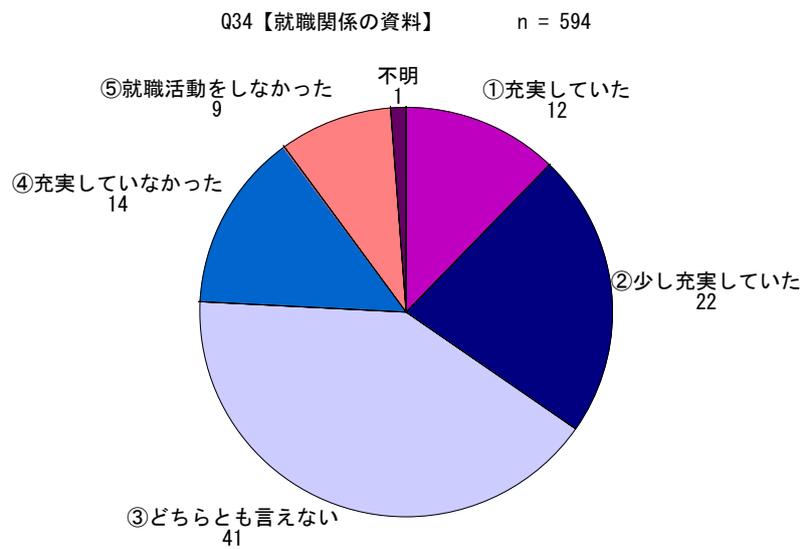
就職指導や就職ガイダンスについて尋ねたところ、「充実していた(「少し充実していた:を含む)」が 28%(-6)、「充実していなかった(24%:+10)」となった。毎年、就職に関する環境が変化するなか、インターネットなどで得られる情報よりも、魅力的な情報やノウハウの提供していく必要があると考えられる。

<2007年>



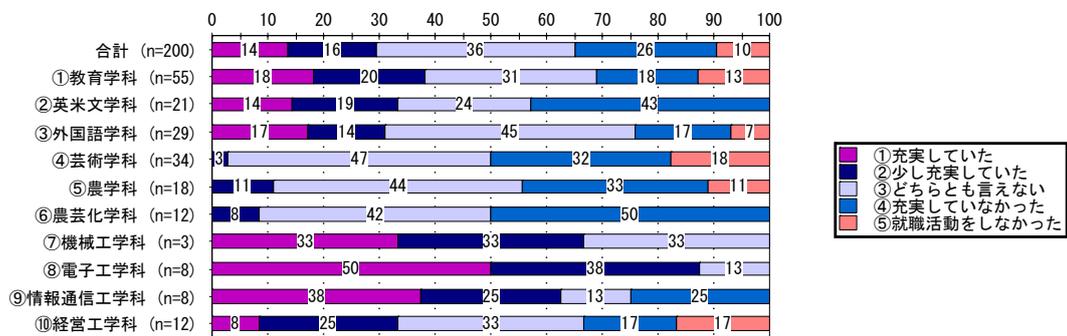
他の設問との関連としては、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループは「④充実していなかった」を選択した割合が全体と比較して低く、「②30～34歳」を選択したグループは「④充実していなかった」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q34【就職指導や就職ガイダンス】 × Q1【卒業学科】

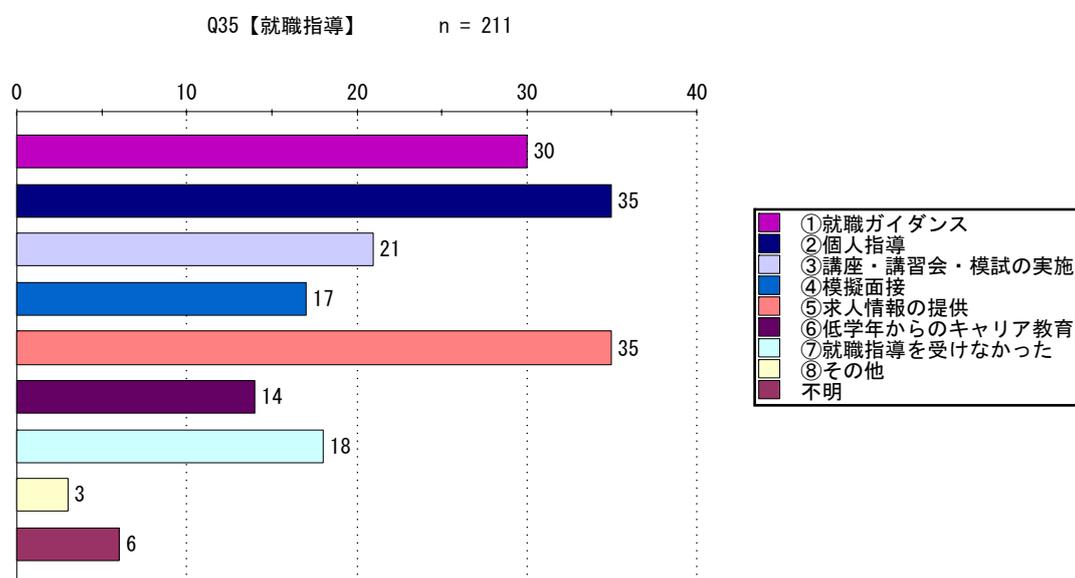
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q35. 就職活動の観点から重要だと感じたものはなんですか(複数可)

就職ガイダンス、個人指導の重要度は増加

就職活動の観点から重要だと感じたものについて尋ねたところ、「個人指導(35%:+2)」、「求人情報の提供(35%:-9)」、「就職ガイダンス(30%:+6)」などが上位にあげられた。就職ガイダンスについては学生にとっての重要度は増して、内容的に質の高いものが求められていることがわかる。

<2007年>



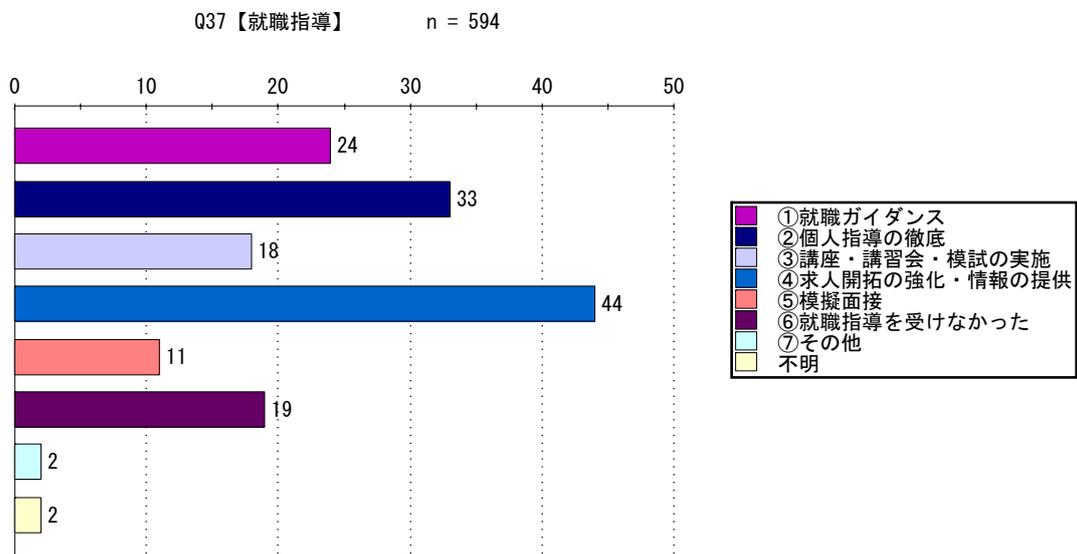
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑧その他」を選択した6件のうちの記述回答は以下の通りである。

OBOG 交流会、先輩からの経験談	2
働く意味	1
本人の気力	1
全てにおいて不足していた	1
計	5

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「④芸術学科」を選択したグループ、Q3「年齢」で「②30~34歳」を選択したグループは「⑦就職指導を受けなかった」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「③講座・講習会・模試の実施」を選択した割合が全体と比較して高く、Q9「入学形態」で「①一般入学試験」を選択したグループは「②個人指導」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

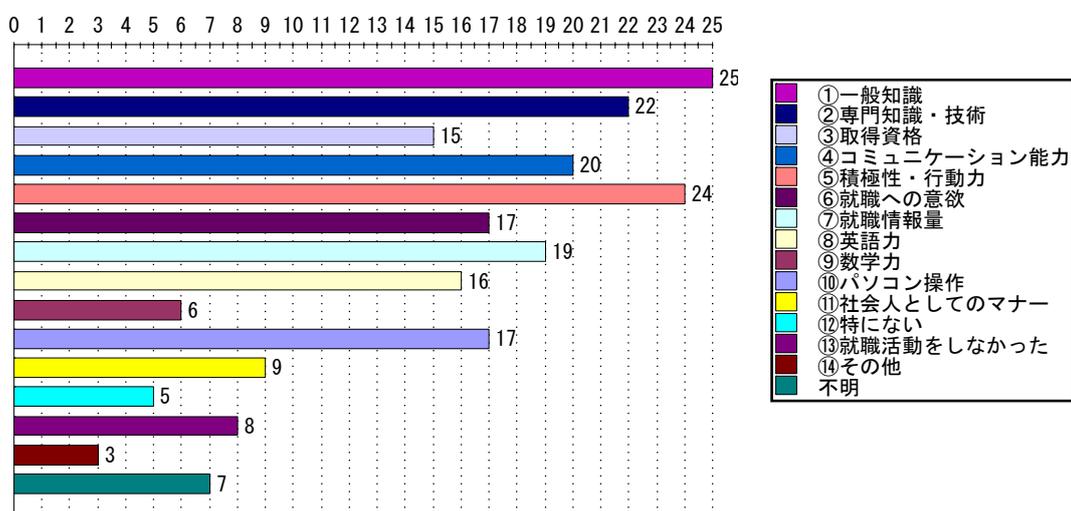
Q36. 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものは(複数可)

一般知識 > 積極性・行動力 > 専門知識・技術

就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものについて尋ねたところ、「一般知識(25%:+4)」、「積極性・行動力(24%:+7)」、「専門知識(22%:-3)」、「コミュニケーション能力(20%:前回はなし)」、「就職情報量(19%:+1)」などが上位にあげられた。「積極性・行動力」に対する意識が前回よりも高まっている。

<2007年>

Q36【自分に不足していたもの】 n = 211



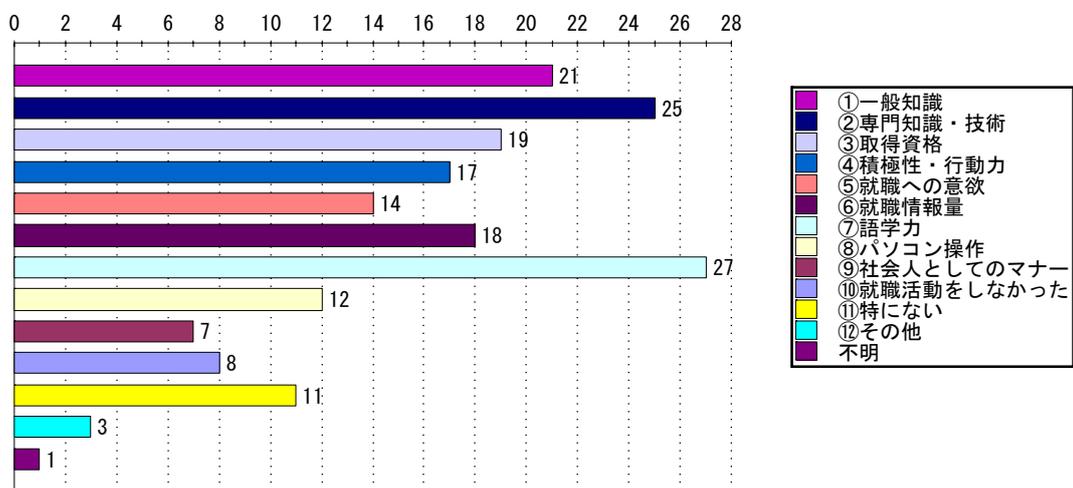
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑭その他」を選択した6件のうちの記述回答は以下の通りである。

一般企業に通じるスキル	1
大学の知名度	1
努力の足りなさ	1
何がやりたいかわからなかった	1
計	4

<1998年>

Q38【自分に不足していたもの】 n = 594



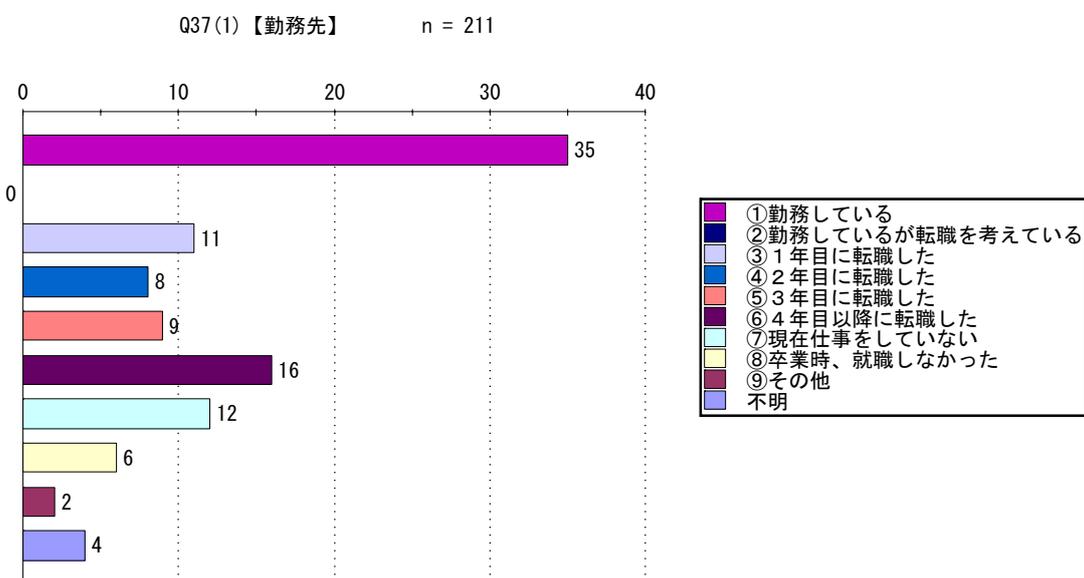
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q37(1). 最初の就職先に現在も勤務していますか(複数可)

44%が既に転職。前回よりも13ポイント上昇

最初の就職先に現在も勤務しているかを尋ねたところ、44%(+13)が「既に転職をした」と回答した。卒業後転職した人のうち3年以内に転職した人の割合は約30%となっている。前回と比較して転職率が上昇していることがわかる。一方、「現在仕事をしていない」と回答した人の割合は19%から12%に減少した。

<2007年>



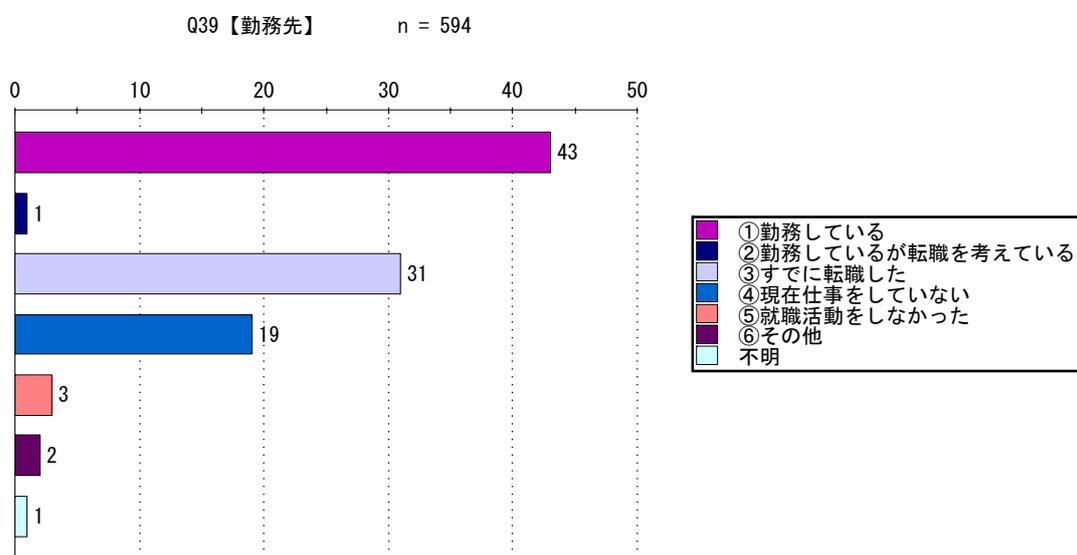
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑨その他」を選択した6件のうちの記述回答は以下の通りである。

2ヶ月で転職。含研修	1
5年勤め、結婚退職	1
同じ職種で別の所へ	1
在学中に内定取消した。	1
卒業後6年留学後	1
計	5

他の設問との関連としては、Q2「性別」で「女性」を選択したグループは「⑦現在仕事をしていない」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

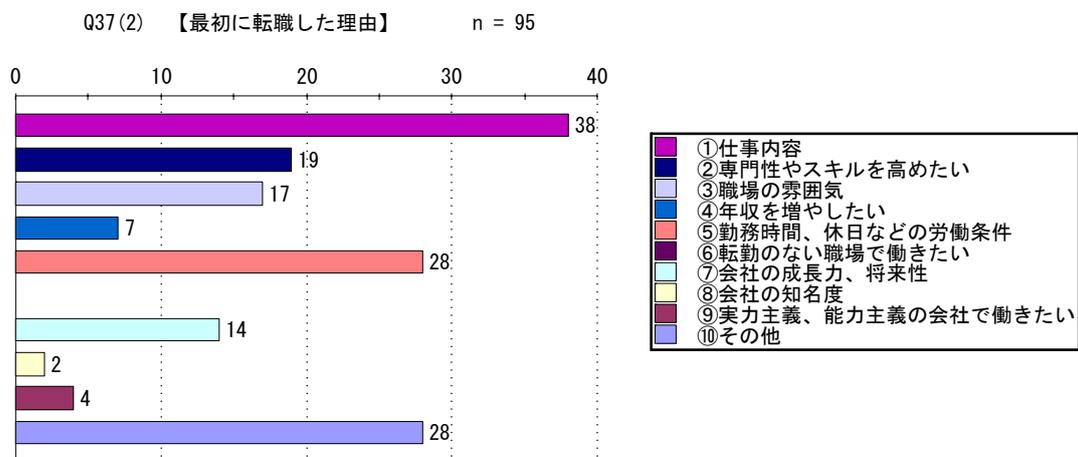
Q37(2). 最初に転職した理由はなんですか(複数可)

仕事内容、労働条件

最初に転職した理由を尋ねたところ、「仕事内容(38%:前回はなし)」、「勤務時間、休日などの労働条件(28%:前回はなし)」などが上位にあげられた。

※ 本項目は新規の質問のため、前回との比較はできない。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑩その他」を選択した 28 件のうちの記述回答は以下の通りである。

やりたい事を見つけた	5
Uターン・家業を継ぐ	5
結婚	4
資格を生かせる職に	1
海外に出て働きたかったため。	1
ヘッドハンティング	1
就職会宿で自分を気に入ってくれたから	1
体調をくずした	1
会社の倒産	1
求人内容と全く異なっていた	1
計	21

他の設問との関連としては、Q3「年齢」で「①29歳未満」を選択したグループは「⑩その他」を選択した割合が全体と比較して高く、Q37(1)「勤務先」で「⑥4年目以降に転職した」を選択したグループは「①仕事内容」を選択した割合が全体と比較して低かった。

Q38. 最初の就職後、自分に不足していたと感じた能力はなんですか(複数可)

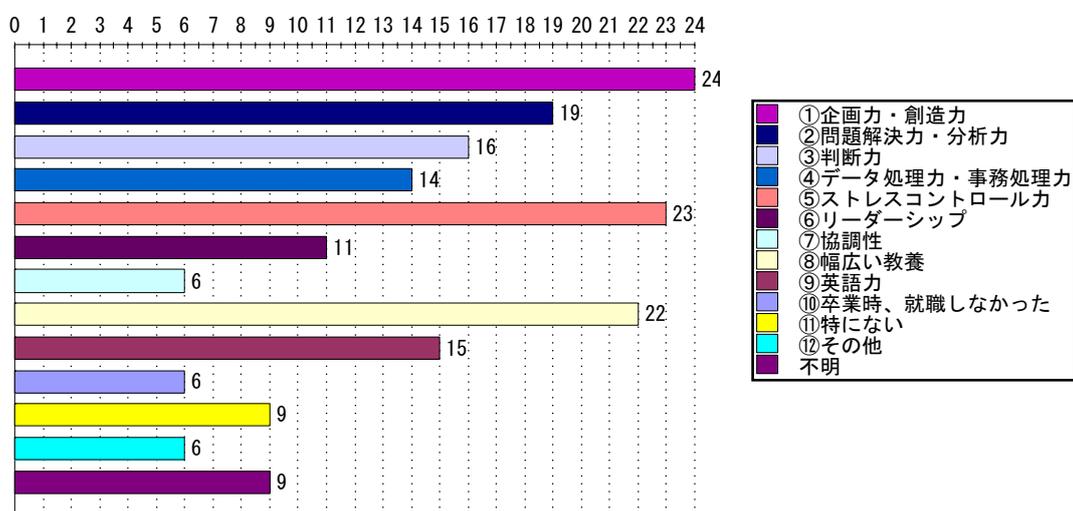
企画力・創造力、ストレス耐性、教養など

自分に不足していたと感じた能力について尋ねたところ、「企画力・創造力(24%)」、「ストレスコントロール力(23%)」、「幅広い教養(22%)」、「問題解決力・分析力(19%)」、「判断力(16%)」などが上位にあげられた。

※ 本項目は新規の質問のため、前回との比較はできない。

<2007年>

Q38【自分に不足していた能力】 n = 211



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑫その他」を選択した 14 件のうちの記述回答は以下の通りである。

専門技術・資格	5	体力	1
コミュニケーション能力	2	空気を読む力	1
人前に立つことに慣れる力	1	ハングリー精神	1
就職活動能力	1	責任感	1
計			13

他の設問との関連としては、Q3「年齢」で「②30～34 歳」を選択したグループは「⑤ストレスコントロール力」を選択した割合が全体と比較して低く、Q5. 「受験決定時期」で「④高校 3 年生」を選択したグループは「⑧幅広い教養」を選択した割合が全体と比較して低かった。また、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「⑧幅広い教養」を選択した割合が全体と比較して高かった。

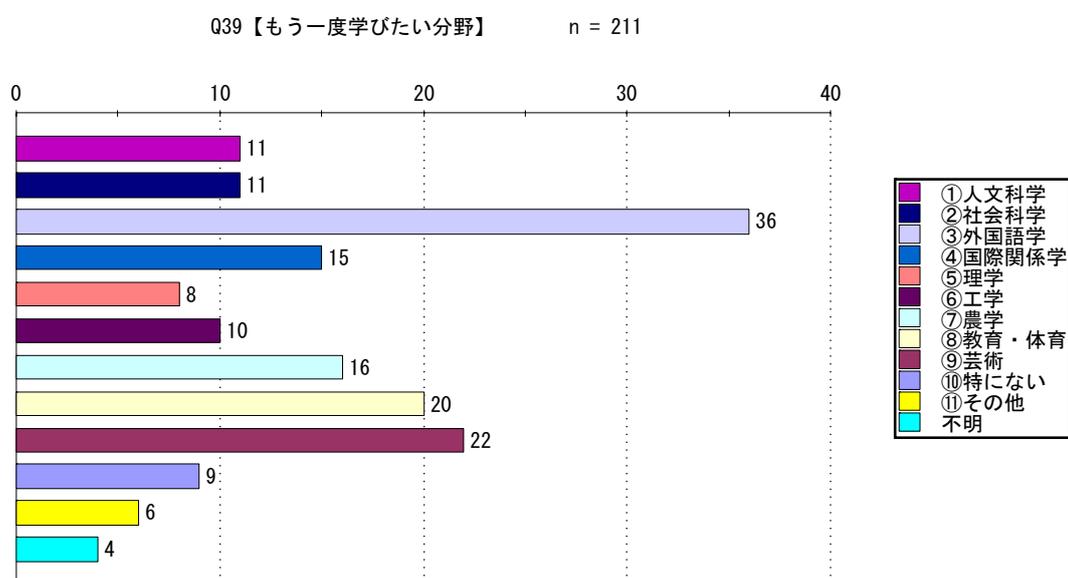
5. 生涯學習

Q39. もう一度学びたい分野はありますか(複数可)

外国語、芸術、教育・体育など

もう一度学びたい分野について尋ねたところ、「外国語学(36%:-17)」、「芸術(22%:-4)」、「教育・体育(20%:+1)」、「農学(16%:+8)」、「国際関係学(15%:-6)」などが上位にあげられた。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

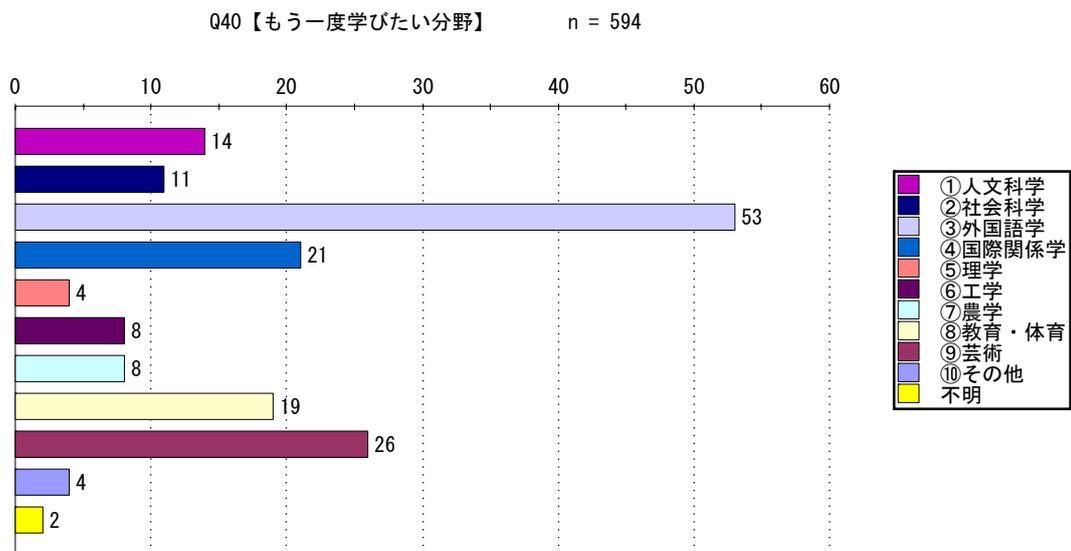
「⑪その他」を選択した 13 件のうちの記述回答は以下の通りである(複数分類)。

経済・経営・金融工学	4
医学・医療	3
法律学	2
心理学	1
ニンテンドーDS	1
計	11

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「②英米文学科」を選択したグループは「④国際関係学」を、「⑤農学科」を選択したグループは「⑦農学」を、「①教育学科」を選択したグループは「⑧教育・体育」を、「④芸術学科」を選択したグループは「⑨芸術」を、それぞれ選択した割合が全体と比較して高い。このように、大学で修学した内容を更に学びたいと言う人が多いようである。また、Q2「性別」では、「男性」を選択したグループは「⑥工学」を選択した割合が全体と比較して高く、

一方の女性は「⑨芸術」を選択した割合が全体と比較して高かった。このほか、Q4「職業」では「①民間企業」を選択したグループは「②社会科学」を選択した割合が全体と比較して高く、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「⑧教育・体育」を選択した割合が全体と比較して高いなどの傾向が見られた。

<1998年>



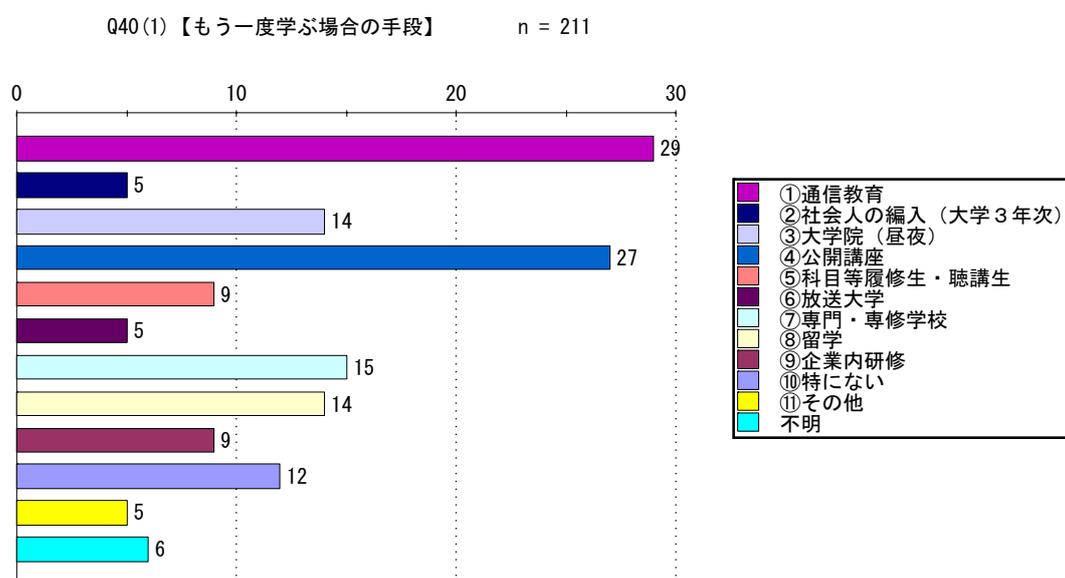
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q40.(1) もう一度学ぶ場合の手段はなにを選びますか(複数可)

トップは通信教育。しかしポイントは激減

もう一度学ぶ場合の手段について尋ねたところ、「通信教育(29%:-19)」、「公開講座(27%:-9)」、「専門・専修学校(15%:±0)」、「大学院(昼夜)(14%:+1)」、「留学(14%:-4)」などが上位にあげられた。通信教育は最上位にあるが前回と比較すると大きくスコアを落としている。

<2007年>



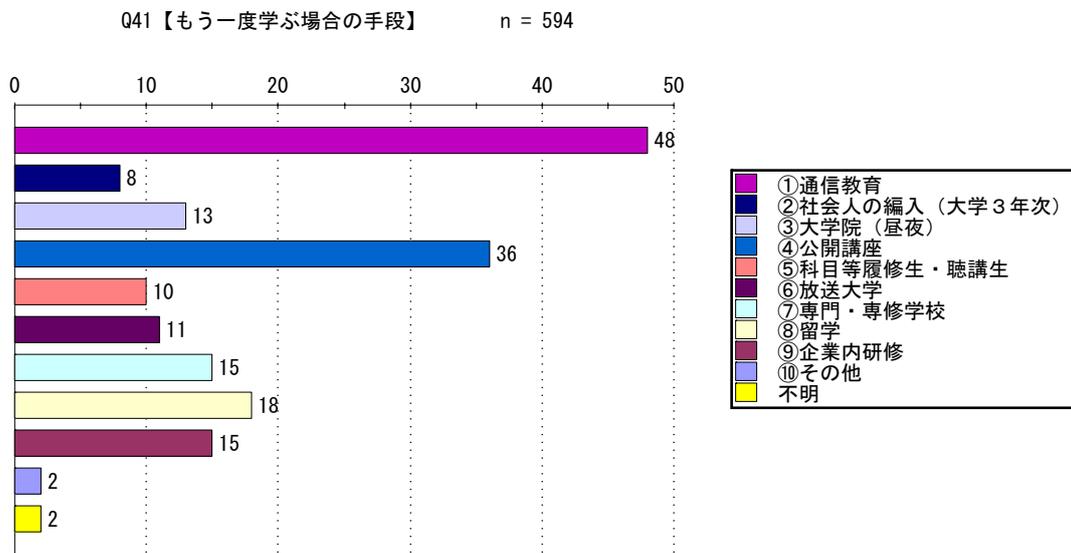
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑪その他」を選択した13件のうちの記述回答は以下の通りである。

独学	3
ニンテンドーDS	2
語学学校・スクール	2
金融	1
資格がとれる短大	1
卒業生対象講座	1
書籍	1
計	11

他の設問との関連としては、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「⑨企業内研修」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

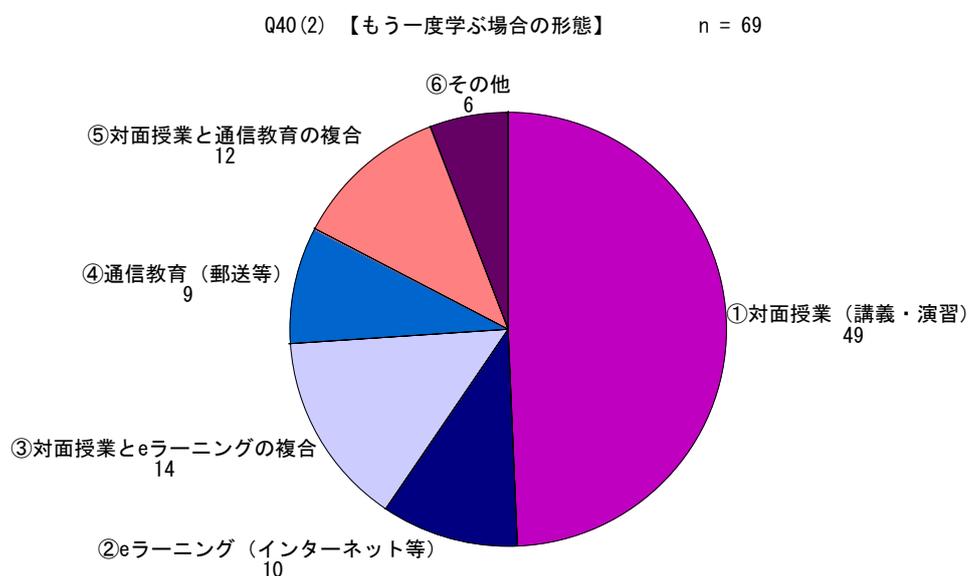
Q40.(2) もう一度学ぶ場合形態はなにを選びますか

対面授業

もう一度学ぶ場合の形態について尋ねたところ、「対面授業(49%)」、「対面授業と e ラーニングの複合(14%)」、「対面授業と通信教育の複合(12%)」などが上位にあげられた。新しいメディアを活用する場合においても、対面授業は欠かせないと考えられている。

※ 本項目は新規の質問のため、前回との比較はできない。

<2007 年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑥その他」を選択した 5 件の記述回答は以下の通りである。

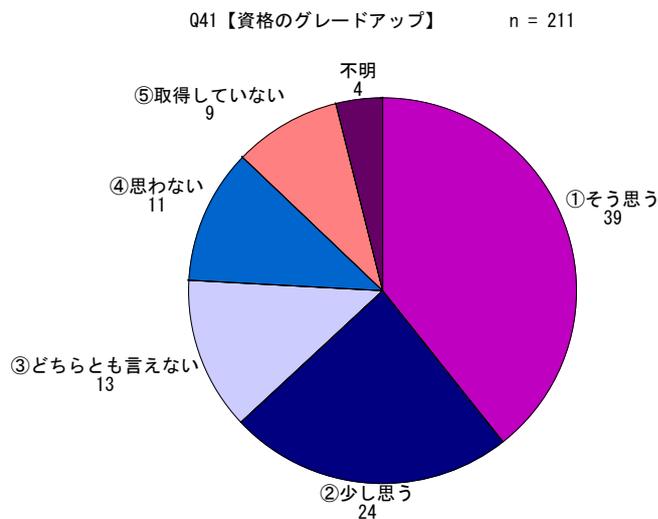
独学	3
書物から	1
特になし	1
計	5

Q41. 現在取得している資格をグレードアップしたいですか

「**そう思う(39%)**」が増加

現在取得している資格のグレードアップについて尋ねたところ、39%が「**そう思う(+9)**」、24%が「**少し思う(+1)**」、11%が「**思わない(-5)**」、9%が「**取得していない(-11)**」と回答した。この結果からも、資格取得に関する関心が高まっていることがわかる。

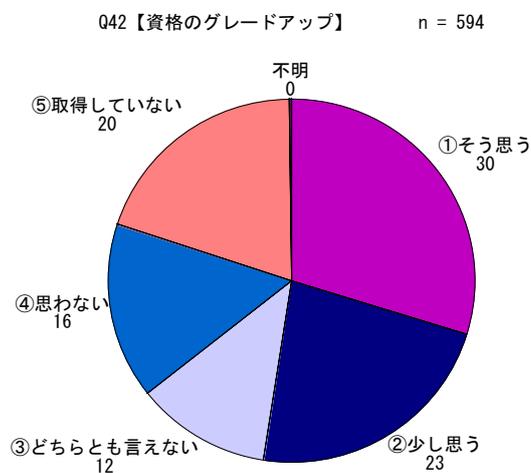
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

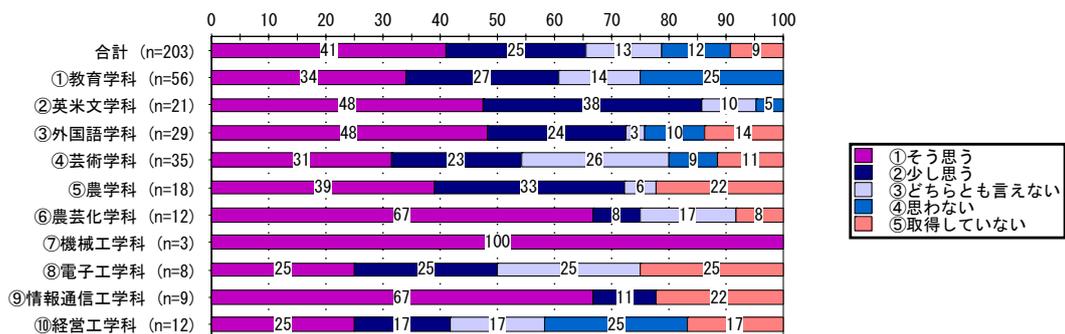
他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「④思わない」を選択した割合が全体と比較して高かった。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q41【資格のグレードアップ】 × 01【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

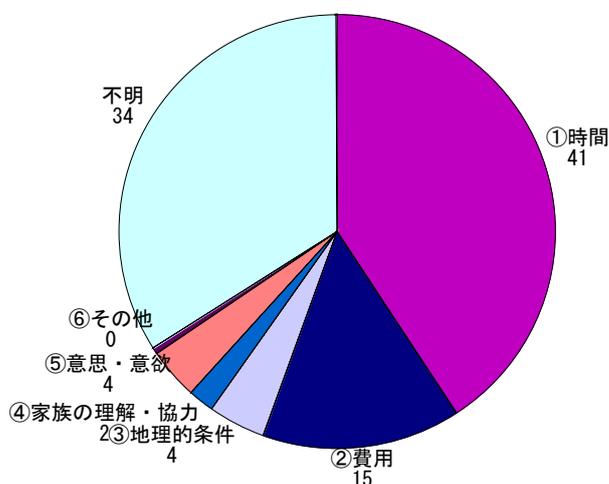
Q42. 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか

時間(41%)

継続的学習を行う場合の障害について尋ねたところ、41%が「時間(+7)」、15%が「費用(±0)」、4%が「地理的条件(-2)」、2%が「家族の理解・協力(-1)」、4%が「意思・意欲(-7)」と回答した。前回と比べると意欲はあるけれど時間がないという卒業生の姿が浮かび上がってくる。

<2007年>

Q42【継続的学習の障害】 n = 211



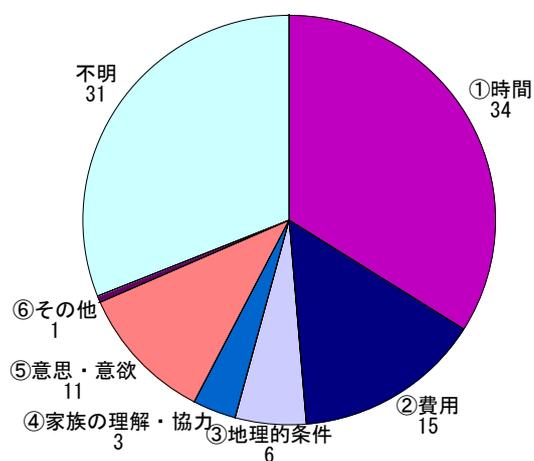
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「⑥その他」を選択した3件の記述回答は以下の通りである。

時間と費用	1
自分の気力と体力	1
場所	1
計	3

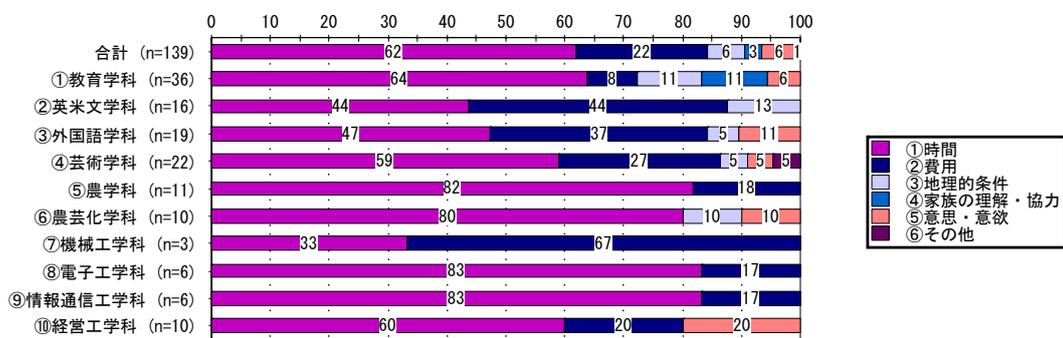
<1998 年>

Q43【継続的学習の障害】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q42【継続的学習の障害】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

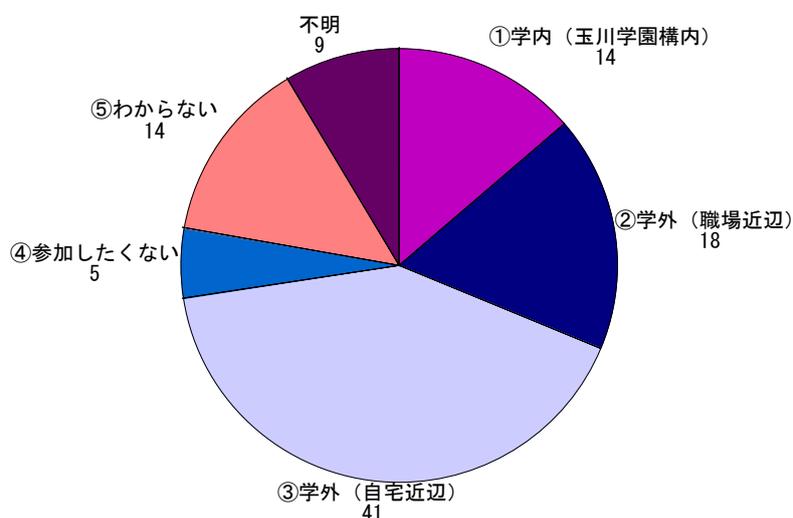
Q43. 本学公開講座についてどのような地理的条件であれば参加したいですか

「学外(自宅近辺)(41%)」が増加

本学公開講座の参加条件(地理的条件)について尋ねたところ、41%が「学外(自宅近辺)(+4)」、18%が「学外(職場近辺)(-6)」、14%が「学内(玉川学園構内)(-4)」、5%が「参加したくない(±0)」と回答した。忙しい中で、参加に要する時間を考えると、できるだけ自宅あるいは職場の近くで実施を望んでいることがわかる。

<2007年>

Q43【本学公開講座の“地理的条件”】 n = 211

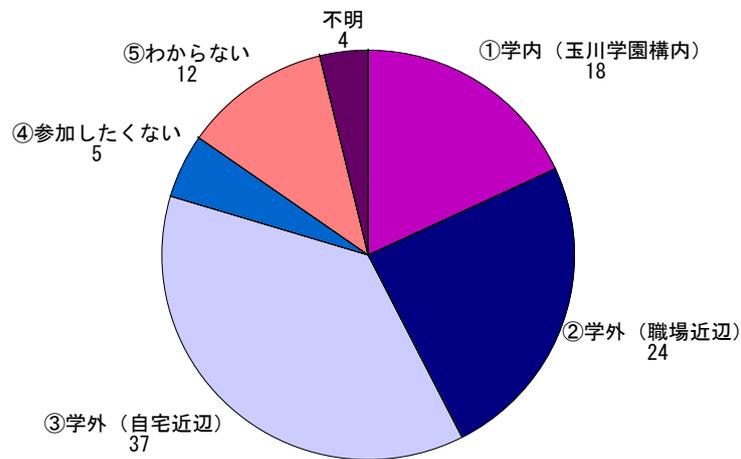


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

他の設問との関連としては、Q15「卒業後訪問」で「⑤ない」を選択したグループは「③学外(自宅近辺)」を選択した割合が全体と比較して高く、Q37(1)「勤務先」で「①勤務している」を選択したグループは「②学外(職場近辺)」を選択した割合が全体と比較して高かった。

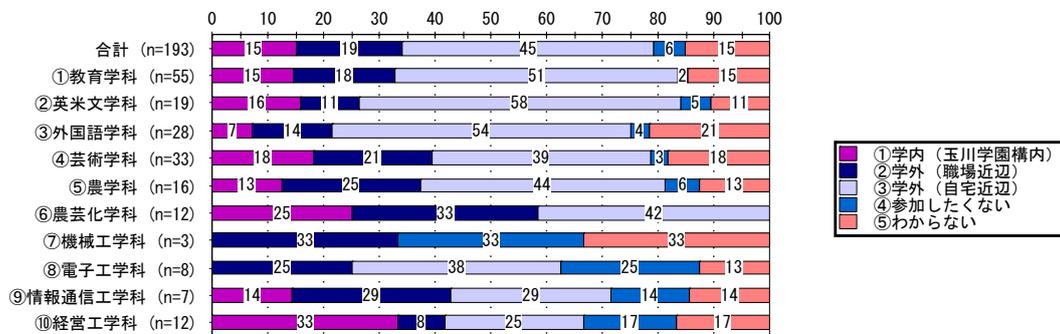
<1998年>

Q44【本学公開講座の“地理的条件”】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q43【本学公開講座の“地理的条件”】 × Q1【卒業学科】

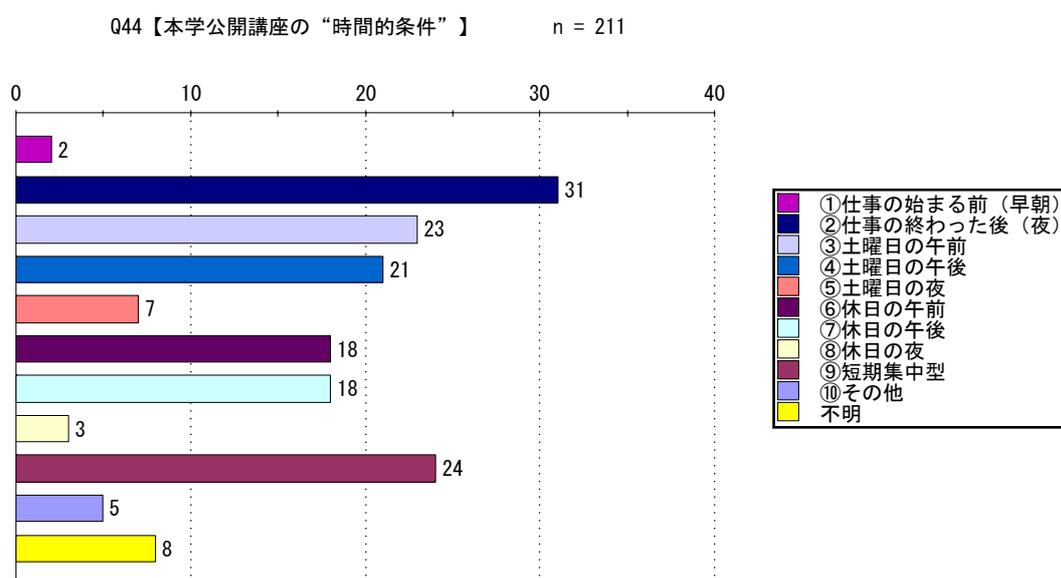
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q44. 本学公開講座についてどのような時間的条件であれば参加したいですか(複数可)

仕事の終わった後、短期集中型、土曜日の午前

本学公開講座についてどのような時間的条件であれば参加したいかについて尋ねたところ、「仕事の終わった後(夜) (31%:-1)」、「短期集中型(24%:-10)」、「土曜日の午前(23%:+1)」、「土曜日の午後(21%:-4)」などが上位にあげられた。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

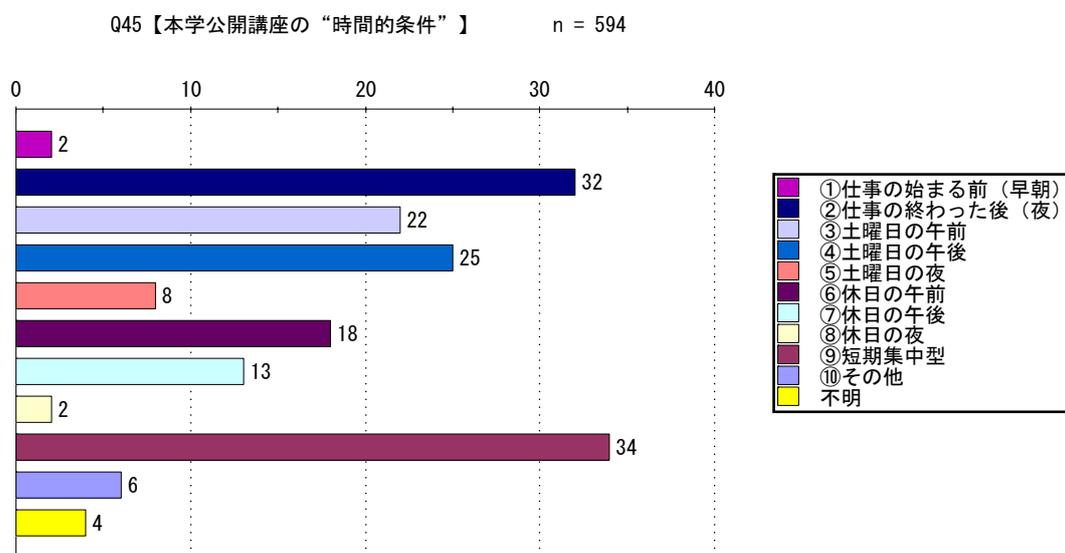
「⑩その他」を選択した 10 件他の記述回答は以下の通りである。

平日の午前・保育園の時間	2
自分で選べる時間・その時による	2
特になし	2
夜間	1
夏休み中	1
今は時間を費やしたくない	1
遠方で無理	1
今通っています	1
計	11

他の設問との関連としては、Q2「性別」で「男性」を選択したグループは「⑦休日の午後」を選択した割合が全体と比較して低く、逆に Q3「年齢」で「②30～34 歳」を選択したグループは「⑦休日の午後」を選択した割合が全体と比較して高かった。また、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「夜」を選択した割合が全体と比較して高く、「⑩専業主婦」を選択したグループは「夜」を

選択した割合が全体と比較して低かった。

<1998年>



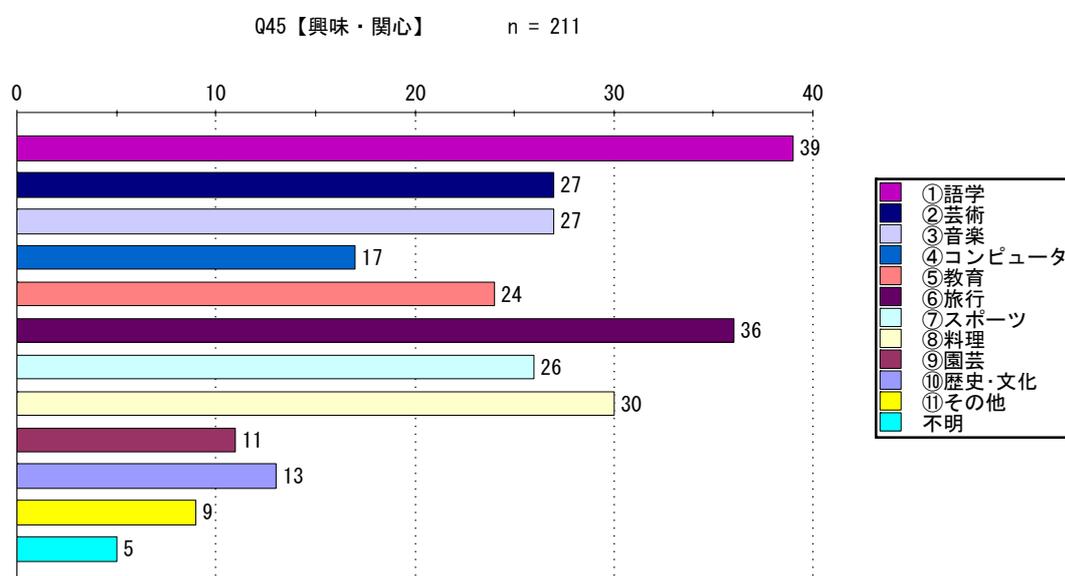
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q45. 現在興味・関心があることはなんですか（複数可）

語学＞旅行＞料理＞芸術＞音楽

現在興味・関心があることについて尋ねたところ、「語学(39%:-14)」、「旅行(36%:-7)」、「料理(30%:+6)」、「芸術(27%:-4)」、「音楽(27%:+1)」などが上位にあげられた。ただし、トップの「語学」は前回と比較して14ポイントもスコアを落としている。一方、「料理」は6ポイント、スコアを上げた。海外に対する関心よりも、日常の身近なところで楽しめる、あるいは、役に立つことを求めているとかがえる。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

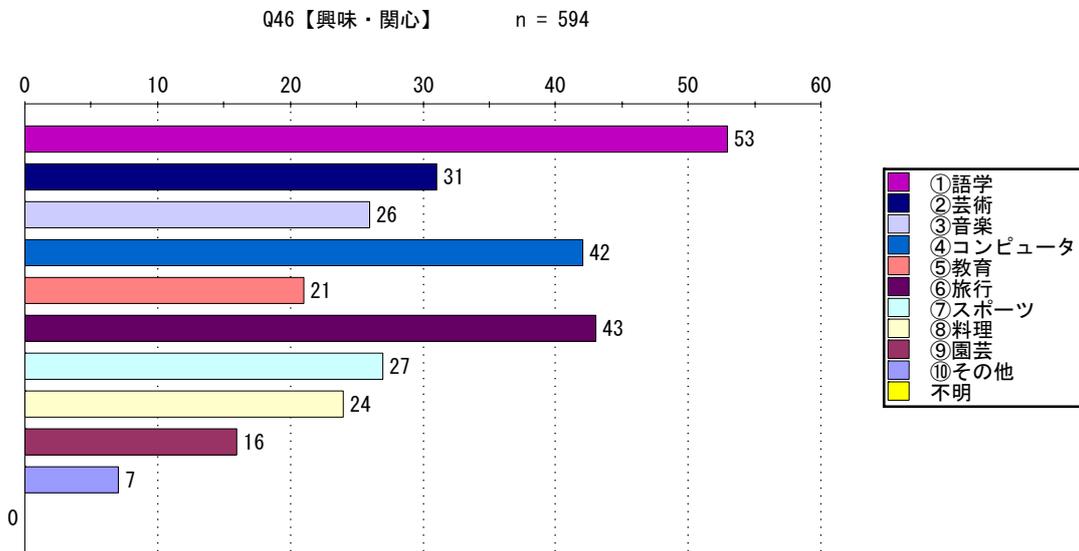
「⑪その他」を選択した18件のうちの記述回答は以下の通りである(複数分類)。

経済・経営・ビジネス・マーケティング	4
医療・看護・健康	4
育児・子育て(・障害児教育)	3
心理	2
福祉	1
生物学	1
環境	1
仕事内容	1
宗教哲学(インド・仏教)	1
計	18

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「③外国語学科」を選択したグループは「①語

学」を、「④芸術学科」を選択したグループは「②芸術」や「③音楽」を、「①教育学科」を選択したグループは「⑤教育」を選択した割合が全体と比較して高い。卒業した学科に関連した分野に対する興味・関心が強いようである。また、Q2「性別」で「男性」を選択したグループは「⑦スポーツ」を、「女性」を選択したグループは「⑧料理」を選択した割合が全体と比較して高かった。このほか、Q3「年齢」で「②30～34歳」を選択したグループは「①語学」を選択した割合が全体と比較して高い、Q4「職業」で「①民間企業」を選択したグループは「⑦スポーツ」を選択した割合が全体と比較して高く「⑤教育」、「⑧料理」などは低い、「②教員」を選択したグループは「⑤教育」を選択した割合が全体と比較して高いなどの傾向が見られた。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

6. 教育信条

※ 本項目は新規の質問のため、前回との比較はできない。

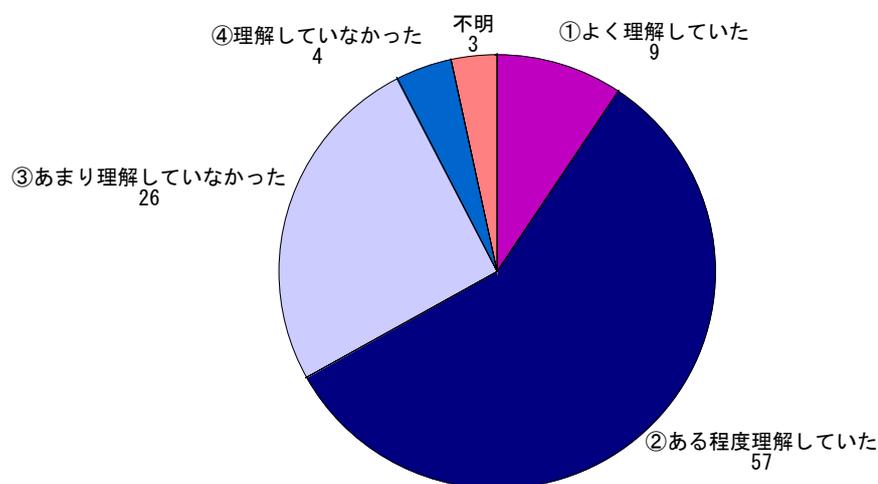
Q46(1). 在学中に本学の使命や教育信条を理解していましたか

66%がよく、あるいはある程度理解

在学中に本学の使命や教育信条の理解について尋ねたところ、9%が「よく理解していた」、57%が「ある程度理解していた」、26%が「あまり理解していなかった」、4%が「理解していなかった」と回答した。

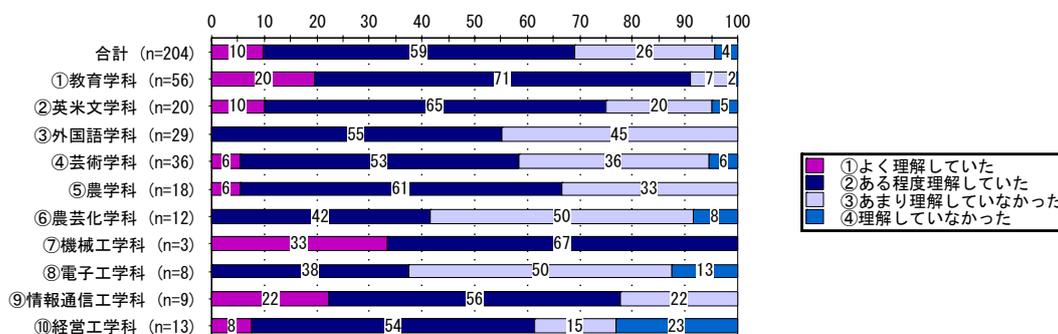
<2007年>

Q46(1)【本学の使命や教育信条の理解】 n = 211



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q46(1)【本学の使命や教育信条の理解】 × Q1【卒業学科】

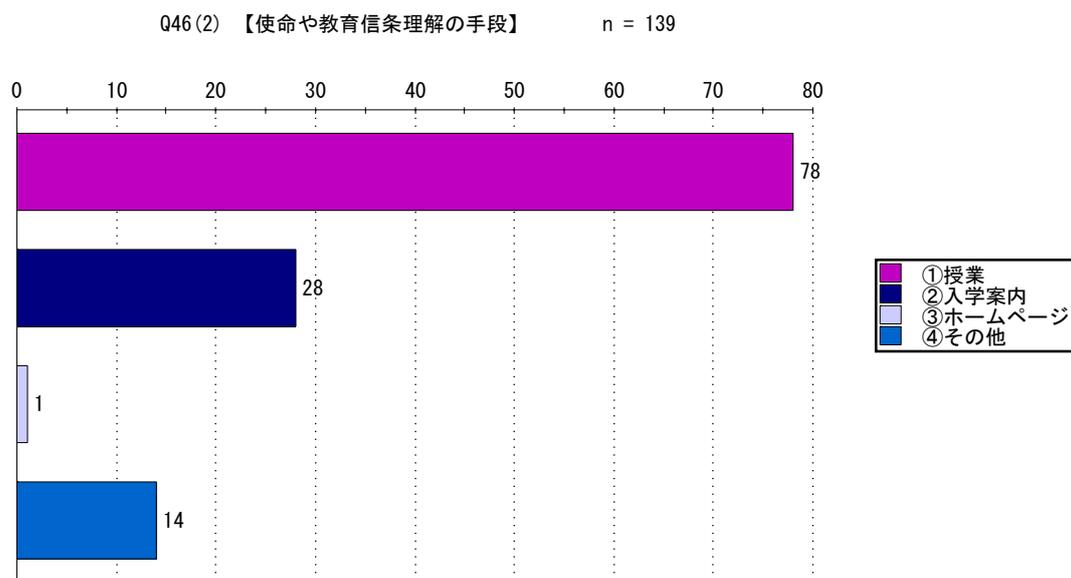
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q46(2). 何によって本学の使命や教育信条を理解していましたか（複数可）

授業

何によって本学の使命や教育信条を理解していたかについて尋ねたところ、「授業(78%)」、「入学案内(28%)」と続いた。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「④その他」を選択した 20 件の記述回答は以下の通りである(複数分類)。

小・中・高時代	6
本	5
縁者	1
校内の碑	1
ゼミ、聴講生	1
礼拝、労作	1
キャンパス全体・雰囲気	1
計	16

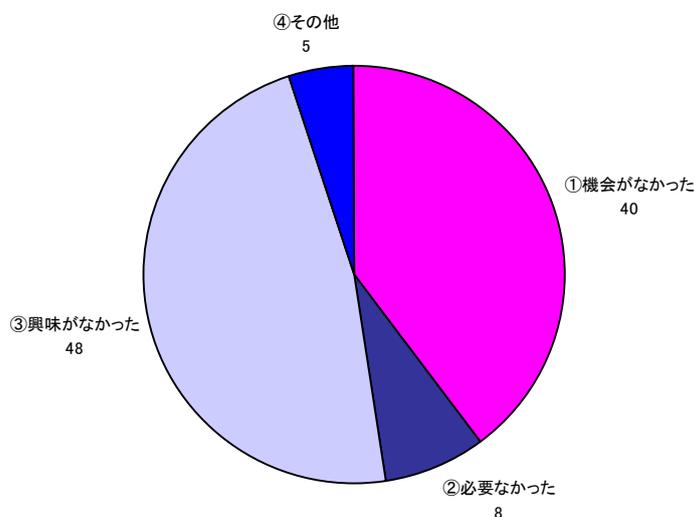
Q46(3). 本学の使命や教育信条を理解していなかった理由はなんですか

「興味がなかった」、「機会がなかった」

本学の使命や教育信条を理解していなかった理由について尋ねたところ、46%が「興味がなかった」、40%が「機会がなかった」、8%が「必要なかった」、と回答した。

<2007年>

Q46(3) 【使命や教育信条を理解していなかった理由】 n = 63

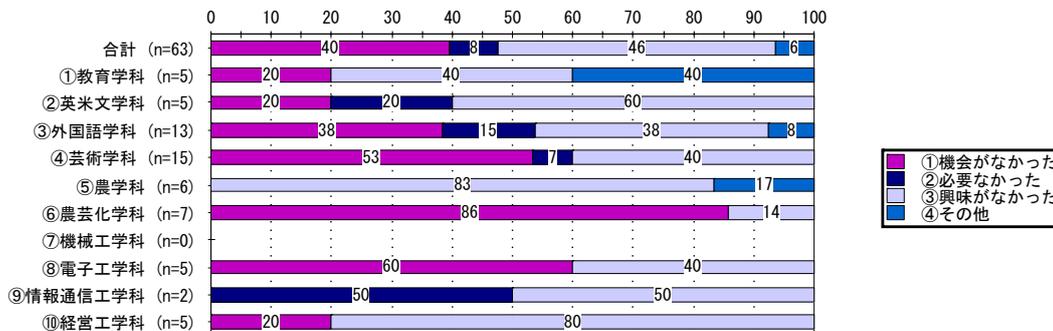


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

「④その他」を選択した4のうちの記述回答は以下の通りである。

覚えていない	1
計	1

■ 卒業学科の内訳



Q46(3) 【使命や教育信条を理解していなかった理由】 × 01 【卒業学科】

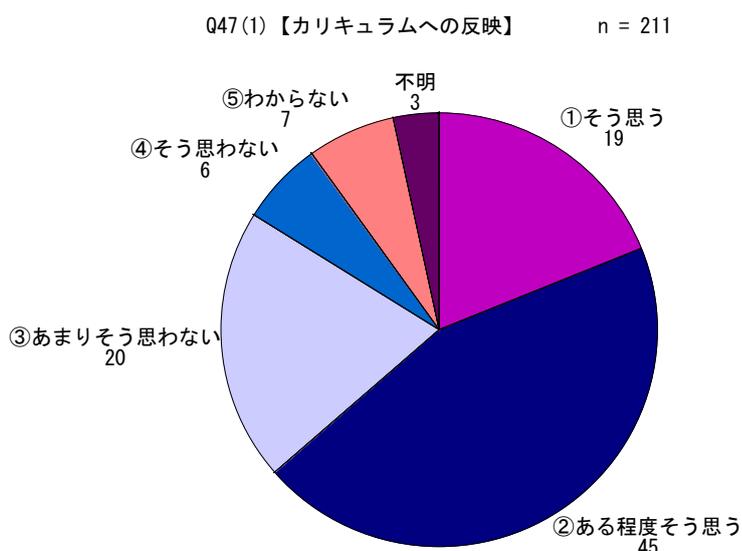
(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q47(1). 本学の使命や教育信条がカリキュラムに反映していたと思いますか

64%が「そう思う」、「ある程度そう思う」

本学の使命や教育信条がカリキュラムに反映していたと思うか尋ねたところ、19%が「そう思う」、45%が「ある程度そう思う」、20%が「あまりそう思わない」、6%が「そう思わない」と回答した。

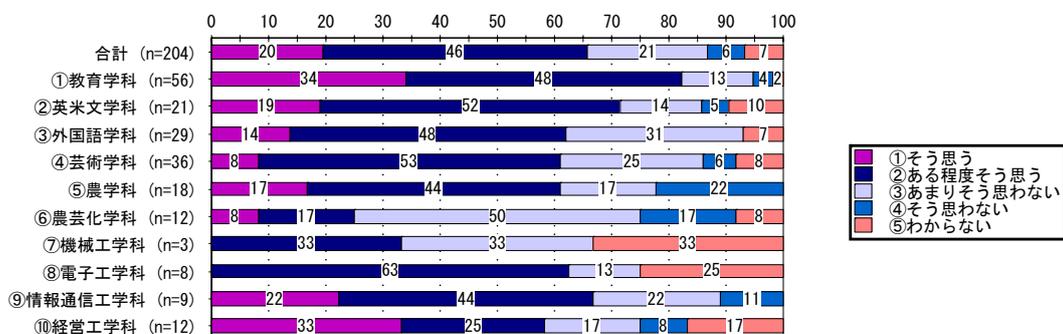
<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

他の設問との関連としては、Q1「卒業学科」で「①教育学科」を選択したグループは「①そう思う」を選択した割合が全体と比較して高かった。

■ 卒業学科の内訳



Q47(1) 【カリキュラムへの反映】 × Q1 【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

Q47(2). 前項で「⑤わからない」という回答以外の理由(自由記述)

コア I・II、その他授業、行事教育に反映されている

上記 Q47(1)において「①そう思う」(12 名)「②ある程度そう思う」(21 名)と回答したグループ(33 名)ではコア I・II、その他授業、行事教育に反映されていると回答した。他方、「③あまりそう思わない」(16 名)「④そう思わない」(1 名)と回答したグループ(17 名)は、関連性が明確でない、受身型の授業が多かった、教職員が理解して教えていなかったと回答した。

「①そう思う」「②ある程度そう思う」と回答したグループ (n=33)

コア I	13
授業	8
行事教育	7
教職員	7
コア II	2
考えさせる教育	2
環境	2
選択科目	1
碑	1
教育信条	1
カリキュラムの硬直性	1
施設・設備	1
計	46

「③あまりそう思わない」「④そう思わない」と回答したグループ (n=17)

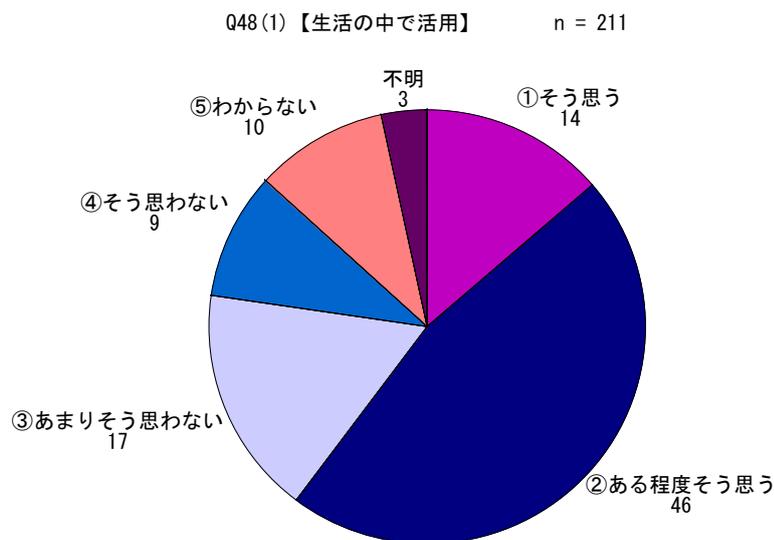
関連性	7
授業	5
教職員	3
意識・記憶にない	2
施設・設備	1
一貫性	1
大学	1
計	20

Q48(1). 現在の生活の中で本学の使命や教育信条が生かされていると思いますか

60%が「そう思う」、「ある程度そう思う」

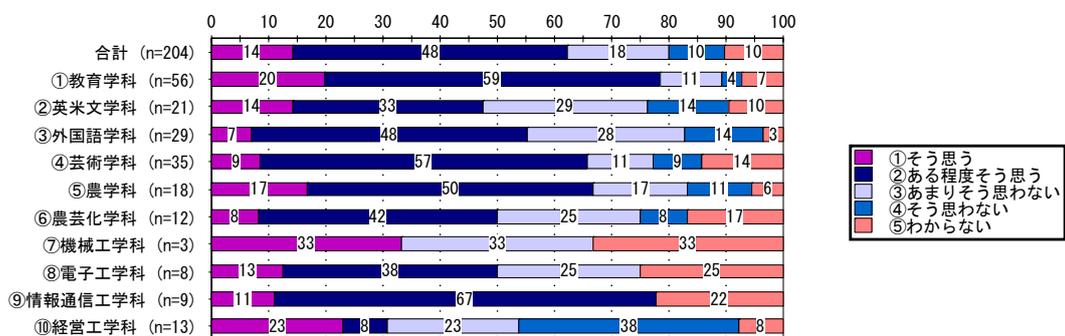
生活の中で本学の使命や教育信条が生かされていると思うかを尋ねたところ、14%が「そう思う」、46%が「ある程度そう思う」、17%が「あまりそう思わない」、9%が「そう思わない」と回答した。

<2007年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q48(1)【生活の中で活用】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

この設問の結果に影響を与えたと考えられる項目としては、Q46(1)の「本学の使命や教育信条の理解」、Q47(1)の「教育信条のカリキュラムへの反映」などがあり、それぞれ「①よく理解していた」を選択したグループ、「①そう思う」を選択したグループは、この設問において高い評価をしていた。この他にも、この設問で「①そう思う」を選択したグループは Q13 の「本学の“学費”」に関して「①高い」を選択した割合がそれ以外のグループと比較して低かった。

また、この設問で「①そう思う」を選択したグループは Q10 入学時の期待に関して「①全人教育」を選択した割合がそれ以外のグループと比較して高いという傾向も認められた。

Q48(2). 前項で「⑤わからない」という回答以外の理由(自由記述)

教育理念、モットーが日常に、業務で、心の支えとして

上記 Q48(1)において「①そう思う」(13 名)「②ある程度そう思う」(26 名)と回答したグループ(39 名)は教育理念、モットーが日常生活や教育現場・業務において生かされている、心の支えとなったと回答した。一方、「③あまりそう思わない」(8 名)「④そう思わない」(5 名)「⑤わからない」(1 名)と回答したグループ(14 名)の半数以上は、意識していない、忘れていたという回答であった。

「①そう思う」「②ある程度そう思う」と回答したグループ(n=39)(複数分類)

内容

機会

教育理念	28
モットー	8
友人	1
碑	1
自然	1
計	39

日常	14
教育現場・業務	11
心の支え	6
人間関係	4
子育て	2
卒業後	2
計	39

「③あまりそう思わない」「④そう思わない」「⑤わからない」と回答したグループ(n=14)(複数分類)

意識していない・忘れていた	8
勉強と実務の関連性	2
賛同していない	1
理解していなかった	1
活かしていない	1
伝えられていない	1
計	14

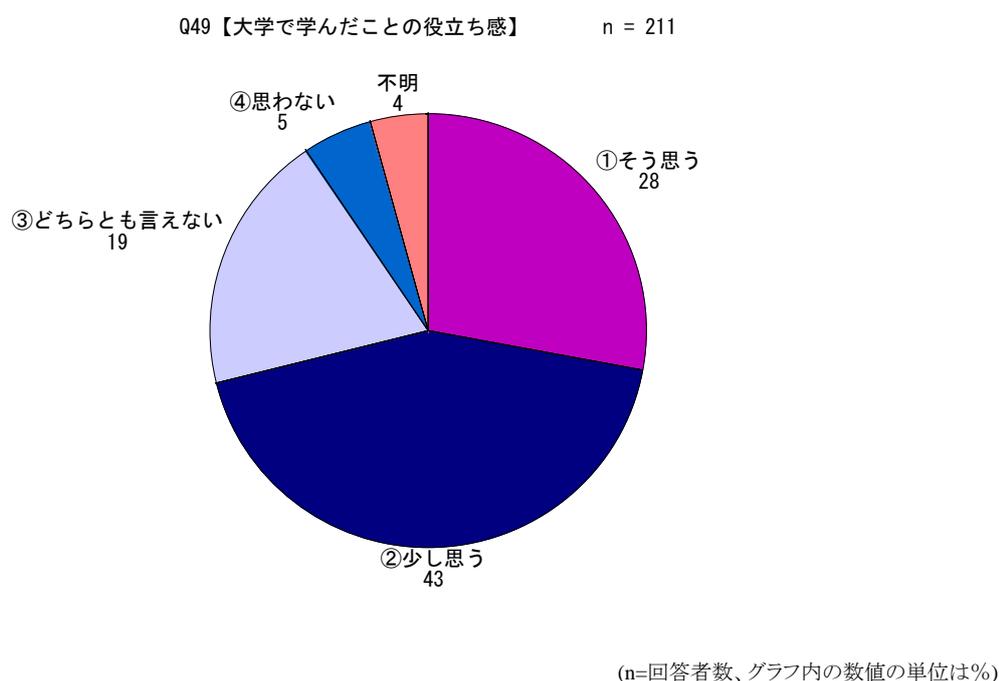
7. 満足度

Q49. 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか

71%が「そう思う」、「少し思う」

大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思うかを尋ねたところ、28%が「そう思う」、43%が「少し思う」、19%が「どちらとも言えない」、5%が「思わない」と回答した。

<2007年>

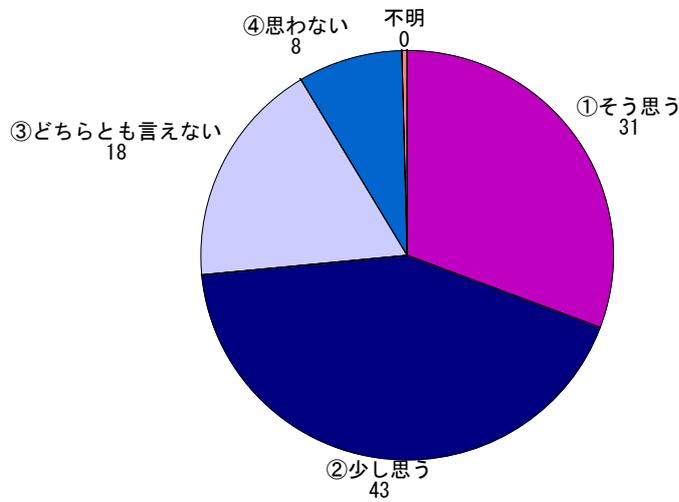


この設問の結果に影響を与えたと考えられる項目としては、Q18の「授業努力」、Q19の「打ち込めた科目」、Q20の「意見や考えを求められる授業」、Q21の「資格取得につながる科目」、Q23の「熱意を感じた先生」、Q24の「卒業研究担当教員の指導」、Q34の「就職指導や就職ガイダンス」、Q48(1)の「大学で学んだことの生活の中で活用」などあった。これらの設問で高い評価をしたグループは、「大学で学んだことの役立ち感」においても高い評価をしていた。

また、これ以外にも、Q16の「誇れること」で「①師弟関係」を選択したグループ、Q17の「期待すること」で「②基礎的な専門知識」、「④社会人としてのマナー」を選択したグループ、Q46(1)の「本学の使命や教育信条の理解」に関して「①よく理解していた」を選択したグループ、Q47(1)の「教育信条のカリキュラムへの反映」に関して「①そう思う」を選択したグループは、この設問において高い評価をしていた。

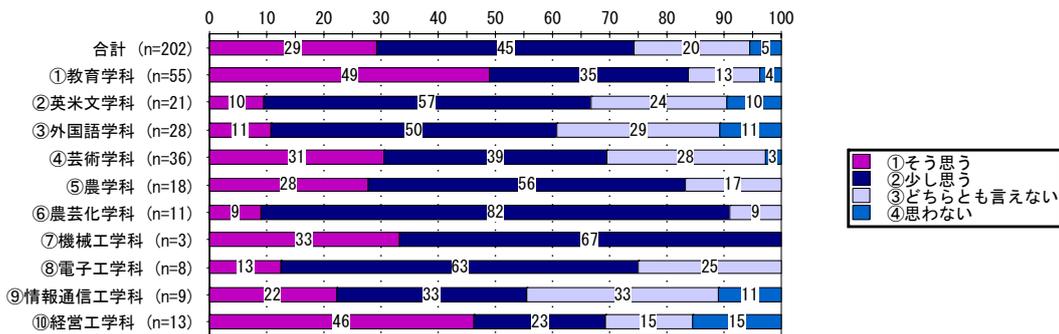
<1998年>

Q47【大学で学んだことの役立ち感】 n = 594



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q49【大学で学んだことの役立ち感】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

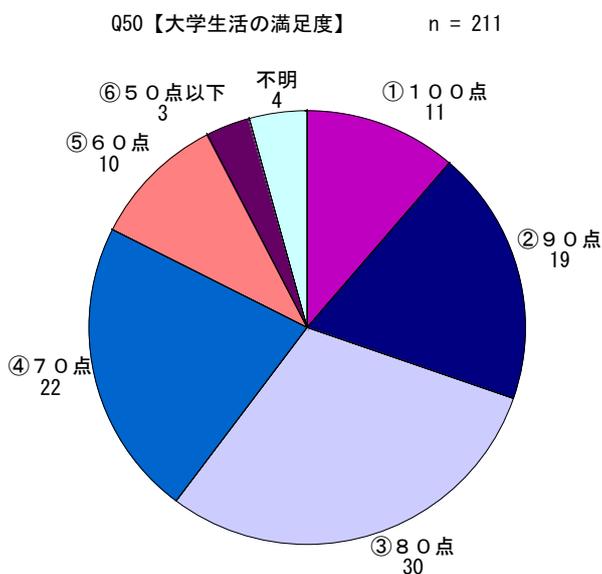
この設問で「そう思う」を選択したグループの入学時の属性について調べてみると、Q1の「卒業学科」においては「①教育学科」を選択した人、Q7の「受験理由」に関しては「取得資格・免許」を選択した人、Q10の「入学時の期待」に関して「③資格の取得」を選択した人が全体と比較して高く、Q4の「職業」に関しては「①民間企業」を選択した割合が全体と比較して低かった。

Q50. 大学生生活の満足度は100点満点中どのくらいですか

80点以上は60%で前回より若干減少

大学生生活の満足度について尋ねたところ、11%が「100点(-3)」、19%が「90点(-5)」、30%が「80点(+2)」と回答し、80点以上は合わせて60%となった。前回は、80点以上が66%だったので、総合的な満足度としては若干スコアを落とした。

<2007年>

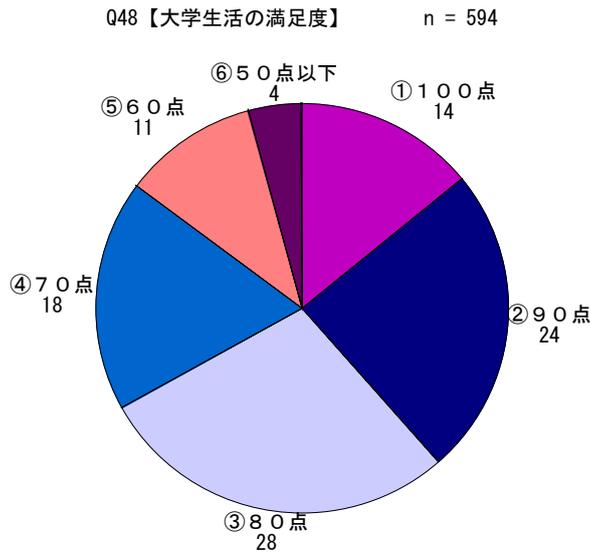


(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

クロス集計により大学生生活の満足度を高めると考えられる要因を拾い出すと、「熱意を感じた先生がたくさんいること(Q23)」、「打ち込めた科目がたくさんあること(Q19)」、「卒業研究担当教員の指導に満足していること(Q24)」などがあげられた。また、大学生生活の満足度と強い正の相関があるものには、「本学を勧める(Q11)」、「大学で学んだことは役立つと思う(Q49)」などがあつた。

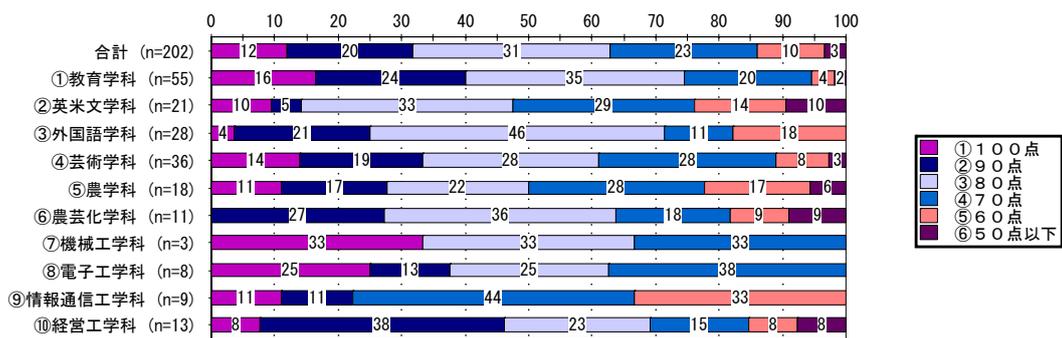
また、この他にも、師弟関係、友人(以上 Q16)、研修行事、音楽祭、コスモス祭、体育祭(以上 Q31)、授業努力ができたこと(Q18)、参加できる授業であると感じられたこと(Q20)、資格につながる授業がたくさんあると感じられたこと(Q21)、就職指導や就職ガイダンスが充実していると感じられたこと(Q34)、本学の使命や教育信条がよく理解できていたと感じられたこと(Q46(1))、本学の使命や教育信条がカリキュラムに反映されていたと感じられたこと(Q47(1))、本学の使命や教育信条が生活に役立つと感じられたこと(Q48(1))などが大学生生活の満足度を高めると考えられる要因として抽出された。

<1998年>



(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

■ 卒業学科の内訳



Q50【大学生生活の満足度】 × Q1【卒業学科】

(n=回答者数、グラフ内の数値の単位は%)

また満足度が比較的高いグループとして、教育学科(Q1)、受験理由で校風を選択したグループ(Q7)、志望順位が第一志望であったグループ(Q8)、入学時に全人教育を期待していたグループ、入学時に資格の取得を期待していたグループ(以上 Q10)、社会人としてのマナー(Q17)、教員に満足したグループ(Q23「熱意」、Q24「卒業研究」)などがあつた。

III. 資 料

1. マークシート用紙
2. 自由記述用紙

- 記入は、100の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合は、プラスチック消しゴムでていねいに消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。



Q 1. 卒業学科を教えてください	① 教育学科	② 英米文学科	③ 外国語学科	④ 芸術学科	⑤ 農学科	⑥ 農芸化学科	⑦ 機械工学科	⑧ 電子工学科	⑨ 情報通信工学科	⑩ 経営工学科					
Q 2. 性別を教えてください	① 男性	② 女性													
Q 3. 年齢を教えてください	① 29歳以下	② 30~34歳	③ 35歳以上												
Q 4. 職業を教えてください	① 民間企業	② 教員	③ 公務員(公務)	④ 法人職員	⑤ 自営業	⑥ その他サービス業	⑦ 派遣(社員・職員)	⑧ パート・アルバイト	⑨ 学生	⑩ 専業主婦	⑪ 無職	⑫ その他()			
Q 5. 本学受験を決めた時期はいつごろですか	① 中学生時代	② 高校1年生	③ 高校2年生	④ 高校3年生	⑤ 高校卒業後	⑥ その他()									
Q 6. 本学受験を決めたきっかけはなんですか(複数可)	① 教師に勧められた	② 親・親戚に勧められた	③ 知人・友人に勧められた	④ 予備校より	⑤ 新聞・雑誌より	⑥ 自分で選んだ	⑦ その他()								
Q 7. 本学受験を決めた理由はなんですか(複数可)	① 校風	② 志望学科	③ 取得資格・免許	④ 教授陣	⑤ 自然環境	⑥ 施設・設備	⑦ 地理的条件	⑧ 学力	⑨ 受験科目	⑩ 入試日程	⑪ 親や周囲の人の勧め	⑫ その他()			
Q 8. 本学の志望順位はどこですか	① 第一志望	② 第二志望	③ 第三志望	④ 前記以外											
Q 9. 本学への入学形態はどれですか	① 一般入学試験	② 推薦入学試験	③ 学内入学試験(高等部)	④ 帰国子女入学試験											
Q 10. 入学時に期待していたことはなんですか(複数可)	① 全人教育	② 専門分野の学習	③ 資格の取得	④ 友人	⑤ 自由な時間	⑥ 特になかった	⑦ その他()								
Q 11. 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか	① 勧める	② まあまあ勧める	③ わからない	④ 勧めない											
Q 12. 本学のイメージはあなたの周囲ではどのようであると思いますか(複数可)	① 知名度が高い	② 校名を知っている程度	③ お坊ちゃん、お嬢ちゃん学校	④ 施設・設備が充実している	⑤ 幼稚園から大学まである	⑥ 学費が高い	⑦ よく知られていない	⑧ その他()							
Q 13. 本学の"学費"は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか	① 高い	② やや高い	③ 適正である	④ やや低い	⑤ 低い										
Q 14. 本学の教育において不満を感じたものはなんですか。また、その理由はなんですか((1) (2) (3) よりそれぞれ1つを選択) ・不満を感じたもの: * (1) (2) (3) の選択肢の内容は全く同じです。それぞれの枠から1つを選択してください。 ただし、すべての枠において選択肢を選ぶ必要はありません。 ・不満を感じた理由: * 上欄で選んだ項目について理由を以下の選択肢より1つ選択してください。															
(1) 不満を感じたもの	① 教員	② 職員	③ 学部・学科	④ 図書館の専門書	⑤ 取得可能資格	⑥ 教室	⑦ 実験・研究設備	⑧ 視聴覚施設	⑨ コンピュータ施設	⑩ 体育施設	⑪ 学生厚生施設	⑫ 食堂	⑬ 冷暖房設備	⑭ 特になかった	⑮ その他()
不満を感じた理由	① 数量的に不満	② 質的に不満	③ 数量的にも質的にも不満	④ その他()											
(2) 不満を感じたもの	① 教員	② 職員	③ 学部・学科	④ 図書館の専門書	⑤ 取得可能資格	⑥ 教室	⑦ 実験・研究設備	⑧ 視聴覚施設	⑨ コンピュータ施設	⑩ 体育施設	⑪ 学生厚生施設	⑫ 食堂	⑬ 冷暖房設備	⑭ 特になかった	⑮ その他()
不満を感じた理由	① 数量的に不満	② 質的に不満	③ 数量的にも質的にも不満	④ その他()											
(3) 不満を感じたもの	① 教員	② 職員	③ 学部・学科	④ 図書館の専門書	⑤ 取得可能資格	⑥ 教室	⑦ 実験・研究設備	⑧ 視聴覚施設	⑨ コンピュータ施設	⑩ 体育施設	⑪ 学生厚生施設	⑫ 食堂	⑬ 冷暖房設備	⑭ 特になかった	⑮ その他()
不満を感じた理由	① 数量的に不満	② 質的に不満	③ 数量的にも質的にも不満	④ その他()											
Q 15. 卒業後本学を訪ねたことがありますか	① 10回以上	② 5~9回	③ 3~4回	④ 1~2回	⑤ ない										
Q 16. 本学の卒業生として誇れることはなんですか(複数可)	① 師弟関係	② カリキュラム	③ 友人	④ 自然環境	⑤ 施設・設備	⑥ 卒業研究	⑦ 研修行事	⑧ 特になかった	⑨ その他()						
Q 17. 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか(複数可)	① 一般知識	② 基礎的な専門知識	③ 高度な専門知識	④ 社会人としてのマナー	⑤ 語学力	⑥ 国際感覚	⑦ 資格取得	⑧ 他大学との単位互換	⑨ その他()						
Q 18. 授業内容の理解に努力しましたか	① たくさんした	② 少しした	③ あまりしなかった	④ しなかった											
Q 19. 自分が打ち込める科目はありましたか	① たくさんあった	② 少しあった	③ あまりなかった	④ なかった											
Q 20. 意見や考えを求められる授業はありましたか	① たくさんあった	② 少しあった	③ あまりなかった	④ なかった											
Q 21. 資格取得につながる科目はありましたか	① たくさんあった	② 少しあった	③ あまりなかった	④ なかった											
Q 22. 在学中、資格取得や語学などの学校に通っていましたか(複数可)	① 語学、留学準備	② 国家資格	③ 職業と関連するもの	④ 通っていなかった	⑤ その他()										
Q 23. 授業等において熱意を感じる先生はいましたか	① たくさんいた	② 少しいた	③ あまりいなかった	④ いなかった											
Q 24. 卒業研究担当教員の指導に満足しましたか	① 満足した	② まあまあ満足した	③ どちらとも言えない	④ 満足しなかった											
Q 25. 不安や悩みを相談した相手は誰ですか(複数可)	① 友人	② 両親	③ 兄弟姉妹	④ 担任	⑤ 担任以外の教員	⑥ 学生センター(学生部)	⑦ その他()								
Q 26. アルバイトはしていましたか	① 週末のみ	② 長期休暇中	③ 平日夜間	④ 平日日中週数回	⑤ 平日日中ほぼ毎日	⑥ していなかった									
Q 27. クラブ・サークル活動に参加していましたか(主とするもの)	① 体育会	② 文化会	③ 学内サークル	④ 学外サークル	⑤ 参加していなかった										
Q 28. コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか(主とするもの)	① 実行委員	② クラブ部展	③ 学科・学部展スタッフ	④ 模擬店	⑤ 見学者として	⑥ 参加しなかった									
Q 29. 昼食はどのようにとっていましたか(主とするもの)	① 学内食堂	② 弁当持参	③ 学外で購入	④ 学外で食べる	⑤ その他()										
Q 30. 空き時間によく利用した場所はどこですか(複数可)	① 学内食堂	② 空き教室	③ 視聴覚施設	④ 図書館	⑤ コンピュータ施設	⑥ 体育施設	⑦ 学外の喫茶店など	⑧ その他()							
Q 31. 印象に残っている行事はなんですか(複数可)	① 体育祭	② 音楽祭	③ コスモス祭	④ 収穫祭	⑤ 研修行事	⑥ 企業・工場見学	⑦ 新入生研修	⑧ 特になかった	⑨ その他()						

- Q32. 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか(複数可) ① 会社の知名度 ② 給与 ③ 勤務時間や休日など ④ 職種
⑤ 業種 ⑥ 勤務地 ⑦ 仕事のやりがい度 ⑧ 社会・公共への貢献度
⑨ 安定性・将来性 ⑩ 正社員就職 ⑪ 就職活動をしなかった ⑫ その他()
- Q33. 就職活動時に参考にした情報源はなんですか(複数可) ① 本学の就職情報資料 ② 就職情報誌 ③ 新聞
④ 就職情報サイト(リクナビ等) ⑤ 就職指導教職員の助言 ⑥ 先輩の助言
⑦ 会社案内のダイレクトメール ⑧ 就職活動をしなかった ⑨ その他()
- Q34. 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか ① 充実していた ② 少し充実していた ③ どちらとも言えない
④ 充実していなかった ⑤ 就職活動をしなかった
- Q35. 就職指導の観点から重要だと感じたものはなんですか(複数可) ① 就職ガイダンス ② 個人指導 ③ 講座・講習会・模試の実施
④ 模擬面接 ⑤ 求人情報の提供 ⑥ 低学年からのキャリア教育
⑦ 就職指導を受けなかった ⑧ その他()
- Q36. 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものはなんですか(複数可) ① 一般知識 ② 専門知識・技術 ③ 取得資格
④ コミュニケーション能力 ⑤ 積極性・行動力 ⑥ 就職への意欲 ⑦ 就職情報量 ⑧ 英語力 ⑨ 数学力
⑩ パソコン操作 ⑪ 社会人としてのマナー ⑫ 特にない ⑬ 就職活動をしなかった ⑭ その他()
- Q37 (1). 最初の就職先に現在も勤務していますか(複数可) ① 勤務している ② 勤務しているが転職を考えている ③ 1年目に転職した
④ 2年目に転職した ⑤ 3年目に転職した ⑥ 4年目以降に転職した
⑦ 現在仕事をしていない ⑧ 卒業時、就職しなかった ⑨ その他()
- Q37 (2). 前項で「転職した」と回答した方はお答えください。最初に転職した理由はなんですか(複数可) ① 仕事内容 ② 専門性やスキルを高めたい
③ 職場の雰囲気 ④ 年収を増やしたい ⑤ 勤務時間、休日などの労働条件 ⑥ 転勤のない職場で働きたい
⑦ 会社の成長力、将来性 ⑧ 会社の知名度 ⑨ 実力主義、能力主義の会社で働きたい ⑩ その他()
- Q38. 最初の就職後、自分に不足していたと感じた能力はなんですか(複数可) ① 企画力・創造力 ② 問題解決力・分析力 ③ 判断力
④ データ処理力・事務処理力 ⑤ ストレスコントロール力 ⑥ リーダーシップ ⑦ 協調性 ⑧ 幅広い教養
⑨ 英語力 ⑩ 卒業時、就職しなかった ⑪ 特にない ⑫ その他()
- Q39. もう一度学びたい分野はありますか(複数可) ① 人文科学 ② 社会科学 ③ 外国語学 ④ 国際関係学 ⑤ 理学
⑥ 工学 ⑦ 農学 ⑧ 教育・体育 ⑨ 芸術 ⑩ 特にない ⑪ その他()
- Q40 (1). もう一度学ぶ場合の手段はなにを選びますか(複数可) ① 通信教育 ② 社会人の編入(大学3年次) ③ 大学院(昼夜) ④ 公開講座
⑤ 科目等履修生・聴講生 ⑥ 放送大学 ⑦ 専門・専修学校 ⑧ 留学 ⑨ 企業内研修 ⑩ 特にない ⑪ その他()
- Q40 (2). 前項で「⑩特にない」と回答した方以外はお答えください。もう一度学ぶ場合形態はなにを選びますか
① 対面授業(講義・演習) ② eラーニング(インターネット等) ③ 対面授業とeラーニングの複合
④ 通信教育(郵送等) ⑤ 対面授業と通信教育の複合 ⑥ その他()
- Q41. 現在取得している資格をグレードアップしたいですか ① そう思う ② 少し思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 取得していない
- Q42. 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか ① 時間 ② 費用 ③ 地理的条件
④ 家族の理解・協力 ⑤ 意思・意欲 ⑥ その他()
- Q43. 本学公開講座についてどのような「地理的条件」であれば参加したいですか ① 学内(玉川学園構内) ② 学外(職場近辺) ③ 学外(自宅近辺)
④ 参加したくない ⑤ わからない
- Q44. 本学公開講座についてどのような「時間的条件」であれば参加したいですか(複数可) ① 仕事の始まる前(早朝) ② 仕事の終わった後(夜)
③ 土曜日の午前 ④ 土曜日の午後 ⑤ 土曜日の夜 ⑥ 休日の午前
⑦ 休日の午後 ⑧ 休日の夜 ⑨ 短期集中型 ⑩ その他()
- Q45. 現在興味・関心のあることはなんですか(複数可) ① 語学 ② 芸術 ③ 音楽 ④ コンピュータ ⑤ 教育 ⑥ 旅行
⑦ スポーツ ⑧ 料理 ⑨ 園芸 ⑩ 歴史・文化 ⑪ その他()
- * 同封の「本学の使命・玉川教育12信条」をご覧ください。**
- Q46 (1). 在学中に本学の使命や教育信条を理解していましたか ① よく理解していた ② ある程度理解していた ③ あまり理解していなかった ④ 理解していなかった
- Q46 (2). Q46 (1) で「①よく理解していた」または「②ある程度理解していた」と回答した方はお答えください。
何によって本学の使命や教育信条を理解していましたか(複数可) ① 授業 ② 入学案内 ③ ホームページ ④ その他()
- Q46 (3). Q46 (1) で「③あまり理解していなかった」または「④理解していなかった」と回答した方はお答えください。
本学の使命や教育信条を理解していなかった理由はなんですか ① 機会がなかった ② 必要なかった ③ 興味がなかった ④ その他()
- Q47 (1). 本学の使命や教育信条がカリキュラムに反映していたと思いますか ① そう思う ② ある程度そう思う
③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ わからない
- Q47 (2). 前項で「⑤わからない」と回答した方以外の方はお答えください。その理由を教えてください(自由記述)
- Q48 (1). 現在の生活の中で本学の使命や教育信条が生かされていると思いますか ① そう思う ② ある程度そう思う
③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ わからない
- Q48 (2). 前項で「⑤わからない」と回答した方以外の方はお答えください。その理由を教えてください(自由記述)
- Q49. 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか ① そう思う ② 少し思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない
- Q50. 大学生活の満足度は100点満点中どのくらいですか ① 100点 ② 90点 ③ 80点 ④ 70点 ⑤ 60点 ⑥ 50点以下

ご協力ありがとうございました。

より魅力と活力に溢れる玉川大学の教育創造のための基礎調査

◎自由記述

本学の教育等についてご意見やご希望をお書きいただければ幸いです。

1. 玉川大学の改革全般について…

2. 入試・広報について…

3. 教育内容について…

4. 学生生活について…

5. 就職について…

6. 継続学習について…

7. 同窓生に対するサービスについて…

8. その他…

ご協力ありがとうございました。

卒業生アンケート・ワーキンググループ

*所属・職名は2007年3月現在

教務関係専門分科会	河野 均	委員(まとめ役)
〃	岡本裕一朗	委員
〃	赤堀 実	委員
〃	太宰久夫	委員
入試広報関係専門分科会	黒木康之	委員
学生生活関係専門分科会	谷本 亮	委員
〃	香取幸一	委員
就職指導関係専門分科会	守田 靖	委員
継続学習関係専門分科会	水野 真	委員
〃	網野公一	委員
教 学 部 教 務 課	茂村恭司	課長
教 学 部 授 業 運 営 課	福田直泰	課長代理
教育企画部教育企画課	大野 太郎	課長
〃	河津真子	係長

活動記録

- 2007年 11月 ・第1回ワーキンググループ会議開催
- 2008年 2月 ・第2回ワーキンググループ会議開催
- 5月 ・第57回教育研究活動等点検調査委員会(結果報告)
- ・報告書作成・発行・Web サイト公開

**より魅力と活力に溢れる玉川大学の
教育創造のための基礎調査**

2008年5月発行

発行 玉川学園教育研究活動等点検調査委員会

編集 卒業生アンケート・ワーキンググループ